

# 浜岡原子力発電所

## 敷地の地質・地質構造（コメント回答）

### 補足説明資料 1 （過去資料における変更の経緯及び修正について）

2019年12月20日

1. 過去の資料からの変更点及びその経緯	2	【データ集1】
1.1 敷地の断層の平面分布図に関する相違及びその経緯	4	1. 敷地の断層の平面分布図関連資料
1.2 H断層系の分布把握に係る検討の変更点及びその経緯	12	2. H断層系分布図関連資料
(1) 鍵層となる凝灰岩層の深度に関する変更点及びその経緯	20	(1) 鍵層となる凝灰岩層写真（地質断面図）
i 過去の資料における鍵層となる凝灰岩層深度の確認	22	(2) 鍵層となる凝灰岩層写真（三次元分布図）
ii 今後用いる鍵層となる凝灰岩層深度	61	(3) H断層系写真（地質断面図）
(2) H断層系の深度に関する変更点及びその経緯	71	(4) H断層系と選定した断層の変更について
参考 今後用いるH断層系深度	82	別冊 ボーリング柱状図
(3) H断層系分布図の変更点及びその経緯	87	
i 過去の資料におけるH断層系分布図の変更点	89	
ii 今回の資料におけるH断層系分布図の変更点	117	
参考 今後用いるH断層系分布図	129	
2. 既提出資料の見直し・修正について	138	
(1) 4号原子炉建屋基礎地盤関連（第704回審査会合資料）	139	
(2) 地質柱状図関連（2019年2月20日ヒアリング資料）	151	

<過去の審査会合資料との関係について>  
過去の審査会合における既報告事項を含む頁には、既提出資料との関係についての注釈を頁右上に記載する。

（注釈例）

第443回 資料2-1

① ②  
p.14 追記  
③ ④

①資料を提出した審査会合開催回

②資料番号

③該当頁

④「一部修正」：既提出資料から評価を見直したものの、「追記」：既提出資料から評価の見直しはないものの、

記載の充実、適正化を図ったもの。

「再掲」：既提出資料から変更のないもの。

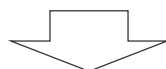
（スライドタイトルの変更等軽微な変更は含む。）

# 1

## 過去の資料からの変更点及びその経緯

## <コメントNo.70>

- 敷地の断層の平面分布図に記載した断層やH断層系の鉛直断面図におけるH断層や凝灰岩層の分布等、過去の資料から変更した点をデータに基づき詳細に説明すること。



## 【回答の概要】

審査会合資料については、常に、会合におけるコメントも踏まえた説明性の向上をはかるとともに、最新の調査や検討結果を反映するよう努めている。そのため、これらの資料中の図表類の中には、目的に適した記載内容となるよう見直したもののや、検討結果等の反映による記載事項の追加・更新により、会合毎に相違が生じているものがある。

これらの変更について、主なものは資料に記載し説明しているが、個々の細かな変更箇所については変更点や理由を明確に記載・説明していなかったため、今回あらためて資料に明記するとともに詳細に説明する。さらに、コメントを踏まえ当該資料を再確認し、データ引用元の統一や誤記等による修正箇所についても同様に資料に明記し説明する。

回答は、1.1「敷地の断層の平面分布図に関する相違及びその経緯」において、敷地の断層分布図に記載した断層の相違に関する説明を、1.2「H断層系の分布把握に係る検討の変更点及びその経緯」において、鍵層となる凝灰岩層やH断層の深度として記載した数値やH断層系分布図の変更点に関する説明を、それぞれ過去の資料との相違・変更点についてデータに基づき詳細に説明する。

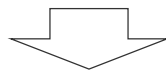
なお、これらの変更は、H断層系は将来活動する可能性のある断層等に該当しない、というH断層系に関する当社の活動性評価に影響を及ぼさない。

# 1.1

## 敷地の断層の平面分布図に関する 相違及びその経緯

## <コメントNo.70(1)>

- 敷地の断層の平面分布図に記載した断層について、過去の資料から変更した点をデータに基づき詳細に説明すること。



## <回答要旨>

- 活動性評価の対象とする断層の選定の説明にあたっては、3, 4, 5号炉建屋を中心とした構造物基礎における断層分布図を提示している。
- 第443回審査会合において提示した図は、敷地の断層の特徴を説明するためのものである。一方、第608回・第654回・第704回審査会合において提示した図は、開離型の逆断層-正断層間の関係を説明するための図であり、両者は提示目的の異なる図である。
- 両者とも同一の元データ（建屋基礎露頭断層分布図：ゆ着型・開離型断層の区分と、開離型断層については、正・逆断層の区分がわかるよう記載された図）から作成しているが、各会合で断層分布図の提示目的にあわせ、記載する断層の条件を変更したため、両者に相違が生じた。

# 各審査会合における断層分布図の提示目的の相違

- 活動性評価の対象とする断層の選定の説明にあたっては、3, 4, 5号炉建屋を中心とした構造物基礎における断層分布図を提示している。
- 第443回審査会合において提示した図は、敷地の断層の特徴を説明するためのものである。一方、第608回・第654回・第704回審査会合において提示した図は、開離型の逆断層-正断層間の関係を説明するための図であり、両者は提示目的の異なる図である。
- 両者とも同一の元データ（建屋基礎露頭断層分布図：ゆ着型・開離型断層の区分と、開離型断層については、正・逆断層の区分がわかるよう記載された図）から作成している。

## 各審査会合における説明の流れと断層分布図の提示目的

### 第443回審査会合

【断層分布図の提示目的】 敷地の断層の特徴を説明。



断層分布図掲載頁  
第443回審査会合  
資料2-1 p.50

#### 敷地の地質構造の概要

- 東西～北西—南東走向でほぼ平行に分布する正断層が数百mにわたって連続する。

#### 断層の分類

#### 断層の切り切れ関係の確認

- 小断層系はH断層系に切られるか合流している。

#### 活動性評価対象断層の選定

### 第608回・第654回・第704回審査会合 (説明の流れの細部は第704回審査会合におけるもの)

【断層分布図の提示目的】 開離型の逆断層-正断層間の関係を説明。



断層分布図掲載頁  
第704回審査会合  
資料1-1p.51

#### 敷地の地質構造の概要

#### 断層の分類

#### 断層の切り切れ関係の確認

- ゆ着型断層は、開離型に一方的に切られる。
- 開離型断層のうち、EW系逆断層及びNS系逆断層は、EW系正断層に切られる。
- EW系正断層のうち北傾斜断層は、南傾斜正断層に切られる。

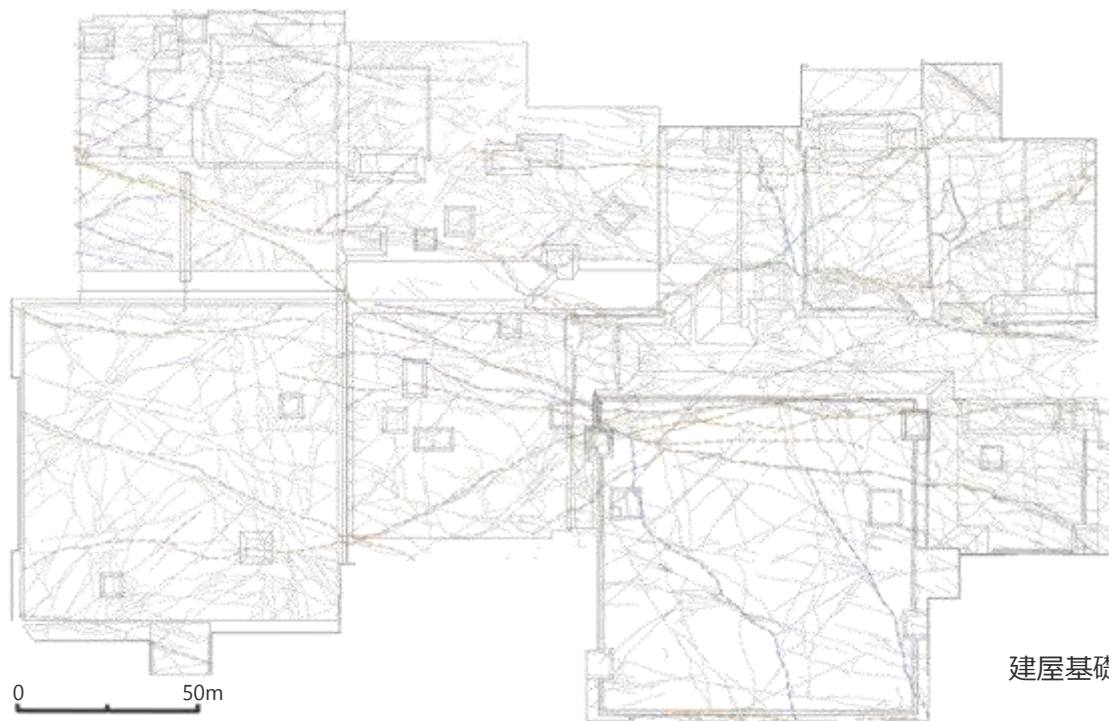
#### 活動性評価対象断層の選定

# 各審査会合における断層分布図の提示目的及び記載断層の相違

第443回審査会合において提示した断層分布図及び第608回・第654回・第704回審査会合において提示した断層分布図は、両者とも同一の元データ（建屋基礎露頭断層分布図：ゆ着型・開離型断層の区分と、開離型断層については、正・逆断層の区分がわかるよう記載された図）から作成しているが、各会合で断層分布図の提示目的にあわせ、記載する断層の条件を変更したため、両者に相違が生じた。

	第443回審査会合	第608回・第654回・第704回審査会合
断層分布図の提示目的	敷地の断層構造の特徴を説明。 ➡東西～北西—南東走向でほぼ平行に分布する正断層が数百mにわたって連続する。	開離型の逆断層-正断層間の関係を説明。 ➡EW系逆断層及びNS系逆断層は、EW系正断層に切られる。
断層分布図に記載する断層	連続性を持つ（可能性のある）断層から大局的な敷地の断層構造を検討するため、断層端部の片方または両方が調査範囲から外れ、長さが確認できない断層。	3,4,5号炉建屋基礎露頭において開離型の逆断層-正断層間の関係を検討するため、マップルな断層として構造物幅に相当する80m程度以上の連続性が確認された開離型断層※。 ※第608回会合では「連続性の良い断層」と表記

建屋基礎露頭断層分布図



実線：ゆ着型断層  
破線：開離型断層

建屋基礎露頭断層分布図の例  
(3,4号炉建屋)

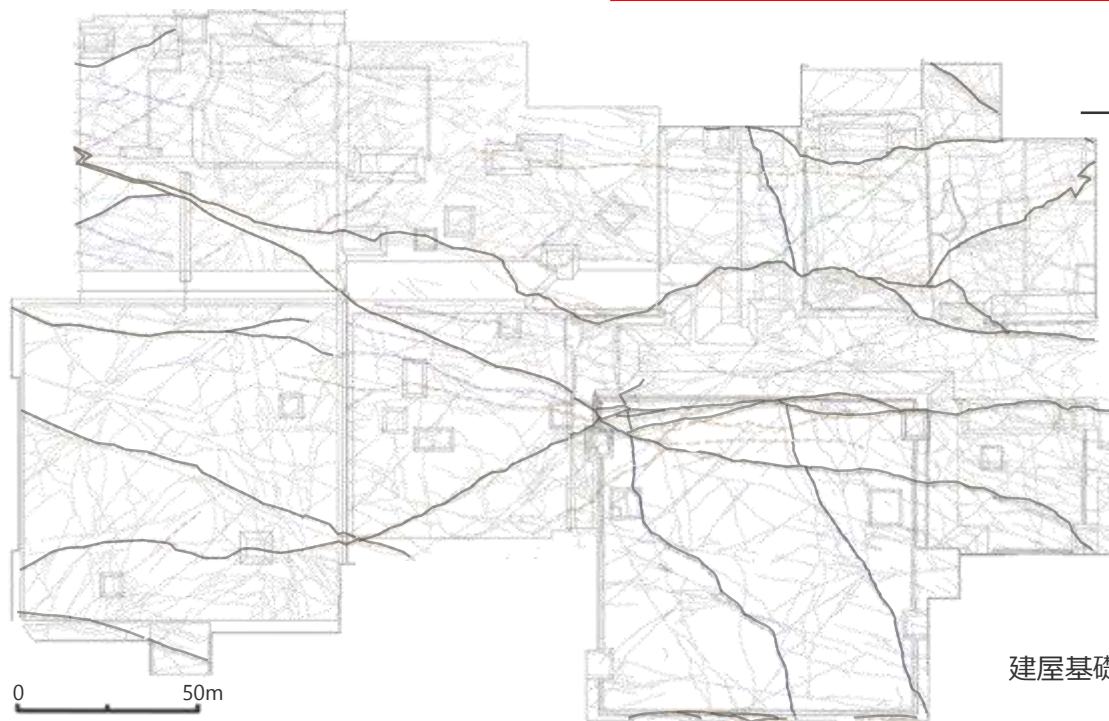


# 断層分布図の記載例（第443回審査会合）

第443回審査会合において提示した断層分布図及び第608回・第654回・第704回審査会合において提示した断層分布図は、両者とも同一の元データ（建屋基礎露頭断層分布図：ゆ着型・開離型断層の区分と、開離型断層については、正・逆断層の区分がわかるよう記載された図）から作成しているが、各会合で断層分布図の提示目的にあわせ、記載する断層の条件を変更したため、両者に相違が生じた。

	第443回審査会合	第608回・第654回・第704回審査会合
断層分布図の提示目的	敷地の断層構造の特徴を説明。 ➡東西～北西―南東走向でほぼ平行に分布する正断層が数百mにわたって連続する。	開離型の逆断層-正断層間の関係を説明。 ➡EW系逆断層及びNS系逆断層は、EW系正断層に切られる。
断層分布図に記載する断層	連続性を持つ（可能性のある）断層から大局的な敷地の断層構造を検討するため、断層端部の片方または両方が調査範囲から外れ、長さが確認できない断層。	3,4,5号炉建屋基礎露頭において開離型の逆断層-正断層間の関係を検討するため、マップルな断層として構造物幅に相当する80m程度以上の連続性が確認された開離型断層※。 ※第608回会合では「連続性の良い断層」と表記

建屋基礎露頭断層分布図



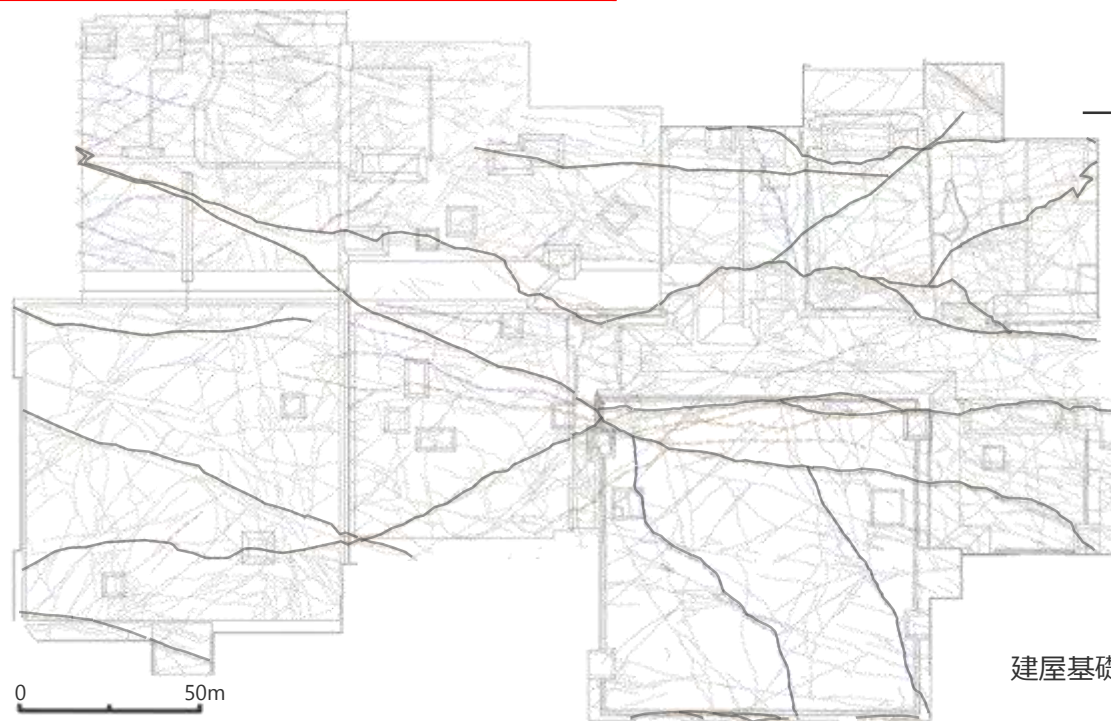
建屋基礎露頭断層分布図の例  
(3,4号炉建屋)

# 断層分布図の記載例（第608回・第654回・第704回審査会合）

第443回審査会合において提示した断層分布図及び第608回・第654回・第704回審査会合において提示した断層分布図は、両者とも同一の元データ（建屋基礎露頭断層分布図：ゆ着型・開離型断層の区分と、開離型断層については、正・逆断層の区分がわかるよう記載された図）から作成しているが、各会合で断層分布図の提示目的にあわせ、記載する断層の条件を変更したため、両者に相違が生じた。

	第443回審査会合	第608回・第654回・第704回審査会合
断層分布図の提示目的	敷地の断層構造の特徴を説明。 ➡東西～北西―南東走向でほぼ平行に分布する正断層が数百mにわたって連続する。	開離型の逆断層-正断層間の関係を説明。 ➡EW系逆断層及びNS系逆断層は、EW系正断層に切られる。
断層分布図に記載する断層	連続性を持つ（可能性のある）断層から大局的な敷地の断層構造を検討するため、断層端部の片方または両方が調査範囲から外れ、長さが確認できない断層。	3,4,5号炉建屋基礎露頭において開離型の逆断層-正断層間の関係を検討するため、マップブルな断層として構造物幅に相当する80m程度以上の連続性が確認された開離型断層※。 ※第608回会合では「連続性の良い断層」と表記

建屋基礎露頭断層分布図



断層分布図に記載した断層

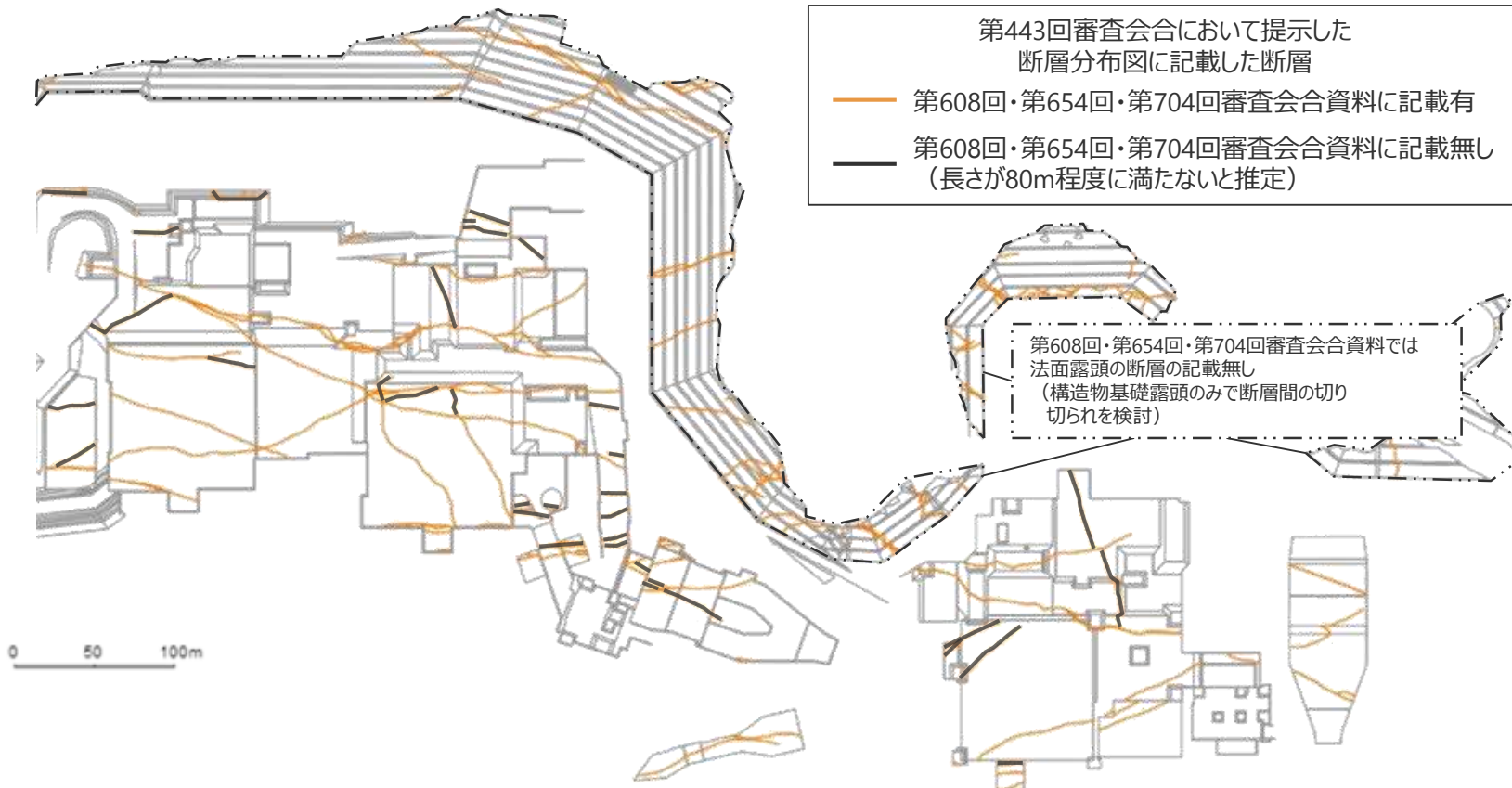
建屋基礎露頭断層分布図の例  
(3,4号炉建屋)

# (参考) 断層分布図の相違点 (第443回審査会合資料提示図面に加筆)

- 第443回審査会合において提示した断層分布図へ記載した断層の一部は、長さが構造物幅に相当する80m程度に満たないと推定されるため、第608回・第654回・第704回審査会合において提示した断層分布図へは記載していない。

【参考】各会合における断層分布図の提示目的及び記載断層の相違 (再掲)

	第443回審査会合	第608回・第654回・第704回審査会合
断層分布図の提示目的	敷地の断層構造の特徴を説明。	開離型の逆断層-正断層間の関係を説明。
断層分布図に記載する断層	断層端部の片方または両方が調査範囲から外れ、長さが確認できない断層。	マップルな断層として構造物幅に相当する80m程度以上の連続性が確認された開離型断層。

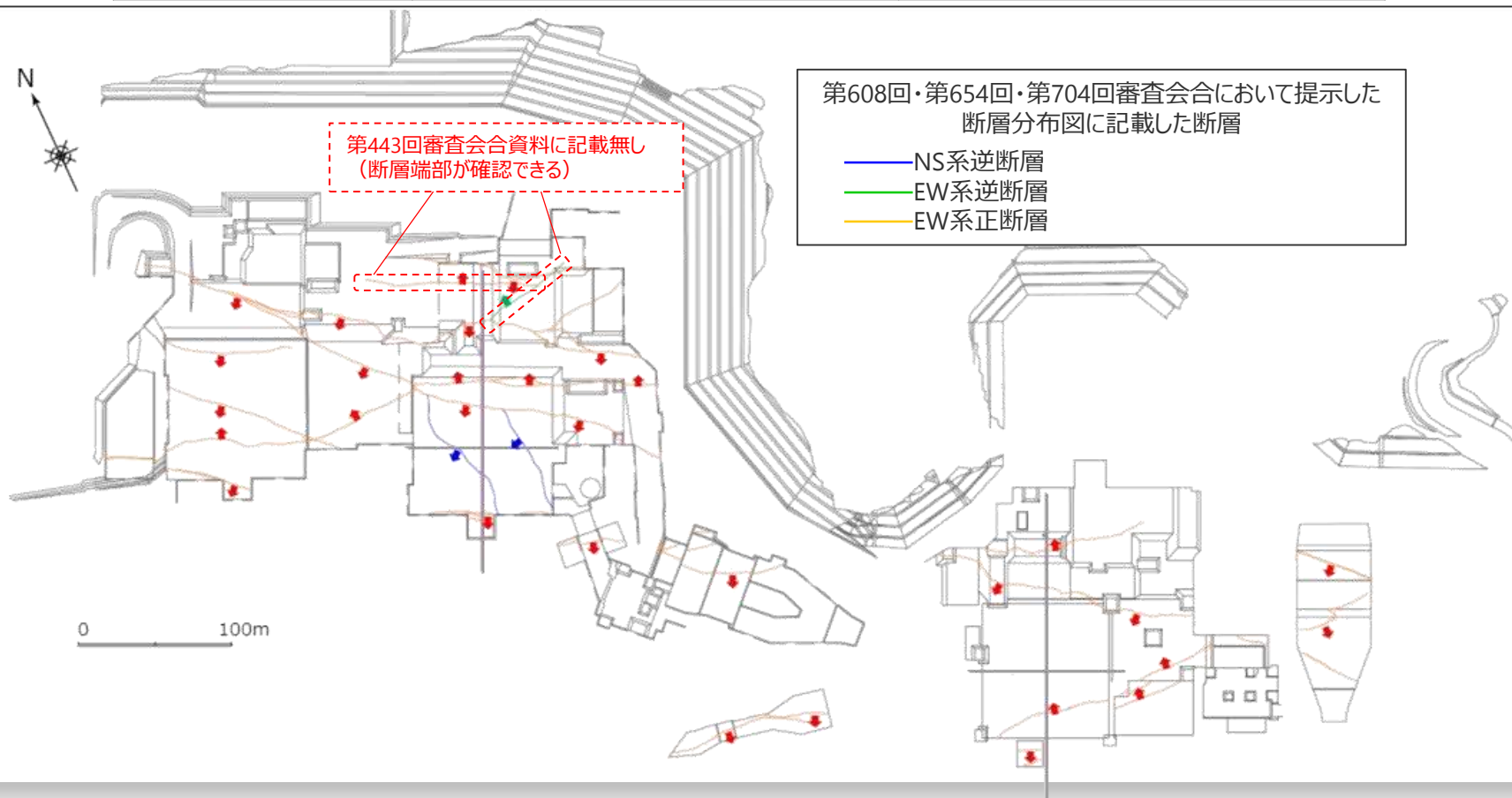


# (参考) 断層分布図の相違点 (第608回・第654回・第704回審査会合提示図面に加筆)

- 長さが構造物幅に相当する80m程度以上であるため、第608回・第654回・第704回審査会合以降の資料における断層分布図へ記載した断層のうち、断層端部が調査範囲内で確認できるものは第443回審査会合の資料における断層分布図へ記載していない。

【参考】各会合における断層分布図の提示目的及び記載断層の相違 (再掲)

	第443回審査会合	第608回・第654回・第704回審査会合
断層分布図の提示目的	敷地の断層構造の特徴を説明。	開離型の逆断層-正断層間の関係を説明。
断層分布図に記載する断層	断層端部の片方または両方が調査範囲から外れ、長さが確認できない断層。	マップルな断層として構造物幅に相当する80m程度以上の連続性が確認された開離型断層。



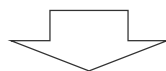
# 1.2

## H断層系の分布把握に係る検討の 変更点及びその経緯



## <コメントNo.70(2)>

- ・ H断層系の鉛直断面図におけるH断層や凝灰岩層の分布について、過去の資料から変更した点をデータに基づき詳細に説明すること。



## <回答要旨>

鍵層となる凝灰岩層やH断層系の分布に関する記載事項の相違は、ボーリングコアの観察結果そのものが見直されたものではなく、主な要因は、追加調査等の反映に加え、各会合におけるコメントを踏まえ、鍵層認定の信頼性向上（対比が確実な凝灰岩層に限定）、鍵層分布の三次元的な検討等によるボーリングにおけるH断層の選定箇所※の再検討により、H断層系の分布について、精度や説明性向上を図ったことによるものである。

変更の説明は、まず、H断層及び鍵層となる凝灰岩層に関する記載の変更の経緯の概要を説明したのち、具体的な変更箇所の説明として、はじめに、(1)H断層系の分布検討における基礎データとなる鍵層の分布深度の変更について、ついで、(2)これらのデータに基づき選定されたH断層のボーリングコアにおける認定箇所及び深度に関する変更について説明し、最後に(3)これらの結果を踏まえて検討した断面図の変更について説明する。

なお、これらの変更は、H断層系は将来活動する可能性のある断層等に該当しない、というH断層系に関する当社の活動性評価に影響を及ぼさない。

※ボーリングにおけるH断層系の選定箇所

- ・各ボーリングにおけるH断層系の選定は、ボーリングに認められる比較的破碎部の大きな断層の中から、鍵層に高度差が生じる区間を踏まえて選定している。

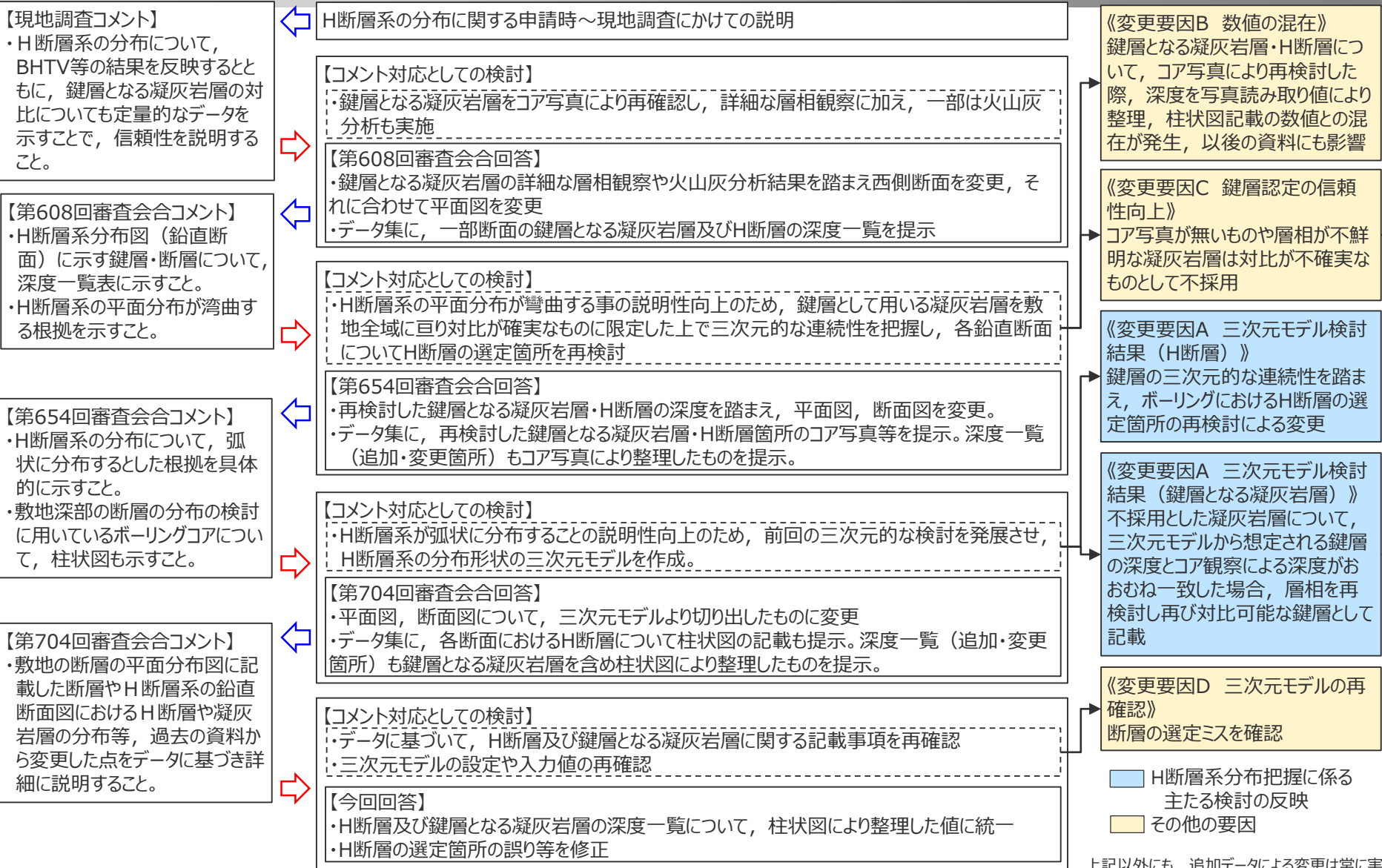
## H断層及び鍵層となる凝灰岩層の分布に関する資料記載事項の変更について

- 審査会合資料については、常に、会合におけるコメントも踏まえた説明性の向上をはかるとともに、最新の調査や検討結果を反映するよう努めている。
- 鍵層となる凝灰岩層やH断層系の分布に関する記載事項の相違は、ボーリングコアの観察結果そのものが見直されたものではなく、主な要因は、追加調査等の反映に加え、各会合におけるコメントを踏まえ、鍵層認定の信頼性向上（対比が確実な凝灰岩層に限定）、鍵層分布の三次元的な検討等によるボーリングにおけるH断層の選定箇所の再検討により、H断層系の分布について、精度や説明性向上を図ったことによるものである。
- また、今後も追加調査や分析結果等を反映するようなことがあれば、H断層系の分布に関する記載事項に変更が生じる場合もあるが、その際は、都度詳細な説明に努める。

## 資料記載事項の変更に伴うH断層系の活動性評価への影響について

- H断層系の分布形状については、当社は以下の評価をしている。  
『H断層系は走向傾斜及び落差が同傾向を示し、ほぼ同じ間隔で並走する落差が比較的大きい南落ちの正断層で、向斜軸部付近を中心に南に開いたゆるい弧状を呈する。』
- H断層系の分布の精度や説明性向上を図った結果、分布形状は若干見直されたものの、大きく変わるものではなく、上記分布形状に関する評価に変更を及ぼすようなものではない。
- さらに、H断層系の活動性評価においては、このH断層系の分布形状に関する評価に加え、H断層系の性状（『流動的な変形構造が認められる等の露頭・剥片観察結果や含有鉱物などの分析結果に類似性が認められる』）や深部構造（『地層の後方回転は深部では認められない等』）、H断層系の形成要因の検討結果から、H断層系が同一の地質学的場で形成された一連の断層群であると評価したのち、上載地層によりH-9断層が後期更新世以降活動していないと判断されることから、H断層系は将来活動する可能性のある断層等に該当しないと評価している。
- 上記のことから、これらH断層系分布に関する記載事項の変更は、H断層系は将来活動する可能性のある断層等に該当しない、というH断層系に関する当社の活動性評価に影響を及ぼさない。

# H断層及び鍵層となる凝灰岩層の分布に関する変更の経緯と主な要因



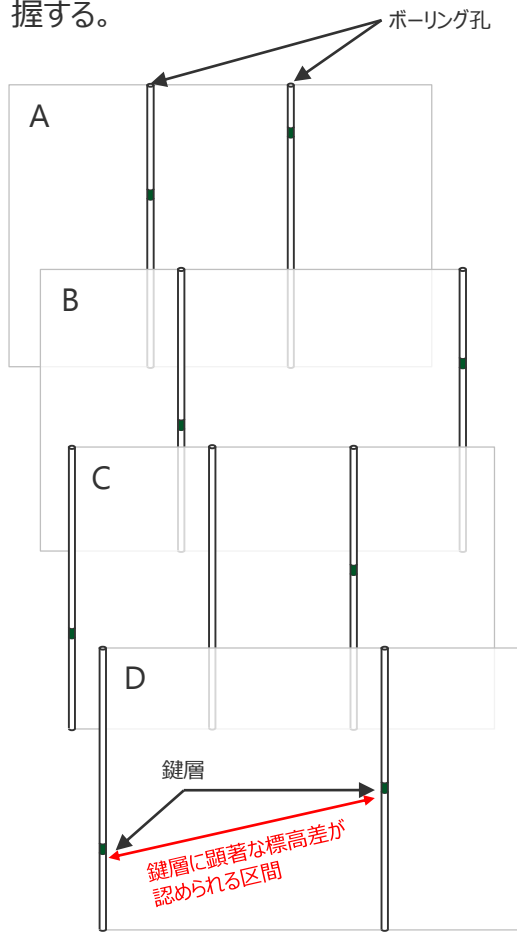


# H断層系の分布把握に係る検討内容の比較

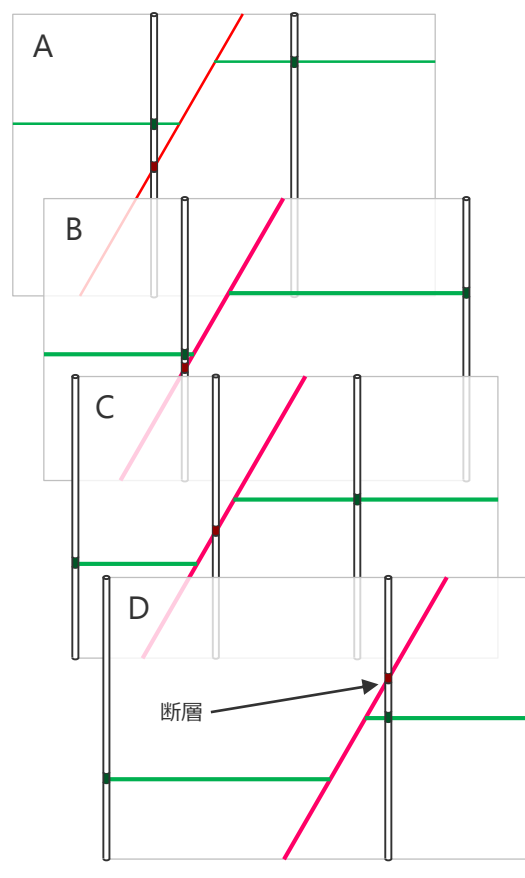
検討項目		申請～現地調査	現時点	備考
鍵層となる凝灰岩層の対比		層相による対比。 必要に応じ、層相の特徴の乏しい凝灰岩層も他の鍵層となる凝灰岩層との相対的な位置関係を参照して利用。	層相による対比。 必要に応じ火山灰分析も参照。 層相に顕著な特徴を有し敷地全域に亘り対比が確実なものに限定。	
H断層系の選定	鍵層の連続性の検討	各南北断面において、断面近傍に分布するボーリング孔を用いて鍵層の連続性を検討し、鍵層に顕著な標高差が認められる区間（H断層が想定される区間）を把握。	敷地全域に亘り鍵層の三次元的な連続性を検討し、鍵層の連続面（H断層が想定されない領域）を把握。	三次元的に鍵層の連続面を把握した結果、各断面上に、ボーリング孔はないものかなりの確度で鍵層の存在が推定される地点が出現。
	H断層の選定	ボーリングコアにおいて破砕部が比較的大きい断層箇所（H断層の大局的なセンス・傾斜）を想定した際、H断層が想定される区間を通過する（H断層が想定されない領域を通過することなく延伸する）断層をH断層とする。当該断層が複数ある場合は断層性状を比較し選定。		左記選定の考え方は変わらないが、同一の鍵層の連続面が変われば選定断層も変更する場合がある。
H断層系分布図の作成		鍵層の確認箇所やH断層の選定箇所を踏まえ、各南北断面図を作成したのち、東西断面分布、平面分布（水平断面図）、に拡張。	鍵層の三次元分布や、H断層の選定箇所を踏まえ作成した三次元モデルより、任意の断面を切り出して作成。	
(分布図の特徴)		<ul style="list-style-type: none"> <li>断面図ごく近傍のボーリングデータのみを用いるため、実データ位置が正確に断面図に反映される。</li> <li>隣接断面との連続性を厳密に検討することが難しく、平面分布の説明性が右記手法に劣る。</li> <li>断面から離れたボーリングデータが正確に反映されにくい。</li> <li>複雑な地質構造の把握が難しい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>データを面的に平滑化したモデルから断面図を作成するため、実データの位置が断面図に正確に反映されない場合があるが、その差は小さい。</li> <li>隣接断面との関係がより密接に検討されることから、平面分布の精度・説明性が向上。</li> <li>ボーリング位置に関わらず面的なデータが反映される。</li> <li>モデルの俯瞰により、敷地全体の三次元地質構造の把握が容易。</li> </ul>	

# 参考 申請～現地調査時のH断層系分布検討プロセス（概念）

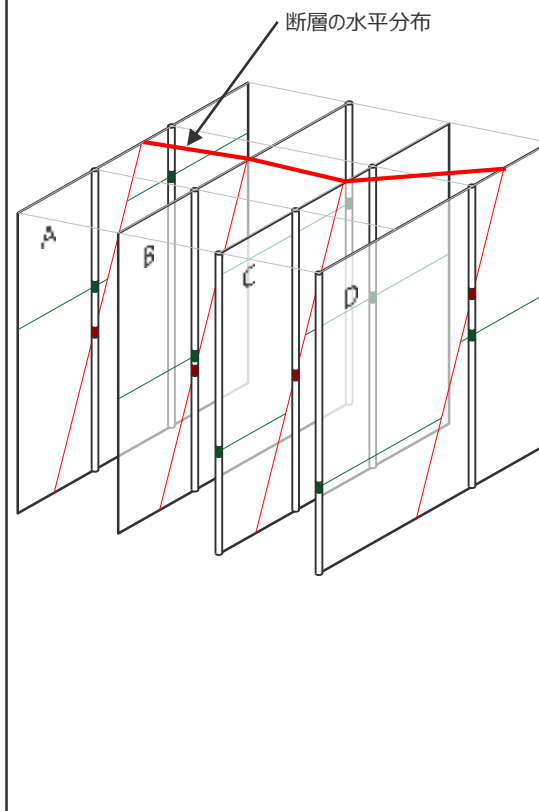
ボーリングコア等により鍵層及びその分布標高を確認し、各南北断面ごとに、地層の走向・傾斜を踏まえたうえで、鍵層に顕著な標高差が認められる区間を把握する。



ボーリングコアにおいて破碎部が比較的大きい断層箇所以南傾斜60度程度の正断層を想定した際、鍵層の標高差が認められる区間（H断層が想定される区間）を通過する断層をH断層とする。

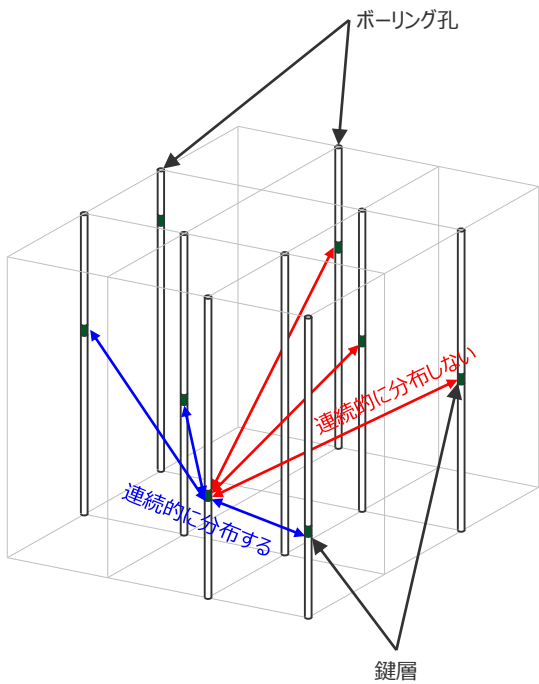


各断面の断層を繋ぎ、断層の平面分布を想定する。

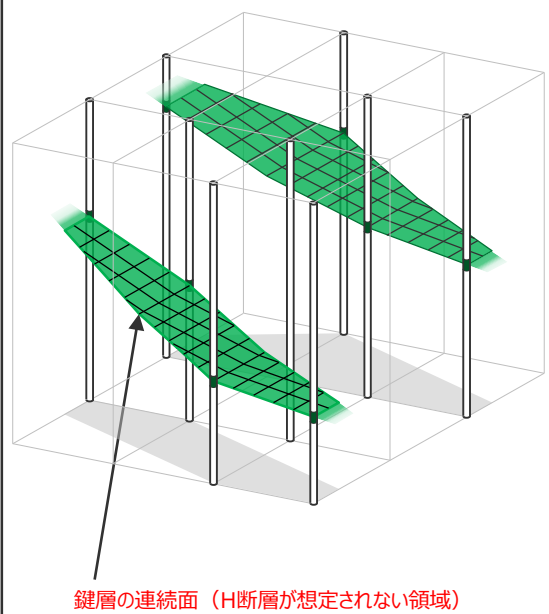


# 参考 現時点のH断層系分布検討プロセス（概念）

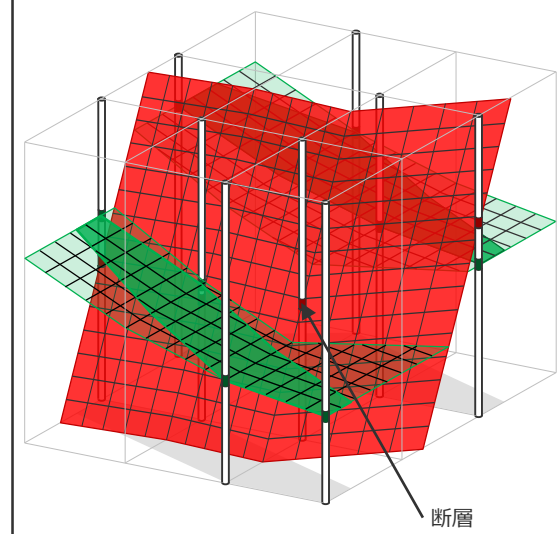
ボーリングコア等により鍵層及びその分布標高を確認し、隣接する鍵層について、地層の走向・傾斜を踏まえた鍵層の分布標高差の検討から、鍵層が連続的に分布するか否かを三次元的に検討する。



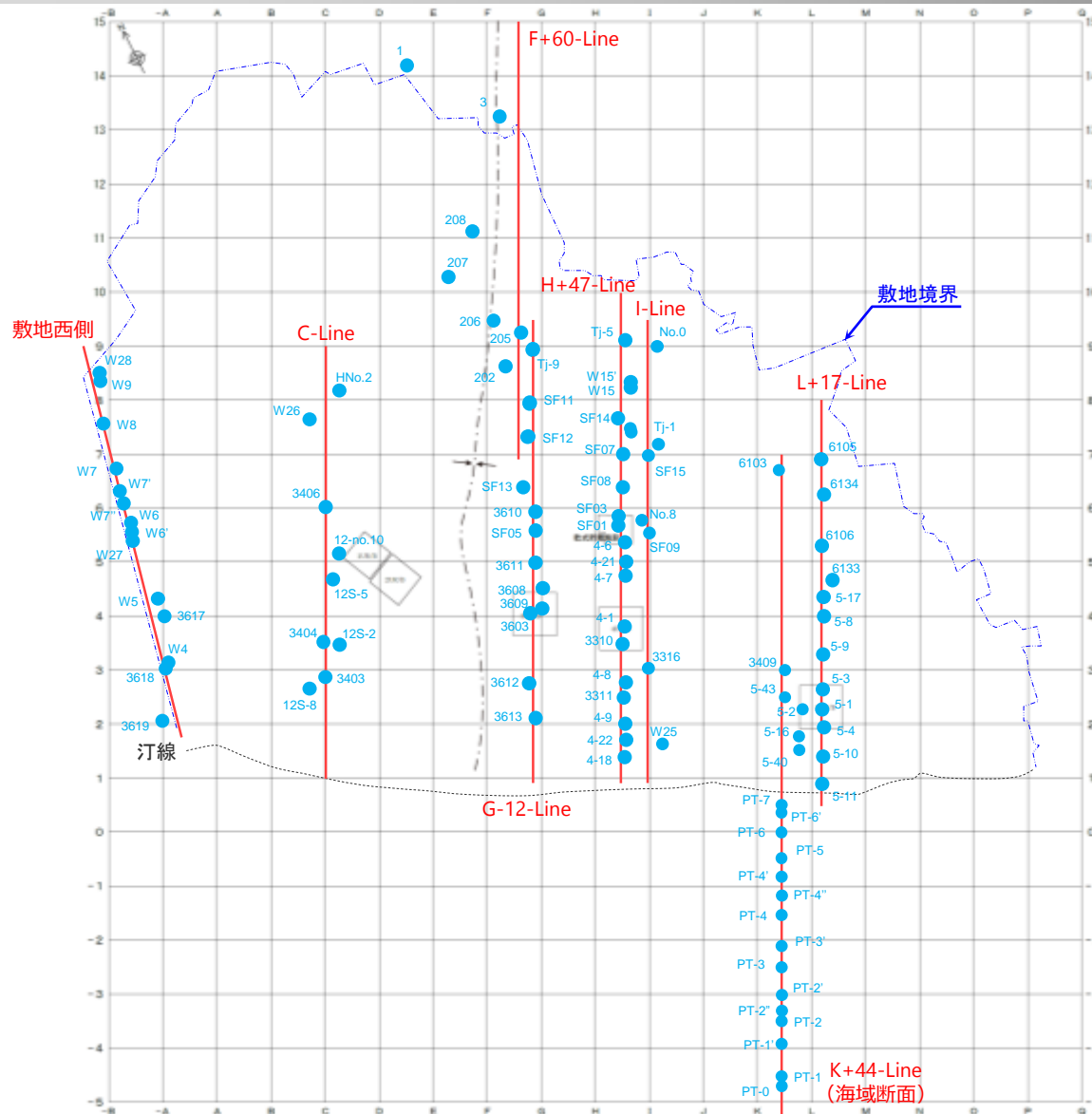
連続的に分布すると想定される鍵層を繋いだ、鍵層の連続面（H断層が想定されない領域）を把握する。



ボーリングコアにおいて破碎部が比較的大きい断層箇所（南傾斜60度程度の正断層）を想定した際、断層が想定されない領域を通過することなく延伸する断層をH断層とする。



# 参考 鉛直断面位置図



過去の審査委員会合資料（第608回，第654回，第704回）に記載された鉛直断面図の位置図を示す。

＜凡例＞  
— 鉛直断面図の測線  
● 鉛直断面図※に記載のボーリング孔  
（※第704回審査会合の断面図）

**(1)**

# 鍵層となる凝灰岩層の深度に関する 変更点及びその経緯

# 鍵層となる凝灰岩層の深度に関する変更点及びその経緯

## <概要>

- i. 過去の資料における鍵層となる凝灰岩層の深度の確認  
鉛直断面図のエビデンスとして各鍵層の深度を掲載した過去の審査会合資料（第608回、第654回、第704回）を再確認し、数値が変更となった箇所等について、その経緯を確認し整理した。
- ii. 今後用いる鍵層となる凝灰岩層深度  
前回会合（第704回審査会合、2019.4.12）資料について、新たに確認した誤記の訂正も含め、iの結果を踏まえ記載を見直した。

## <確認結果>

- 鍵層となる凝灰岩層の深度が変更となった箇所について、その経緯は以下の通りである。凝灰岩層における深度の相違は、一旦は認定を見送ったものの三次元的な検討により再度認定したもの（①④）や、数値の引用元の違いにより生じたもの（②）が約4割を占め、説明性向上のため追記したもの（⑥⑦）を含めると8割を占める。

### 変更要因A（三次元モデルの検討結果）

- ①地質の三次元的な検討により再度認定したもの。（10箇所）

### 変更要因B（数値の混在）

- ②コア写真による数値と、柱状図に記載の数値が混在したことによる相違。（5箇所）

### 変更要因C（鍵層認定の信頼性向上）

- ③数枚の凝灰岩層のセットで認識する鍵層（K-2、K-5）について、欠損等を考慮した層相の再検討により、鍵層の枝番の認定を見直したもの。（6箇所）
- ④凝灰岩層の層相が不明瞭なため一旦は認定を見送ったもの。（12箇所）
- ⑤コア写真が確認できず、認定を取り止めたもの。（2箇所）

### 変更要因D（三次元モデルの再確認）

該当なし

### その他の変更要因

- 追加データによる変更
  - ⑥調査の追加や、記載断面図範囲の延長に伴う追加。（13箇所）
  - ⑦極近傍孔の追記によるもの。（9箇所）
- 誤記、記載漏れ等
  - ⑧記載漏れや誤記等によるもの。（3箇所）
  - ⑨前回会合資料について、新たに確認した記載漏れ。（1箇所）
- その他
  - ⑩断面図への記載の有無によるもの（2箇所）

H断層及び鍵層となる凝灰岩層の分布に関する  
変更の経緯と主な要因（再掲）

《変更要因A 三次元モデル検討結果(鍵層となる凝灰岩層)》  
不採用とした凝灰岩層について、三次元モデルから想定される鍵層の深度とコア観察による深度がおおむね一致した場合、層相を再検討し再び対比可能な鍵層として記載

《変更要因B 数値の混在》  
鍵層となる凝灰岩層・H断層について、コア写真により再検討した際、深度を写真読み取り値により整理、柱状図記載の数値との混在が発生

《変更要因C 鍵層認定の信頼性向上》  
コア写真が無いものや層相が不鮮明な凝灰岩層は対比が不確実なものとして不採用

《変更要因D 三次元モデルの再確認》  
断層の選定ミスを確認



# 過去の資料における 鍵層となる凝灰岩層深度の確認



# 敷地西側断面



# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度（敷地西側断面 K-3）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-3 凝灰岩層（下限深度：数値の単位[m]）			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
3619	0.70	深度 標高				
3618	5.55	深度 標高			117.70 -112.15	柱状図に凝灰岩層との記載はあるが、写真がなく層相の確認ができないため、第654回以降は数値の記載を取止め。（経緯⑤）
W4	12.03	深度 標高				
3617	5.30	深度 標高			76.87 -71.57	柱状図に凝灰岩層との記載はあるが、写真がなく層相の確認ができないため、第654回以降は数値の記載を取止め。（経緯⑤）
W5	10.95	深度 標高	80.41 -69.46	80.41 -69.46	80.41 -69.46	
W27	11.71	深度 標高	43.20 -31.49	43.20 -31.49		新規掘削により第654回より追加。（経緯⑥）
W6'	10.52	深度 標高	41.93 -31.41	41.93 -31.41	41.93 -31.41	
W6	10.56	深度 標高	33.41 -22.85	33.41 -22.85	33.41 -22.85	
W7''	10.46	深度 標高	17.55 -7.09	17.55 -7.09	17.55 -7.09	
W7'	10.38	深度 標高				
W7	10.39	深度 標高				
W8	10.04	深度 標高				
W9	10.28	深度 標高				
W28	10.50	深度 標高				

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度（敷地西側断面 K-5u）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-5u 凝灰岩層（下限深度：数値の単位[m]）			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
3619	0.70	深度 標高				
3618	5.55	深度 標高				
W4	12.03	深度 標高				
3617	5.30	深度 標高				
W5	10.95	深度 標高				
W27	11.71	深度	167.40	167.40		
		標高	-155.69	-155.69		
W6'	10.52	深度				
		標高				
W6	10.56	深度				
		標高				
W7''	10.46	深度				
		標高				
W7'	10.38	深度	143.50	143.50		
		標高	-133.12	-133.12		
W7	10.39	深度				
		標高				
W8	10.04	深度				
		標高				
W9	10.28	深度	92.89	92.89		
		標高	-82.61	-82.61		
W28	10.50	深度		96.75		新規掘削により第654回より追加。（経緯⑥） 柱状図ではK-5uとなっているが、層相を再検討した結果、第704回よりK-5uは欠損と評価し、当該層はK-5Iへ評価を変更。（経緯③）
		標高		-86.25		

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度（敷地西側断面 K-5I）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-5I 凝灰岩層（下限深度：数値の単位[m]）			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
3619	0.70	深度 標高				
3618	5.55	深度 標高				
W4	12.03	深度 標高				
3617	5.30	深度 標高				
W5	10.95	深度 標高				
W27	11.71	深度 標高	171.32 -159.61	171.32 -159.61		新規掘削により第654回より追加。（経緯⑥）
W6'	10.52	深度 標高				
W6	10.56	深度 標高				
W7''	10.46	深度 標高				
W7'	10.38	深度 標高				
W7	10.39	深度 標高				
W8	10.04	深度 標高				
W9	10.28	深度 標高	97.24 -86.96	97.24 -86.96	97.24 -86.96	
W28	10.50	深度 標高	96.75 -86.25			新規掘削により第654回より追加。（経緯⑥） 柱状図ではK-5uとなっているが、層相を再検討した結果、第704回よりK-5uは欠損と評価し、当該層はK-5Iへ評価を変更。（経緯③）

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所



# C-Line断面

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度（C-Line断面 K-1）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-1 凝灰岩層（下限深度：数値の単位[m]）			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
12S-8	6.09	深度 標高				
3403	2.72	深度 標高	13.20 -10.48	13.20 -10.48		
12S-2	6.08	深度 標高				
3404	6.24	深度 標高				
12S-5	5.99	深度 標高				
12-no.10	5.94	深度 標高	10.70 -4.76	10.70 -4.76		
3406	5.93	深度 標高				
W26	10.57	深度 標高				
HNo.2	12.26	深度 標高				

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度（C-Line断面 K-2u）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-2u 凝灰岩層（下限深度：数値の単位[m]）			変更の経緯	
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合		
12S-8	6.09	深度	107.09	107.09			
		標高	-101.00	-101.00			
3403	2.72	深度					
		標高					
12S-2	6.08	深度	102.88	102.88			
		標高	-96.80	-96.80			
3404	6.24	深度					記載漏れにより、今回の資料より凝灰岩層を追加。（経緯⑨）
		標高					
12S-5	5.99	深度	96.30	96.30			
		標高	-90.31	-90.31			
12-no.10	5.94	深度					
		標高					
3406	5.93	深度					
		標高					
W26	10.57	深度	57.22	57.22			
		標高	-46.65	-46.65			
HNo.2	12.26	深度	59.60	59.60			
		標高	-47.34	-47.34			

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度（C-Line断面 K-2I）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-2I 凝灰岩層（下限深度：数値の単位[m]）			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
12S-8	6.09	深度	113.52	113.52		
		標高	-107.43	-107.43		
3403	2.72	深度				
		標高				
12S-2	6.08	深度	108.81	108.81		
		標高	-102.73	-102.73		
3404	6.24	深度				
		標高				
12S-5	5.99	深度	100.88	100.88		
		標高	-94.89	-94.89		
12-no.10	5.94	深度				
		標高				
3406	5.93	深度				
		標高				
W26	10.57	深度	63.91	63.91		
		標高	-53.34	-53.34		
HNo.2	12.26	深度	66.37	66.37		
		標高	-54.11	-54.11		

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所



# F+60-Line断面



# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (F+60-Line断面 K-1)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-1 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
SF12	24.95	深度	37.71	37.71		
		標高	-12.76	-12.76		
SF11	31.51	深度	16.63	16.63		
		標高	14.88	14.88		
202	34.89	深度	33.46	33.46		
		標高	1.43	1.43		
Tj-9	36.45	深度	36.18	36.18		
		標高	0.27	0.27		
205	38.19	深度				
		標高				
206	41.50	深度	26.60	26.60		
		標高	14.90	14.90		
207	21.00	深度	25.52	25.52		
		標高	-4.52	-4.52		
208	24.73	深度	14.38	14.38		
		標高	10.35	10.35		
3	48.32	深度	44.95	44.95		
		標高	3.37	3.37		
1	49.86	深度	23.91	23.91		
		標高	25.95	25.95		

 : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所



# G-12-Line断面

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度（G-12-Line断面 K-1）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-1 凝灰岩層（下限深度：数値の単位[m]）			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
3613	6.52	深度	54.17	54.17		
		標高	-47.65	-47.65		
3612	6.38	深度	55.71	55.71		
		標高	-49.33	-49.33		
3603	5.88	深度	37.05	37.05		
		標高	-31.17	-31.17		
3609	5.47	深度	39.00			第654回は層相が不明瞭なため一旦不採用とした。（経緯④） 鍵層の三次元分布の検討により、第704回より追加で記載。（経緯①）
		標高	-33.53			
3608	19.19	深度	54.04	54.04		
		標高	-34.85	-34.85		
3611	16.81	深度	28.13	28.13		
		標高	-11.32	-11.32		
SF05	6.00	深度	27.21	27.21		
		標高	-21.21	-21.21		
3610	36.71	深度	67.55			第654回は層相が不明瞭なため一旦不採用とした。（経緯④） 鍵層の三次元分布の検討により、第704回より追加で記載。（経緯①）
		標高	-30.84			
SF13	24.93	深度	36.05	36.05		
		標高	-11.12	-11.12		
SF12	24.95	深度	37.71	37.71		
		標高	-12.76	-12.76		
SF11	31.51	深度	16.63	16.63		
		標高	14.88	14.88		
Tj-9	36.45	深度	36.18	36.18		
		標高	0.27	0.27		

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (G-12-Line断面 K-2u)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-2u 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
3613	6.52	深度	146.05	146.05		
		標高	-139.53	-139.53		
3612	6.38	深度				
		標高				
3603	5.88	深度	113.86	113.86		
		標高	-107.98	-107.98		
3609	5.47	深度				
		標高				
3608	19.19	深度				
		標高				
3611	16.81	深度	112.15	112.15		
		標高	-95.34	-95.34		
SF05	6.00	深度				
		標高				
3610	36.71	深度				
		標高				
SF13	24.93	深度				
		標高				
SF12	24.95	深度				
		標高				
SF11	31.51	深度				
		標高				
Tj-9	36.45	深度	107.01	107.01		
		標高	-70.56	-70.56		

 : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度（G-12-Line断面 K-2I）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-2I 凝灰岩層（下限深度：数値の単位[m]）			変更の経緯	
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合		
3613	6.52	深度	152.62	152.62			
		標高	-146.10	-146.10			
3612	6.38	深度					
		標高					
3603	5.88	深度	120.38	120.48			第654回に記載の数値は誤記。（経緯⑧）
		標高	-114.50	-114.60			
3609	5.47	深度	121.62	121.62			
		標高	-116.15	-116.15			
3608	19.19	深度					
		標高					
3611	16.81	深度	119.11	119.11			
		標高	-102.30	-102.30			
SF05	6.00	深度					
		標高					
3610	36.71	深度					
		標高					
SF13	24.93	深度	120.47	120.47			
		標高	-95.54	-95.54			
SF12	24.95	深度					
		標高					
SF11	31.51	深度					
		標高					
Tj-9	36.45	深度	113.95	113.95			
		標高	-77.50	-77.50			

: 前回資料と比較し、数値を変更した箇所



# H+47-Line断面

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (H+47-Line断面 K-1)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-1 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
4-18	16.95	深度	56.44		第654回は層相が不明瞭なため一旦不採用とした。(経緯④) 鍵層の三次元分布の検討により, 第704回より追加で記載。(経緯①)	
		標高	-39.49			
4-22	4.30	深度	42.85	42.85		
		標高	-38.55	-38.55		
4-9	2.86	深度	27.16	27.16		
		標高	-24.30	-24.30		
3311	8.56	深度	34.74	34.74		
		標高	-26.18	-26.18		
4-8	6.76	深度	31.81	31.81		
		標高	-25.05	-25.05		
3310	17.26	深度	14.05	14.05		
		標高	3.21	3.21		
4-1	6.32	深度	9.41	9.41		
		標高	-3.09	-3.09		
4-7	6.53	深度				
		標高				
4-21	6.65	深度				
		標高				
4-6	6.33	深度				
		標高				
SF01	6.42	深度	2.02	2.02		
		標高	4.40	4.40		
SF03	6.41	深度	4.57	4.57		
		標高	1.84	1.84		
SF08	24.96	深度				
		標高				
SF07	24.93	深度	16.12	16.12		
		標高	8.81	8.81		
SF14	36.03	深度	17.93	17.93		
		標高	18.10	18.10		
W15	40.27	深度	15.10	15.10		
		標高	25.17	25.17		
W15'	40.26	深度	17.06			
		標高	23.20			
Tj-5	52.01	深度	27.89	27.89		
		標高	24.12	24.12		

W15とW15'は極近傍に位置するため, 第654回まではW15のみを記載。(経緯⑦)

 : 前回資料と比較し, 数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (H+47-Line断面 K-2u)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-2u 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
4-18	16.95	深度 標高				
4-22	4.30	深度 標高	120.88 -116.58	120.88 -116.58		
4-9	2.86	深度 標高	111.90 -109.04			第654回は層相が不明瞭なため一旦不採用とした。(経緯④) 鍵層の三次元分布の検討により, 第704回より追加で記載。(経緯①)
3311	8.56	深度 標高				
4-8	6.76	深度 標高				
3310	17.26	深度 標高				
4-1	6.32	深度 標高				
4-7	6.53	深度 標高	84.70 -78.17			第654回は層相が不明瞭なため一旦不採用とした。(経緯④) 鍵層の三次元分布の検討により, 第704回より追加で記載。(経緯①)
4-21	6.65	深度 標高				
4-6	6.33	深度 標高	79.78 -73.45	79.78 -73.45		
SF01	6.42	深度 標高				
SF03	6.41	深度 標高	67.19 -60.78	67.19 -60.78		
SF08	24.96	深度 標高	84.29 -59.33	84.29 -59.33		
SF07	24.93	深度 標高	90.09 -65.16	90.09 -65.16		
SF14	36.03	深度 標高				
W15	40.27	深度 標高	92.60 -52.33	92.60 -52.33		
W15'	40.26	深度 標高	94.48 -54.22			W15とW15'は極近傍に位置するため, 第654回まではW15のみを記載。(経緯⑦)
Tj-5	52.01	深度 標高	100.90 -48.89	100.90 -48.89		

 : 前回資料と比較し, 数値を変更した箇所



# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (H+47-Line断面 K-2I)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-2I 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
4-18	16.95	深度	139.21			第654回は層相が不明瞭なため一旦不採用とした。(経緯④) 鍵層の三次元分布の検討により, 第704回より追加で記載。(経緯①)
		標高	-122.26			
4-22	4.30	深度	126.97	126.97		
		標高	-122.67	-122.67		
4-9	2.86	深度	117.75			第654回は層相が不明瞭なため一旦不採用とした。(経緯④) 鍵層の三次元分布の検討により, 第704回より追加で記載。(経緯①)
		標高	-114.89			
3311	8.56	深度				
		標高				
4-8	6.76	深度				
		標高				
3310	17.26	深度	116.25			第654回は層相が不明瞭なため一旦不採用とした。(経緯④) 鍵層の三次元分布の検討により, 第704回より追加で記載。(経緯①)
		標高	-98.99			
4-1	6.32	深度				
		標高				
4-7	6.53	深度				
		標高				
4-21	6.65	深度				
		標高				
4-6	6.33	深度	87.64	87.64		
		標高	-81.31	-81.31		
SF01	6.42	深度				
		標高				
SF03	6.41	深度	73.30	73.30		
		標高	-66.89	-66.89		
SF08	24.96	深度	92.28	92.28		
		標高	-67.32	-67.32		
SF07	24.93	深度	95.86	95.86		
		標高	-70.93	-70.93		
SF14	36.03	深度				
		標高				
W15	40.27	深度	100.19	100.19		
		標高	-59.92	-59.92		
W15'	40.26	深度	100.98			W15とW15'は極近傍に位置するため, 第654回まではW15のみを記載。(経緯⑦)
		標高	-60.72			
Tj-5	52.01	深度	108.81	108.81		
		標高	-56.80	-56.80		

 : 前回資料と比較し, 数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (H+47-Line断面 K-3)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-3 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
4-18	16.95	深度 標高				
4-22	4.30	深度 標高				
4-9	2.86	深度 標高				
3311	8.56	深度 標高				
4-8	6.76	深度 標高				
3310	17.26	深度 標高				
4-1	6.32	深度	197.83	197.83		
		標高	-191.51	-191.51		
4-7	6.53	深度	189.15	189.15		
		標高	-182.62	-182.62		
4-21	6.65	深度 標高				
4-6	6.33	深度	182.32	182.32		
		標高	-175.99	-175.99		
SF01	6.42	深度	176.84	176.84		
		標高	-170.42	-170.42		
SF03	6.41	深度 標高				
SF08	24.96	深度	189.37	189.37		
		標高	-164.41	-164.41		
SF07	24.93	深度	182.32	182.32		
		標高	-157.39	-157.39		
SF14	36.03	深度 標高				
W15	40.27	深度	191.29	191.29		
		標高	-151.02	-151.02		
W15'	40.26	深度	193.19			W15とW15'は極近傍に位置するため、第654回まではW15のみを記載。(経緯㉞)
		標高	-152.93			
Tj-5	52.01	深度 標高				

 : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所



# I-Line断面

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度（I-Line断面 K-1）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-1 凝灰岩層（下限深度：数値の単位[m]）			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
W25	6.02	深度	29.49	29.49	29.49	
		標高	-23.47	-23.47	-23.47	
3316	12.11	深度				
		標高				
SF09	6.35	深度				
		標高				
No.8	6.35	深度				
		標高				
SF15	44.72	深度	22.43	22.43	22.43	
		標高	22.29	22.29	22.29	
Tj-1	46.60	深度	21.42	21.42	21.46	第608回は柱状図の数値を記載し、第654回より、コア写真から読み取った数値を記載。 (経緯②)
		標高	25.18	25.18	25.14	
W15	40.27	深度	15.10	15.10	15.10	
		標高	25.17	25.17	25.17	
W15'	40.26	深度	17.06			W15とW15'は極近傍に位置するため、第654回まではW15のみを記載。(経緯⑦)
		標高	23.20			
No.0	52.65	深度	17.30		17.30	層相が不明瞭なため一旦認定を取止め。(経緯④) 鍵層の三次元分布の検討により、第704回より再度記載。(経緯①)
		標高	35.35		35.35	

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (I-Line断面 K-2u)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-2u 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
W25	6.02	深度	106.70	106.70	106.70	
		標高	-100.68	-100.68	-100.68	
3316	12.11	深度	86.14		86.14	層相が不明瞭なため一旦認定を取止め。(経緯④) 鍵層の三次元分布の検討により、第704回より再度記載。(経緯①)
		標高	-74.03		-74.03	
SF09	6.35	深度				
		標高				
No.8	6.35	深度	59.88	59.90	59.90	第654回まではコア写真から読み取った数値を記載し、第704回からは、柱状図の数値を記載。 (経緯②)
		標高	-53.53	-53.55	-53.55	
SF15	44.72	深度	98.33	98.33	98.33	
		標高	-53.61	-53.61	-53.61	
Tj-1	46.60	深度			93.60	柱状図では深度93.60mがK-2uとなっているが、層相を再検討した結果、第654回より当該層はK-2mと評価を変更。なお、K-2uは欠損と評価。(経緯③)
		標高			-47.00	
W15	40.27	深度	92.60	92.60	92.60	
		標高	-52.33	-52.33	-52.33	
W15'	40.26	深度	94.48			W15とW15'は極近傍に位置するため、第654回まではW15のみを記載。(経緯⑦)
		標高	-54.22			
No.0	52.65	深度	87.20	87.20	87.20	
		標高	-34.55	-34.55	-34.55	

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (I-Line断面 K-2m)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-2m 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])				
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	変更の経緯	
W25	6.02	深度	/	/	112.33		
		標高			-106.31		
3316	12.11	深度			92.75		層相が不明瞭なため一旦認定を取止め。(経緯④) 鍵層の三次元分布の検討を踏まえ、層相を再検討した結果、第704回より当該層はK-2mからK-2Iへ評価を変更。(経緯③)
		標高			-80.64		
SF09	6.35	深度			68.82		
		標高			-62.47		
No.8	6.35	深度			64.66		
		標高			-58.31		
SF15	44.72	深度			103.47		
		標高			-58.75		
Tj-1	46.60	深度			94.60		柱状図では深度94.60mがK-2mとなっているが、層相を再検討した結果、第654回より当該層は断層で繰り返すK-2Iと評価を変更。なおK-2mは柱状図で深度93.60mの凝灰岩層。(経緯③)
		標高			-48.00		
W15	40.27	深度			98.67		
		標高			-58.40		
W15'	40.26	深度					
		標高					
No.0	52.65	深度	91.85				
		標高	-39.20				

   : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

K-2m凝灰岩層については、第654回審査会合以降、鉛直地質断面図に記載の鍵層 (K-2u, K-2I) に合わせ、数値の記載を取止め。

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (I-Line断面 K-2I)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-2I 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
W25	6.02	深度	113.45	113.45	113.45	
		標高	-107.43	-107.43	-107.43	
3316	12.11	深度	92.83		93.90	層相が不明瞭なため一旦認定を取止め。(経緯④) 鍵層の三次元分布の検討を踏まえ、層相を再検討した結果、第704回よりK-2Iの位置を変更 (記載の数値はコア写真に基づく深度)。(経緯③)
		標高	-80.72		-81.79	
SF09	6.35	深度				
		標高				
No.8	6.35	深度	65.86	65.87	65.87	第654回まではコア写真から読み取った数値を記載し、第704回からは、柱状図の数値を記載。 (経緯②)
		標高	-59.51	-59.52	-59.52	
SF15	44.72	深度	104.43	104.43	104.43	
		標高	-59.71	-59.71	-59.71	
Tj-1	46.60	深度	95.41	95.41	95.41	
		標高	-48.81	-48.81	-48.81	
W15	40.27	深度	100.19	100.19	100.19	
		標高	-59.92	-59.92	-59.92	
W15'	40.26	深度	100.98			W15とW15'は極近傍に位置するため、第654回まではW15のみを記載。(経緯⑦)
		標高	-60.72			
No.0	52.65	深度	92.90	92.90	92.90	
		標高	-40.25	-40.25	-40.25	

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (I-Line断面 K-3)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-3 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
W25	6.02	深度	230.30		230.30	第654回は断面図への記載取止めに伴う空欄。第704回から再度記載。(経緯⑩)
		標高	-224.28		-224.28	
3316	12.11	深度				
		標高				
SF09	6.35	深度	161.53	161.53	161.53	
		標高	-155.18	-155.18	-155.18	
No.8	6.35	深度	167.45	167.45	167.45	
		標高	-161.10	-161.10	-161.10	
SF15	44.72	深度				
		標高				
Tj-1	46.60	深度	187.86	187.86	187.86	
		標高	-141.26	-141.26	-141.26	
W15	40.27	深度	191.29	191.29	191.29	
		標高	-151.02	-151.02	-151.02	
W15'	40.26	深度	193.19			W15とW15'は極近傍に位置するため、第654回まではW15のみを記載。(経緯⑦)
		標高	-152.93			
No.0	52.65	深度	205.68	205.68	205.68	
		標高	-153.03	-153.03	-153.03	

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所



# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (I-Line断面 K-4)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-4 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
W25	6.02	深度	275.52		275.52	第654回は断面図への記載取止めに伴う空欄。第704回から再度記載。(経緯⑩)
		標高	-269.50		-269.50	
3316	12.11	深度				
		標高				
SF09	6.35	深度	212.89	212.89	212.89	
		標高	-206.54	-206.54	-206.54	
No.8	6.35	深度	218.28	218.27	218.27	第654回まではコア写真から読み取った数値を記載し、第704回からは、柱状図の数値を記載。(経緯②)
		標高	-211.93	-211.92	-211.92	
SF15	44.72	深度				
		標高				
Tj-1	46.60	深度	229.30	229.30	229.30	
		標高	-182.70	-182.70	-182.70	
W15	40.27	深度	237.70	237.70	237.70	
		標高	-197.43	-197.43	-197.43	
W15'	40.26	深度	239.01			W15とW15'は極近傍に位置するため、第654回まではW15のみを記載。(経緯⑦)
		標高	-198.75			
No.0	52.65	深度				
		標高				

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所



# K+44-Line断面 (海域断面)

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (K+44-Line断面 K-1)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-1 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	変更の経緯
PT-0*	-28.38	深度 93.25 標高 -90.78	93.25 -90.78	93.20 -90.74	第608回に記載の数値は誤記。(経緯⑧)	
PT-1	-28.35	深度 37.25 標高 -65.60	37.25 -65.60	37.48 -65.83	凝灰岩層の繰返しが見られ、第608回は下位の凝灰岩層をコア写真から読み取った数値で記載。第654回からは、岩層が明瞭な上位の凝灰岩層について、柱状図の数値を記載。(経緯②)	
PT-1'	-28.46	深度 30.96 標高 -59.42	30.96 -59.42	30.96 -59.42		
PT-2	-28.46	深度 24.36 標高 -52.82	24.36 -52.82	24.36 -52.82		
PT-2''	-28.49	深度 15.14 標高 -43.63	15.14 -43.63	15.14 -43.63		
PT-2'	-28.59	深度 4.97 標高 -33.56	4.97 -33.56	4.97 -33.56		
PT-3	-28.63	深度 標高				
PT-3'	-28.68	深度 標高				
PT-4	-28.75	深度 標高				
PT-4''	-28.79	深度 標高				
PT-4'	-28.83	深度 標高				
PT-5	-28.87	深度 標高				
PT-6	-28.89	深度 標高				
PT-6'	-28.88	深度 標高				
PT-7	-28.86	深度 標高				
5-40	11.51	深度 標高				
5-16	5.99	深度 標高				
5-2	6.35	深度 標高				
5-43	6.04	深度 標高				
3409	22.14	深度 標高				
6103	29.53	深度 標高				

※PT-0孔は斜めボーリング (下向き42°)

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (K+44-Line断面 K-2u)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-2u 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
PT-0*	-28.38	深度 標高				
PT-1	-28.35	深度 標高				
PT-1'	-28.46	深度 標高				
PT-2	-28.46	深度 標高				
PT-2''	-28.49	深度 標高				
PT-2'	-28.59	深度 標高	96.18 -124.77	96.18 -124.77	96.18 -124.77	
PT-3	-28.63	深度 標高				
PT-3'	-28.68	深度 標高	87.03 -115.71	87.03 -115.71	87.03 -115.71	
PT-4	-28.75	深度 標高	70.27 -99.02	70.27 -99.02	70.27 -99.02	
PT-4''	-28.79	深度 標高	56.36 -85.15	56.36 -85.15	56.36 -85.15	
PT-4'	-28.83	深度 標高	49.50 -78.33	49.50 -78.33	49.50 -78.33	
PT-5	-28.87	深度 標高	48.87 -77.74	48.87 -77.74	48.87 -77.74	
PT-6	-28.89	深度 標高	51.23 -80.12	51.23 -80.12	51.23 -80.12	
PT-6'	-28.88	深度 標高	26.89 -55.77	26.89 -55.77	26.89 -55.77	
PT-7	-28.86	深度 標高	19.68 -48.54	19.68 -48.54	19.68 -48.54	
5-40	11.51	深度 標高	38.87 -27.36	38.87 -27.36		第654回より断面にボーリング孔を追加。(経緯⑥)
5-16	5.99	深度 標高				
5-2	6.35	深度 標高	15.25 -8.90	15.25 -8.90		第654回より断面にボーリング孔を追加。(経緯⑥)
5-43	6.04	深度 標高	29.57 -23.53	29.57 -23.53		第654回より断面にボーリング孔を追加。(経緯⑥)
3409	22.14	深度 標高				
6103	29.53	深度 標高	18.58 10.95			第704回より断面にボーリング孔を追加。(経緯⑥)

※PT-0孔は斜めボーリング (下向き42°)

  : 前回資料と比較し, 数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (K+44-Line断面 K-2m)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-2u 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	変更の経緯
PT-0*	-28.38	深度 標高				
PT-1	-28.35	深度 標高				
PT-1'	-28.46	深度 標高				
PT-2	-28.46	深度 標高				
PT-2''	-28.49	深度 標高				
PT-2'	-28.59	深度 標高				
PT-3	-28.63	深度 標高				
PT-3'	-28.68	深度 標高			90.77 -119.45	
PT-4	-28.75	深度 標高				
PT-4''	-28.79	深度 標高			61.68 -90.47	
PT-4'	-28.83	深度 標高				
PT-5	-28.87	深度 標高			53.83 -82.70	
PT-6	-28.89	深度 標高			55.37 -84.26	
PT-6'	-28.88	深度 標高			31.84 -60.72	
PT-7	-28.86	深度 標高			23.63 -52.49	
5-40	11.51	深度 標高				
5-16	5.99	深度 標高				
5-2	6.35	深度 標高				
5-43	6.04	深度 標高				
3409	22.14	深度 標高				
6103	29.53	深度 標高				

K-2m凝灰岩層については、第654回審査会合以降、鉛直地質断面図に記載の鍵層 (K-2u, K-2l) に合わせ、数値の記載を取止め。

※PT-0孔は斜めボーリング (下向き42°)

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (K+44-Line断面 K-2I)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-2I 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
PT-0*	-28.38	深度 標高				
PT-1	-28.35	深度 標高				
PT-1'	-28.46	深度 標高				
PT-2	-28.46	深度 標高				
PT-2''	-28.49	深度 標高				
PT-2'	-28.59	深度 標高				
PT-3	-28.63	深度 標高				
PT-3'	-28.68	深度 標高	91.77 -120.45	91.77 -120.45	91.77 -120.45	
PT-4	-28.75	深度 標高				
PT-4''	-28.79	深度 標高	62.71 -91.50	62.71 -91.50	62.71 -91.50	
PT-4'	-28.83	深度 標高				
PT-5	-28.87	深度 標高	54.86 -83.73	54.86 -83.73	54.86 -83.73	
PT-6	-28.89	深度 標高	56.39 -85.28	56.39 -85.28	56.39 -85.28	
PT-6'	-28.88	深度 標高	33.33 -62.21	33.33 -62.21	33.33 -62.21	
PT-7	-28.86	深度 標高	24.72 -53.58	24.72 -53.58	24.72 -53.58	
5-40	11.51	深度 標高	46.29 -34.78	46.29 -34.78		第654回より断面にボーリング孔を追加。(経緯⑥)
5-16	5.99	深度 標高	27.18 -21.19	27.18 -21.19		第654回より断面にボーリング孔を追加。(経緯⑥)
5-2	6.35	深度 標高	21.39 -15.04	21.39 -15.04		第654回より断面にボーリング孔を追加。(経緯⑥)
5-43	6.04	深度 標高	37.61 -31.57	37.61 -31.57		第654回より断面にボーリング孔を追加。(経緯⑥)
3409	22.14	深度 標高				
6103	29.53	深度 標高				

※PT-0孔は斜めボーリング (下向き42°)

: 前回資料と比較し, 数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (K+44-Line断面 K-3)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-3 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
PT-0*	-28.38	深度 標高				
PT-1	-28.35	深度 標高				
PT-1'	-28.46	深度 標高				
PT-2	-28.46	深度 標高				
PT-2''	-28.49	深度 標高				
PT-2'	-28.59	深度 標高				
PT-3	-28.63	深度 標高				
PT-3'	-28.68	深度 標高				
PT-4	-28.75	深度 標高				
PT-4''	-28.79	深度 標高				
PT-4'	-28.83	深度 標高				
PT-5	-28.87	深度 標高				
PT-6	-28.89	深度 標高				
PT-6'	-28.88	深度 標高				
PT-7	-28.86	深度 標高				
5-40	11.51	深度 標高				
5-16	5.99	深度 標高				
5-2	6.35	深度 標高	125.59 -119.24			記載漏れにより, 第704回より凝灰岩層を追加。(経緯⑧)
5-43	6.04	深度 標高				
3409	22.14	深度 標高				
6103	29.53	深度 標高	101.49 -71.96			第704回より断面にボーリング孔追加。(経緯⑥)

  : 前回資料と比較し, 数値を変更した箇所

※PT-0孔は斜めボーリング (下向き42°)



# L+17-Line断面



# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (L+17-Line断面 K-2u)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-2u 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
5-11	0.75	深度 標高				
5-10	9.75	深度 標高	19.26 -9.51	19.26 -9.51		
5-4	6.09	深度 標高				
5-1	9.08	深度 標高				
5-3	12.73	深度 標高				
5-9	20.88	深度 標高				
5-8	23.31	深度 標高				
5-17	34.79	深度 標高				
6133	7.96	深度 標高				
6106	36.48	深度 標高				
6134	44.08	深度 標高				
6105	26.94	深度 標高				

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (L+17-Line断面 K-2I)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-2I 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
5-11	0.75	深度	14.11	14.11		
		標高	-13.36	-13.36		
5-10	9.75	深度	25.47	25.47		
		標高	-15.72	-15.72		
5-4	6.09	深度				
		標高				
5-1	9.08	深度				
		標高				
5-3	12.73	深度				
		標高				
5-9	20.88	深度				
		標高				
5-8	23.31	深度				
		標高				
5-17	34.79	深度				
		標高				
6133	7.96	深度				
		標高				
6106	36.48	深度				
		標高				
6134	44.08	深度				
		標高				
6105	26.94	深度				
		標高				

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (L+17-Line断面 K-3)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-3 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
5-11	0.75	深度	120.10	120.10		
		標高	-119.35	-119.35		
5-10	9.75	深度				
		標高				
5-4	6.09	深度	109.83	109.83		
		標高	-103.74	-103.74		
5-1	9.08	深度	117.18	117.18		
		標高	-108.10	-108.10		
5-3	12.73	深度	95.69	95.69		
		標高	-82.96	-82.96		
5-9	20.88	深度	101.87	101.87		
		標高	-80.99	-80.99		
5-8	23.31	深度	99.80	99.80		
		標高	-76.49	-76.49		
5-17	34.79	深度	95.89	95.89		
		標高	-61.10	-61.10		
6133	7.96	深度	66.76	66.76		
		標高	-58.80	-58.80		
6106	36.48	深度	94.16	94.16		
		標高	-57.68	-57.68		
6134	44.08	深度				
		標高				
6105	26.94	深度	75.40	75.40		
		標高	-48.46	-48.46		

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

# 過去の資料に記載の凝灰岩層深度 (L+17-Line断面 K-4)

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	深度 標高	K-4 凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			変更の経緯
			第704回 審査会合	第654回 審査会合	第608回 審査会合	
5-11	0.75	深度	169.95	169.95		
		標高	-169.20	-169.20		
5-10	9.75	深度	160.46	160.46		
		標高	-150.71	-150.71		
5-4	6.09	深度	158.73	158.73		
		標高	-152.64	-152.64		
5-1	9.08	深度	140.82	140.82		
		標高	-131.74	-131.74		
5-3	12.73	深度	147.13	147.13		
		標高	-134.40	-134.40		
5-9	20.88	深度	141.38	141.38		
		標高	-120.50	-120.50		
5-8	23.31	深度	134.35	134.35		
		標高	-111.04	-111.04		
5-17	34.79	深度				
		標高				
6133	7.96	深度	110.40	110.40		
		標高	-102.44	-102.44		
6106	36.48	深度				
		標高				
6134	44.08	深度	128.62	128.62		
		標高	-84.54	-84.54		
6105	26.94	深度	119.78	119.78		
		標高	-92.84	-92.84		

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

# 過去の資料における鍵層となる凝灰岩層深度の確認結果及び今後の対応

- ・ 鍵層となる凝灰岩層における深度の相違は、一旦は認定を見送ったものの三次元的な検討により再度認定したもの（①④）や、数値の引用元の違いにより生じたもの（②）が約 4 割を占め、説明性向上のため追記したものを含めると 8 割を占める。
- ・ 凝灰岩層の深度が変更となった箇所について、その経緯は以下の通りである。

## 変更要因A、C（三次元モデルの検討結果、鍵層認定の信頼性向上）

- ①地質の三次元的な検討により再度認定したもの。（10箇所）
  - ③数枚の凝灰岩層のセットで認識する鍵層（K-2, K-5）について、欠損等を考慮した層相の再検討により、鍵層の枝番の認定を見直したのもの。（6箇所）
  - ④凝灰岩層の層相が不明瞭なため一旦は認定を見送ったもの。（12箇所）
  - ⑤コア写真が確認できず、認定を取り止めたもの。（2箇所）
- これらは、新たな観点による検討（地質の三次元分布の考慮等）の結果生じたものである。今後は変更の都度明記する。

## 変更要因B（数値の混在）

- ②コア写真による数値と、柱状図に記載の数値が混在したことによる相違。（5箇所）

→これらは、データの引用元（データの種類）の相違により生じたものであるが、数値が混在した要因としては、鍵層を同定する際、コア写真より凝灰岩の層相を対比して鍵層の明瞭な開始箇所を読み取る作業を行い、その数値をそのまま記載した結果生じたものである。  
そのため、数値は異なるものの、記載された鍵層は同一のものである。今後は柱状図に記載の数値へ統一する。

## その他の変更要因

### ・追加データによる変更

- ⑥調査の追加や、記載断面図範囲の延長に伴う追加。（13箇所）
  - ⑦極近傍孔の追記によるもの。（9箇所）
- これらは、説明性向上に関連し生じたものである。  
今後は変更の都度明記する。

### ・誤記、記載漏れ等、その他

- ⑧記載漏れや誤記等によるもの。（3箇所）
  - ⑨新たに確認した記載漏れ。（1箇所）
  - ⑩断面図への記載の有無によるもの。（2箇所）
- 今後は、資料作成時のチェックをより入念に行う。

### H断層及び鍵層となる凝灰岩層の分布に関する 変更の経緯と主な要因（再掲）

《変更要因A 三次元モデル検討結果(鍵層となる凝灰岩層)》  
不採用とした凝灰岩層について、三次元モデルから想定される鍵層の深度とコア観察による深度がおおむね一致した場合、層相を再検討し再び対比可能な鍵層として記載

《変更要因B 数値の混在》  
鍵層となる凝灰岩層・H断層について、コア写真により再検討した際、深度を写真読み取り値により整理、柱状図記載の数値との混在が発生

《変更要因C 鍵層認定の信頼性向上》  
コア写真が無いものや層相が不鮮明な凝灰岩層は対比が不確実なものとして不採用

《変更要因D 三次元モデルの再確認》  
断層の選定ミスを確認



# 今後用いる鍵層となる凝灰岩層深度

- i の結果のうち、データの引用元の相違（②コア写真による数値と、柱状図に記載の数値が混在したことによる相違）について、各鍵層の深度を掲載した過去の審査会合資料（第608回、第654回、第704回）において数値の変更が無い箇所についても、その数値の根拠を再度確認した。
- その結果、鉛直断面図のエビデンスとして各鍵層の深度を掲載した前回の審査会合資料（第704回）において、柱状図の数値を記載すべきところを、コア写真による数値を記載している鍵層が40箇所程度確認された。
- また、前回会合において初めて提示した鍵層の三次元分布の検討に用いた凝灰岩層（K-1～K-3）についても同様に確認を行った結果、コア写真による数値を記載している箇所が60箇所程度（鉛直断面図のエビデンスとの重複を含む）確認された。
- そのため、これらについても、今後は柱状図に記載の数値へ統一する。
- これらの修正、及び i で新たに確認された記載漏れ等を踏まえた鉛直断面図の鍵層となる凝灰岩層深度一覧表を次頁以降に、鉛直断面図と鍵層の三次元分布の検討に用いた凝灰岩層写真をデータ集に示す。

# 凝灰岩層深度一覽表（敷地西側断面）

ボーリング番号	孔口標高 (m)	深度 標高	凝灰岩層（下限深度：数値の単位[m]）		
			K-3	K-5u	K-5l
3619	0.70	深度 標高			
3618	5.55	深度 標高			
W4	12.03	深度 標高			
3617	5.30	深度 標高			
W5	10.95	深度 標高	80.41 -69.46		
W27	11.71	深度 標高	43.20 -31.49	167.40 -155.69	171.32 -159.61
W6'	10.52	深度 標高	41.93 -31.41		
W6	10.56	深度 標高	33.41 -22.85		
W7''	10.46	深度 標高	17.55 -7.09		
W7'	10.38	深度 標高		143.50 -133.12	
W7	10.39	深度 標高			
W8	10.04	深度 標高			
W9	10.28	深度 標高		92.89 -82.61	97.24 -86.96
W28	10.50	深度 標高			96.75 -86.25



# 凝灰岩層深度一覧表（C-Line断面）

ボーリング番号	孔口標高 (m)	深度 標高	凝灰岩層（下限深度：数値の単位[m]）			
			K-1	K-2u	K-2l	K-3
12S-8	6.09	深度		107.09	113.52	
		標高		-101.00	-107.43	
3403	2.72	深度	13.24 (13.20)			
		標高	-10.52 (-10.48)			
12S-2	6.08	深度		102.88	108.81	
		標高		-96.80	-102.73	
3404	6.24	深度		98.82		
		標高		-92.58		
12S-5	5.99	深度		96.30	100.88	195.72
		標高		-90.31	-94.89	-189.73
12-no.10	5.94	深度	10.70			
		標高	-4.76			
3406	5.93	深度				
		標高				
W26	10.57	深度		57.22	63.91	167.43
		標高		-46.65	-53.34	-156.86
HNo.2	12.26	深度		59.60	66.37	
		標高		-47.34	-54.11	

※赤字で記載した箇所は、コア写真による数値から柱状図に記載の数値へ変更した箇所を示す。  
 ( ) 内の数値は、第704回審査会合資料記載の数値を示す。  
 また、青字で記載した箇所は新たに確認された記載漏れの箇所、緑字で記載した箇所は今回の資料より追加で記載する箇所を示す。

# 凝灰岩層深度一覧表 (F+60-Line断面)

ボーリング番号	孔口標高 (m)	深度 標高	凝灰岩層 (下限深度 : 数値の単位[m])
			K-1
SF12	24.95	深度	37.71
		標高	-12.76
SF11	31.51	深度	16.63
		標高	14.88
202	34.89	深度	33.45 (33.46)
		標高	1.44 (1.43)
Tj-9	36.45	深度	36.18
		標高	0.27
205	38.19	深度	
		標高	
206	41.50	深度	26.60
		標高	14.90
207	21.00	深度	25.52
		標高	-4.52
208	24.73	深度	14.38
		標高	10.35
3	48.32	深度	44.95
		標高	3.37
1	49.86	深度	23.90 (23.91)
		標高	25.96 (25.95)

※ 赤字で記載した箇所は、コア写真による数値から柱状図に記載の数値へ変更した箇所を示す。  
 ( ) 内の数値は、第704回審査会合資料記載の数値を示す。

# 凝灰岩層深度一覽表 (G-12-Line断面)

ボーリング番号	孔口標高 (m)	深度 標高	凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])		
			K-1	K-2u	K-2l
3613	6.52	深度	54.18 (54.17)	146.10 (146.05)	152.63 (152.62)
		標高	-47.66 (-47.65)	-139.58 (-139.53)	-146.11 (-146.10)
3612	6.38	深度	55.75 (55.71)		
		標高	-49.37 (-49.33)		
3603	5.88	深度	37.10 (37.05)	113.73 (113.86)	120.38
		標高	-31.22 (-31.17)	-107.85 (-107.98)	-114.50
3609	5.47	深度	39.00		121.60 (121.62)
		標高	-33.53		-116.13 (-116.15)
3608	19.19	深度	54.07 (54.04)		
		標高	-34.88 (-34.85)		
3611	16.81	深度	28.12 (28.13)	112.14 (112.15)	119.12 (119.11)
		標高	-11.31 (-11.32)	-95.33 (-95.34)	-102.31 (-102.30)
SF05	6.00	深度	27.21		
		標高	-21.21		
3610	36.71	深度	67.60 (67.55)		
		標高	-30.89 (-30.84)		
SF13	24.93	深度	36.05		120.47
		標高	-11.12		-95.54
SF12	24.95	深度	37.71		
		標高	-12.76		
SF11	31.51	深度	16.63		
		標高	14.88		
Tj-9	36.45	深度	36.18	107.01	112.95 (113.95)
		標高	0.27	-70.56	-76.50 (-77.50)

※赤字で記載した箇所は、コア写真による数値から柱状図に記載の数値へ変更した箇所を示す。  
 ( ) 内の数値は、第704回審査会合資料記載の数値を示す。

# 凝灰岩層深度一覽表 (H+47-Line断面)

ボーリング番号	孔口標高 (m)	深度 標高	凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			
			K-1	K-2u	K-2l	K-3
4-18	16.95	深度	56.44		139.21	
		標高	-39.49		-122.26	
4-22	4.30	深度	42.86 (42.85)	120.88	126.97	
		標高	-38.56 (-38.55)	-116.58	-122.67	
4-9	2.86	深度	27.17 (27.16)	111.90	117.75	
		標高	-24.31 (-24.30)	-109.04	-114.89	
3311	8.56	深度	34.80 (34.74)			
		標高	-26.24 (-26.18)			
4-8	6.76	深度	31.81			
		標高	-25.05			
3310	17.26	深度	14.05		116.35 (116.25)	
		標高	3.21		-99.09 (-98.99)	
4-1	6.32	深度	9.40 (9.41)			197.84 (197.83)
		標高	-3.08 (-3.09)			-191.52 (-191.51)
4-7	6.53	深度		84.70		189.16 (189.15)
		標高		-78.17		-182.63 (-182.62)
4-21	6.65	深度				
		標高				
4-6	6.33	深度		79.78	87.64	182.32
		標高		-73.45	-81.31	-175.99
SF01	6.42	深度	2.02			176.84
		標高	4.40			-170.42
SF03	6.41	深度	4.57	67.19	73.30	
		標高	1.84	-60.78	-66.89	
SF08	24.96	深度		84.29	92.28	189.37
		標高		-59.33	-67.32	-164.41
SF07	24.93	深度	16.12	90.09	95.86	182.32
		標高	8.81	-65.16	-70.93	-157.39
SF14	36.03	深度	17.93			
		標高	18.10			
W15	40.27	深度	15.10	92.60	100.19	191.29
		標高	25.17	-52.33	-59.92	-151.02
W15'	40.26	深度	17.06	94.48	100.98	193.19
		標高	23.20	-54.22	-60.72	-152.93
Tj-5	52.01	深度	27.89	100.90	108.81	
		標高	24.12	-48.89	-56.80	

※赤字で記載した箇所は、コア写真による数値から柱状図に記載の数値へ変更した箇所を示す。  
 ( ) 内の数値は、第704回審査会合資料記載の数値を示す。

# 凝灰岩層深度一覧表 (I-Line断面)

ボーリング番号	孔口標高 (m)	深度 標高	凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])				
			K-1	K-2u	K-2l	K-3	K-4
W25	6.02	深度	29.49	106.70	113.45	230.30	275.52
		標高	-23.47	-100.68	-107.43	-224.28	-269.50
3316	12.11	深度		86.14	92.75 (92.83)		
		標高		-74.03	-80.64 (-80.72)		
SF09	6.35	深度				161.53	212.89
		標高				-155.18	-206.54
No.8	6.35	深度		59.88	65.86	167.45	218.28
		標高		-53.53	-59.51	-161.10	-211.93
SF15	44.72	深度	22.43	98.33	104.43		
		標高	22.29	-53.61	-59.71		
Tj-1	46.60	深度	21.46 (21.42)		95.41	187.86	229.30
		標高	25.14 (25.18)		-48.81	-141.26	-182.70
W15	40.27	深度	15.10	92.60	100.19	191.29	237.70
		標高	25.17	-52.33	-59.92	-151.02	-197.43
W15'	40.26	深度	17.06	94.48	100.98	193.19	239.01
		標高	23.20	-54.22	-60.72	-152.93	-198.75
No.0	52.65	深度	17.30	87.20	92.90	205.68	
		標高	35.35	-34.55	-40.25	-153.03	

※赤字で記載した箇所は、コア写真による数値から柱状図に記載の数値へ変更した箇所を示す。  
 ( ) 内の数値は、第704回審査会合資料記載の数値を示す。

# 凝灰岩層深度一覧表 (K+44-Line断面)

ボーリング番号	孔口標高 (m)	深度 標高	凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			
			K-1	K-2u	K-2l	K-3
PT-0※1	-28.38	深度	93.25			
		標高	-90.78			
PT-1	-28.35	深度	37.25			
		標高	-65.60			
PT-1'	-28.46	深度	30.96			
		標高	-59.42			
PT-2	-28.46	深度	24.36			
		標高	-52.82			
PT-2''	-28.49	深度	15.14			
		標高	-43.63			
PT-2'	-28.59	深度	4.97	96.18		
		標高	-33.56	-124.77		
PT-3	-28.63	深度				
		標高				
PT-3'	-28.68	深度		87.03	91.77	
		標高		-115.71	-120.45	
PT-4	-28.75	深度		70.27		
		標高		-99.02		
PT-4''	-28.79	深度		56.36	62.71	
		標高		-85.15	-91.50	
PT-4'	-28.83	深度		49.50		
		標高		-78.33		
PT-5	-28.87	深度		48.87	54.86	
		標高		-77.74	-83.73	
PT-6	-28.89	深度		51.23	56.39	
		標高		-80.12	-85.28	
PT-6'	-28.88	深度		26.89	33.33	
		標高		-55.77	-62.21	
PT-7	-28.86	深度		19.68	24.72	
		標高		-48.54	-53.58	
5-40	11.51	深度		38.87	46.30 (46.29)	
		標高		-27.36	-34.79 (-34.78)	
5-16	5.99	深度			27.27 (27.18)	
		標高			-21.28 (-21.19)	
5-2	6.35	深度		15.24 (15.25)	21.37 (21.39)	125.59
		標高		-8.89 (-8.90)	-15.02 (-15.04)	-119.24
5-43	6.04	深度		29.56 (29.57)	37.62 (37.61)	
		標高		-23.52 (-22.53)	-31.58 (-31.57)	
3409	22.14	深度				
		標高				
6103	29.53	深度		18.58		101.49
		標高		10.95		-71.96

※1: PT-0孔は斜めボーリング (下向42°)

※赤字で記載した箇所は、コア写真による数値から柱状図に記載の数値へ変更した箇所を示す。  
( )内の数値は、第704回審査会合資料記載の数値を示す。

# 凝灰岩層深度一覽表 (L+17-Line断面)

ボーリング番号	孔口標高 (m)	深度 標高	凝灰岩層 (下限深度: 数値の単位[m])			
			K-2u	K-2l	K-3	K-4
5-11	0.75	深度		14.12 (14.11)	120.10	169.93 (169.95)
		標高		-13.37 (-13.36)	-119.35	-169.18 (-169.20)
5-10	9.75	深度	19.26	25.47		160.47 (160.46)
		標高	-9.51	-15.72		-150.72 (-150.71)
5-4	6.09	深度			109.80 (109.83)	158.75 (158.73)
		標高			-103.71 (-103.74)	-152.66 (-152.64)
5-1	9.08	深度			117.20 (117.18)	140.83 (140.82)
		標高			-108.12 (-108.10)	-131.75 (-131.74)
5-3	12.73	深度			95.69	147.12 (147.13)
		標高			-82.96	-134.39 (-134.40)
5-9	20.88	深度			101.85 (101.87)	141.40 (141.38)
		標高			-80.97 (-80.99)	-120.52 (-120.50)
5-8	23.31	深度			99.81 (99.80)	134.36 (134.35)
		標高			-76.50 (-76.49)	-111.05 (-111.04)
5-17	34.79	深度			95.88 (95.89)	
		標高			-61.09 (-61.10)	
6133	7.96	深度			66.76	110.42 (110.40)
		標高			-58.80	-102.46 (-102.44)
6106	36.48	深度			94.15 (94.16)	
		標高			-57.67 (-57.68)	
6134	44.08	深度				128.62
		標高				-84.54
6105	26.94	深度			75.40	119.78
		標高			-48.46	-92.84

※赤字で記載した箇所は、コア写真による数値から柱状図に記載の数値へ変更した箇所を示す。  
 ( ) 内の数値は、第704回審査会合資料記載の数値を示す。

**(2)**

## **H断層系の深度に関する 変更点及びその経緯**



# H断層系の深度に関する変更点及びその経緯

## <概要>

「1. 2 (1)」節で説明した凝灰岩層の分布を踏まえたH断層系確認箇所について、鉛直断面図のエビデンスとして各断層の深度を掲載した過去の審査会合資料（第608回、第654回、第704回）を再確認し、数値が変更となった箇所等について、その経緯を確認し整理した。さらにこの結果を踏まえ、新たに確認した誤記の訂正も含め、前回会合（第704回審査会合、2019.4.12）資料について記載を見直した。

## <確認結果>

・ H断層系の深度が変更となった箇所について、その経緯は以下の通りである。一覧表において、H断層系の深度に相違がみられる箇所は数値の引用元の違いにより生じているものの他、三次元モデルの検討結果の反映に伴いH断層選定部分そのものが見直されている箇所もある。

### 変更要因A（三次元モデルの検討結果）

- ① 鍵層の三次元的な分布の検討結果を踏まえ、断層の認定を追加したもの。（7箇所）
- ② 鍵層の三次元的な分布や地表付近の断層分布、BHTVの検討結果を踏まえ、断層の位置を変更したもの。（4箇所）
- ③ 鍵層の三次元的な分布の検討結果を踏まえ、断層の認定を取止めたもの。（2箇所）

### 変更要因B（数値の混在）

- ④ コア写真等による数値から柱状図に記載の数値に変更したことによる相違。（8箇所）

### 変更要因C（鍵層認定の信頼性向上）

該当なし。

### 変更要因D（三次元モデルの再確認）

- ⑤ 鍵層の三次元的な分布を再度確認した結果、断層位置の選定に誤り等を確認したもの。（1箇所）

### その他の変更要因

・追加データによる変更

- ⑥ 調査の進展や、記載断面図範囲の延長に伴う追加。（6箇所）
- ⑦ 極近傍孔の追記によるもの。（1箇所）

・誤記、記載漏れ等

- ⑧ 記載漏れや誤記等によるもの。（7箇所）
- ⑨ 前回会合資料について、新たに確認した修正漏れ。（3箇所）

・その他

- ⑩ 断面図と一覧表の記載統一、コア写真等を再確認し選定箇所を微修正したもの。（3箇所）

H断層及び鍵層となる凝灰岩層の分布に関する  
変更の経緯と主な要因（再掲）

《変更要因A 三次元モデル検討結果(H断層)》  
鍵層の三次元的な連続性を踏まえ、ボーリングにおけるH断層の選定箇所の再検討による変更

《変更要因B 数値の混在》  
鍵層となる凝灰岩層・H断層について、コア写真により再検討した際、深度を写真読み取り値により整理、柱状図記載の数値との混在が発生

《変更要因C 鍵層認定の信頼性向上》  
コア写真が無いものや層相が不鮮明な凝灰岩層は対比が不確実なものとして不採用

《変更要因D 三次元モデルの再確認》  
断層の選定ミスを確認

# 過去の資料に記載のH断層系深度（敷地西側断面）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	H断層名※2	深度 標高	敷地西側断面 H断層系（下限深度：数値の単位[m]）			変更の経緯
				第704回	第654回	第608回	
3619※1	0.70	H-2	深度	136.00	136.00	136.00	
			標高	-135.30	-135.30	-135.30	
3618※1	5.55	H-3	深度	179.80	179.80	179.80	
			標高	-174.25	-174.25	-174.25	
W4	12.03		深度				
			標高				
3617	5.30		深度				
			標高				
W5	10.95	H-3	深度	42.15	42.15	42.15	
			標高	-31.20	-31.20	-31.20	
W27	11.71	H-5	深度	62.00	62.00		新規掘削により第654回より追加。（経緯⑥）
			標高	-50.29	-50.29※3		
		H-5	深度	126.55	126.55		新規掘削により第654回より追加。（経緯⑥）
			標高	-114.84	-114.84※3		
W6'	10.52	H-5	深度	47.98	47.98	47.98	
			標高	-37.46	-37.46	-37.46	
W6	10.56	H-5	深度	23.14	23.04	23.14	第654回は、コア写真から読み取った数値を記載。それ以外は、柱状図の数値を記載。（経緯④）
			標高	-12.58	-12.48	-12.58	
W7''	10.46		深度				
			標高				
W7'	10.38	H-6	深度	97.79	97.79	97.79	
			標高	-87.41	-87.41	-87.41	
W7	10.39		深度				
			標高				
W8	10.04	H-6	深度	42.38	42.38	42.38	
			標高	-32.34	-32.34	-32.34	
W9	10.28	H-7	深度	55.18	55.18	55.61	第608回は、BHTVより読み取った数値を記載。第654回からは、柱状図の数値を記載。（経緯④）
			標高	-44.90	-44.90	-45.33	
W28	10.50	H-7	深度	47.70	47.70		新規掘削により第654回より追加。（経緯⑥）
			標高	-37.20	-37.20		

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

※1：コア写真がないため、データ集の「H断層系写真」資料なし。  
 ※2：H断層名は、第704回の地質断面図に記載の断層名を記載。  
 ※3：第654回のデータ集は入力ミスにより異なった数値が記載されており、本資料では修正した数値を記載。

# 過去の資料に記載のH断層系深度（C-Line断面）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	H断層名※2	深度 標高	C-Line断面 H断層系（下限深度：数値の単位[m]）		
				第704回	第654回	第608回
12S-8	6.09	H-2	深度	188.10	188.10	
			標高	-182.01	-182.01	
3403	2.72	H-2	深度	146.40	146.40	
			標高	-143.68	-143.68	
12S-2	6.08	H-3	深度	183.05	183.05	
			標高	-176.97	-176.97	
3404	6.24	H-3	深度	172.50	172.50	
			標高	-166.26	-166.26	
12S-5	5.99	H-3	深度	135.93	135.93	
			標高	-129.94	-129.94	
12-no.10	5.94	H-3	深度	29.00	29.00	
			標高	-23.06	-23.06	
3406※1	5.93	H-4	深度	49.60	49.60	
			標高	-43.67	-43.67	
W26	10.57	H-5	深度	190.15	190.15	
			標高	-179.58	-179.58	
HNo.2	12.26	H-5	深度	34.56	34.56	
			標高	-22.30	-22.30	


鍵層の三次元的な分布を再度確認した結果、断層位置の選定に誤りがあり、今後は深度120.20mの断層に変更。（経緯⑤）

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

※1：コア写真がないため、データ集の「H断層系写真」資料なし。  
 ※2：H断層名は、第704回の地質断面図に記載の断層名を記載。

# 過去の資料に記載のH断層系深度（F+60-Line断面）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	H断層名※2	深度 標高	F+60-Line断面 H断層系（下限深度：数値の単位[m]）			変更の経緯
				第704回	第654回	第608回	
SF12※1	24.95	H-5	深度	110.82			G-12-Lineに合わせて修正。（経緯⑧）
			標高	-85.87			
SF11※1	31.51	H-5	深度	10.90			G-12-Lineに合わせて修正。（経緯⑧）
			標高	20.61			
202	34.89		深度				
			標高				
Tj-9※1	36.45	H-6	深度	101.30			記載漏れにより，第704回より追加。（他の断面（G-12-Line断面）では記載済み）（経緯⑧）
			標高	-64.85			
205	38.19	H-6	深度	43.90	43.90		
			標高	-5.71	-5.71		
206	41.50		深度				
			標高				
207	21.00		深度				
			標高				
208	24.73		深度				
			標高				
3	48.32		深度				
			標高				
1	49.86		深度				
			標高				

 : 前回資料と比較し，数値を変更した箇所

※1：データ集の「H断層系写真」資料は，G-12-Lineの資料に添付。  
 ※2：H断層名は，第704回の地質断面図に記載の断層名を記載。

# 過去の資料に記載のH断層系深度（G-12-Line断面）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	H断層名※	深度 標高	G-12-Line断面 H断層系（下限深度：数値の単位[m]）		
				第704回	第654回	第608回
3613	6.52	H-1	深度	18.80	17.52	変更の経緯 第654回は、コア写真から読み取った数値を記載。第704回からは、柱状図の数値を記載。（経緯④）  鍵層の三次元的な分布の検討結果を踏まえ、第704回より断層を追加。（経緯①）  鍵層の三次元的な分布の検討結果を踏まえ、第704回より断層を追加。（経緯①）
			標高	-12.28	-11.00	
3612	6.38	H-2	深度	164.48	164.48	
			標高	-158.10	-158.10	
3603	5.88	H-3	深度	93.90		
			標高	-88.02		
		H-3	深度	175.00	175.00	
			標高	-169.12	-169.12	
3609	5.47	H-3	深度	90.00		
			標高	-84.53		
		H-3	深度	154.00	154.00	
			標高	-148.53	-148.53	
3608	19.19	H-3	深度	65.40	65.40	
			標高	-46.21	-46.21	
3611	16.81		深度			
			標高			
SF05	6.00	H-4	深度	111.85	111.85	
			標高	-105.85	-105.85	
3610	36.71	H-4	深度	78.00	78.00	
			標高	-41.29	-41.29	
SF13	24.93		深度			
			標高			
SF12	24.95	H-5	深度	110.82	110.82	
			標高	-85.87	-85.87	
SF11	31.51	H-5	深度	10.90	10.90	
			標高	20.61	20.61	
Tj-9	36.45	H-6	深度	101.30	101.30	
			標高	-64.85	-64.85	

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

※：H断層名は、第704回の地質断面図に記載の断層名を記載。

# 過去の資料に記載のH断層系深度（H+47-Line断面）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	H断層名※1	深度 標高	H+47-Line断面 H断層系（下限深度：数値の単位[m]）			変更の経緯
				第704回	第654回	第608回	
4-18	16.95	H-1	深度 138.50 標高 -121.55	138.50 -121.55			
4-22	4.30	H-1	深度 71.65 標高 -67.35	71.65 -67.35			
4-9	2.86	H-1	深度 17.50 標高 -14.64	17.50 -14.64			
3311	8.56		深度 標高				
4-8	6.76	H-2	深度 122.20 標高 -115.44	122.20 -115.44			
3310	17.26		深度 標高				
4-1	6.32	H-3※2	深度 119.87 標高 -113.55	119.87 -113.55			
		H-3	深度 150.38 標高 -144.06			鍵層の三次元的な分布の検討結果を踏まえ、第704回より断層を追加。（経緯①）	
4-7	6.53	H-3	深度 88.30 標高 -81.77	76.50 -69.97		鍵層の三次元的な分布の検討結果を踏まえ、第704回より断層位置を変更。（経緯②）	
			深度 54.70 標高 -48.05	39.30 -32.65		第654回は、コア写真から読み取った数値を記載。鍵層の三次元的な分布の検討結果を踏まえ、第704回より断層位置を変更。（経緯②） 数値を10cm単位で丸めていたため、今後は、柱状図に記載の数値(深度54.68m)に変更。（経緯③）	
4-21	6.65	H-3※2	深度 122.95 標高 -116.62	122.93 -116.60		第654回は、コア写真から読み取った数値を記載。第704回からは、柱状図の数値を記載。（経緯④）	
4-6	6.33	H-4	深度 71.95 標高 -65.53	71.95 -65.53			
			深度 151.12 標高 -144.70			鍵層の三次元的な分布の検討結果を踏まえ、第704回より断層を追加。（経緯①）	
SF01	6.42	H-4	深度 45.60 標高 -39.19	45.60 -39.19			
SF03	6.41	H-4	深度 124.80 標高 -118.39			鍵層の三次元的な分布の検討結果を踏まえ、第704回より断層を追加。（経緯①）	
			深度 205.97 標高 -181.01	205.97 -181.01			
SF08	24.96	H-5	深度 111.05 標高 -86.12	111.05 -86.12			
SF07	24.93	H-5	深度 標高				
SF14	36.03		深度 標高				
W15	40.27	H-6	深度 140.53 標高 -100.26	140.55 -100.28		第654回は、コア写真から読み取った数値を記載。第704回からは、柱状図の数値を記載。（経緯④）	
			深度 129.50 標高 -89.24	129.50 -89.24			
W15'	40.26	H-6	深度 33.96 標高 18.05	33.96 18.05			
Tj-5	52.01	H-6	深度 標高				

  : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

※1：H断層名は、第704回の地質断面図に記載の断層名を記載。  
 ※2：コア写真がないため、データ集の「H断層系写真」資料なし。

# 過去の資料に記載のH断層系深度（I-Line断面）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	H断層名 <sup>※2</sup>	深度 標高	I-Line断面 H断層系（下限深度：数値の単位[m]）			
				第704回	第654回	第608回	変更の経緯
W25	6.02	H-1	深度 91.80 標高 -85.78	91.80	92.35	BHTVの観察の結果、層理が明瞭であることを踏まえ、第654回より断層位置を変更。 (経緯②)	
3316	12.11	H-2	深度 24.30 標高 -12.19	24.30	46.20	地表付近の断層分布の検討結果を踏まえ、第654回より断層位置を変更。 (経緯②)	
SF09	6.35	H-4	深度 69.60 標高 -63.25			鍵層の三次元的な分布の検討結果を踏まえ、第704回より断層を追加。(経緯①)	
		H-4	深度 138.30 標高 -131.95	138.30	138.30		
No.8	6.35	H-4	深度 43.17 標高 -36.82			鍵層の三次元的な分布の検討結果を踏まえ、第704回より断層を追加。(経緯①)	
		H-4	深度 101.50 標高 -95.15	101.50	101.50		第608回から第704回の数値は誤記。今後はコア写真による性状を踏まえ、柱状図に示す数値(深度101.35m)に変更。(経緯⑨)
		H-5	深度		259.32	第608回に記載の数値は誤記。(経緯⑧) なお、断層は認定(深度253.40m)しているが、地質断面図全体の表示範囲を統一するため記載取止め。(経緯⑩) 鉛直断面図の記載と統一するため、今後は一覧表へも記載する。(経緯⑩)	
			標高		-252.97		
SF15	44.72	H-5	深度 111.20 標高 -66.48	111.20	111.20	記載漏れにより、第654回より追加。(経緯⑧) 鍵層の三次元的な分布の検討結果を踏まえ、第704回より断層を削除。(経緯③)	
		H-5	深度 181.40 標高 -136.68	181.40	-136.68		
Tj-1	46.60	H-5	深度 58.64 標高 -12.04	58.64	59.25	第608回は、コア写真から読み取った数値を記載。第654回からは、柱状図に記載の地層混交帯の数値を記載。(経緯④) 再度、柱状図を確認した結果、深度59.25mに開離型断層の記載があり、BHTVからも断層が明瞭であることから、今後は第608回に記載の数値へ変更。(経緯⑩)	
			深度 152.75 標高 -106.15	152.75	155.10		第608回は、コア写真から読み取った数値を記載。第654回は、柱状図に記載の地層混交帯の数値を記載。(経緯④) 鍵層の三次元的な分布の検討結果を踏まえ、第704回より断層を削除。(経緯③)
		H-5	深度 140.53 標高 -100.26	140.53	140.53	第654回は、コア写真から読み取った数値を記載。それ以外は、柱状図の数値を記載。 (経緯④)	
W15 <sup>※1</sup>	40.27	H-6	深度 129.50 標高 -89.24	129.50		W15とW15'は極近傍に位置するため、第608回はW15のみを記載。(経緯⑦)	
W15' <sup>※1</sup>	40.26	H-6	深度 84.85 標高 -32.20 <sup>※3</sup>	84.85	84.85		
No.0	52.65	H-6	標高 -32.20 <sup>※3</sup>	-32.20 <sup>※3</sup>	-32.20		

     : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

※1：データ集の「H断層系写真」資料は、H+47-Lineの資料に添付。  
 ※2：H断層名は、第704回の地質断面図に記載の断層名を記載。  
 ※3：第654回及び第704回のデータ集は入力ミスにより異なった数値が記載されており、本資料では修正した数値を記載。

# 過去の資料に記載のH断層系深度（K+44-Line断面）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	H断層名※2	深度 標高	K+44-Line断面 H断層系（下限深度：数値の単位[m]）			備考
				第704回	第654回	第608回	
PT-0※1	-28.38	H-m4	深度 標高	34.74 -51.63	34.74 -51.63	34.74 -51.63	
PT-1	-28.35		深度 標高				
PT-1'	-28.46		深度 標高				
PT-2	-28.46		深度 標高				
PT-2''	-28.49	H-m3	深度 標高	42.30 -70.79	42.30 -70.79	42.43 -70.92	第608回はコアから読取った際に誤記。第654回からは、柱状図の数値を記載。（経緯⑧）
PT-2'	-28.59		深度 標高				
PT-3	-28.63		深度 標高				
PT-3'	-28.68	H-m2	深度 標高	95.83 -124.51	95.83 -124.51	95.83 -124.51	
PT-4	-28.75		深度 標高				
PT-4''	-28.79	H-m1	深度 標高	74.94 -103.73	74.94 -103.73	74.94 -103.73	
PT-4'	-28.83		深度 標高				
PT-5	-28.87		深度 標高				
PT-6	-28.89	H-m0	深度 標高	68.16 -97.05	68.16 -97.05	68.16 -97.05	
PT-6'	-28.88	H-m0	深度 標高	35.38 -64.26	35.38 -64.26	35.38 -64.26	
PT-7	-28.86	H-m0	深度 標高	4.58 -33.44	4.58 -33.44	4.58 -33.44	
5-40	11.51		深度 標高				
5-16	5.99	H-1	深度 標高	54.70 -48.71	54.70 -48.71		第654回より断面にボーリング孔を追加。（経緯⑥）
5-2	6.35	H-2	深度 標高	154.00 -147.65			第654回より断面にボーリング孔を追加したが、記載漏れにより第704回より記載。（経緯⑧） 1m単位で丸めていたため、今後は柱状図に記載の数値(深度153.73m)に変更。（経緯⑨）
5-43	6.04		深度 標高				
3409	22.14	H-2	深度 標高	39.60 -17.46	39.60 -17.46		第654回より断面にボーリング孔を追加。（経緯⑥）
6103	29.53	H-5	深度 標高	60.51 -30.98			第704回より断面にボーリング孔を追加。（経緯⑥）

：前回資料と比較し、数値を変更した箇所

※1：PT-0孔は斜めボーリング（下向42°）  
 ※2：H断層名は、第704回の地質断面図に記載の断層名を記載。



# 過去の資料に記載のH断層系深度（L+17-Line断面）

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	H断層名※	深度 標高	L+17-Line断面 H断層系（下限深度：数値の単位[m]）		
				第704回	第654回	第608回
5-11	0.75	H-1	深度 181.21 標高 -180.46	181.21	-180.46	
5-10	9.75	H-1	深度 94.70 標高 -84.95	94.70	-84.95	
		H-1	深度 109.30 標高 -99.55	109.30	-99.55	
5-4	6.09	H-2	深度 218.75 標高 -212.66	218.75	-212.66	
5-1	9.08	H-2	深度 132.40 標高 -123.32	132.40	-123.32	
5-3	12.73	H-2	深度 47.10 標高 -34.37	47.10	-34.37	
5-9	20.88	H-3	深度 139.84 標高 -118.96	139.84	-118.96	
		H-3	深度 221.55 標高 -200.67	221.55	-200.67	
5-8	23.31	H-3	深度 25.52 標高 -2.21	25.52	-2.21	
		H-3	深度 114.55 標高 -91.24	114.55	-91.24	
		H-4	深度 211.75 標高 -188.44	211.75	-188.44	
5-17	34.79	H-3	深度 72.73 標高 -37.94	72.73	-37.94	
6133	7.96	H-3	深度 17.40 標高 -9.44	17.40	-9.44	
		H-4	深度 95.56 標高 -87.60	95.56	-87.60	
6106	36.48	H-4	深度 4.60 標高 31.88	4.60	31.88	
6134	44.08	H-5	深度 83.24 標高 -39.16	83.24	-39.16	
6105	26.94		深度 標高			

     : 前回資料と比較し、数値を変更した箇所

※：H断層名は、第704回の地質断面図に記載の断層名を記載。

# 過去の資料におけるH断層の深度の確認結果及び今後の対応

- H断層系の深度に相違がみられる箇所は、数値の引用元の違いにより生じているものの他、三次元モデルの検討結果の反映に伴いH断層選定部分そのものが見直されている箇所もある。
- H断層の深度が変更となった箇所について、その経緯は以下の通りである。

## 変更要因A（三次元モデルの検討結果）

- ① 鍵層の三次元的な分布の検討結果を踏まえ、断層の認定を追加したもの。（7箇所）
- ② 鍵層の三次元的な分布や地表付近の断層分布、BHTVの検討結果を踏まえ、断層の位置を変更したもの。（4箇所）
- ③ 鍵層の三次元的な分布の検討結果を踏まえ、断層の認定を取止めたもの。（2箇所）

➔これらは、新たな観点による検討（地質の三次元分布の考慮等）の結果生じたものである。今後は変更の都度明記する。

## 変更要因B（数値の混在）

- ④ コア写真等による数値から柱状図に記載の数値に変更したことによる相違。（8箇所）

➔これらは、データの引用元（データの種類）の相違により生じたものである。今後は柱状図に記載の数値に統一する。

## 変更要因C（鍵層認定の信頼性向上）

該当なし。

## 変更要因D（三次元モデルの再確認）

- ⑤ 鍵層の三次元的な分布を再度確認した結果、断層位置の選定に誤り等を確認したもの。（1箇所）

➔今後は、資料作成時のチェックをより入念に行う。

## その他変更要因

・追加データによる変更

- ⑥ 調査の進展や、記載断面図範囲の延長に伴う追加。（6箇所）
- ⑦ 極近傍孔の追記によるもの。（1箇所）

➔これらは、説明性向上に関連し生じたものである。今後は変更の都度明記する。

・誤記、記載漏れ等、その他

- ⑧ 記載漏れや誤記等によるもの。（7箇所）
- ⑨ 新たに確認した修正漏れ。（3箇所）
- ⑩ 断面図と一覧表の記載統一、コア写真等を再確認し選定箇所を微修正したもの。（3箇所）

➔今後は、資料作成時のチェックをより入念に行う。


H断層及び鍵層となる凝灰岩層の分布に関する  
変更の経緯と主な要因（再掲）

《変更要因A 三次元モデル検討結果(H断層)》  
鍵層の三次元的な連続性を踏まえ、ボーリングにおけるH断層の選定箇所の再検討による変更

《変更要因B 数値の混在》  
鍵層となる凝灰岩層・H断層について、コア写真により再検討した際、深度を写真読み取り値により整理、柱状図記載の数値との混在が発生

《変更要因C 鍵層認定の信頼性向上》  
コア写真が無いものや層相が不鮮明な凝灰岩層は対比が不確実なものとして不採用

《変更要因D 三次元モデルの再確認》  
断層の選定ミスを確認



## **(参考) 今後用いるH断層系深度**

# 今後用いるH断層系深度

## ○敷地西側断面

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	H断層名	深度(m)	
			標高(m)	
3619	0.70	H-2	136.00	
			-135.30	
3618	5.55	H-3	179.80	
			-174.25	
W4	12.03			
3617	5.30			
W5	10.95	H-3	42.15	
			-31.20	
W27	11.71	H-5	62.00	
			-50.29	
		H-5	126.55	
			-114.84	
W6'	10.52	H-5	47.98	
			-37.46	
W6	10.56	H-5	23.14	
			-12.58	
W7''	10.46			
W7'	10.38	H-6	97.79	
			-87.41	
W7	10.39			
W8	10.04	H-6	42.38	
			-32.34	
W9	10.28	H-7	55.18	
			-44.90	
W28	10.50	H-7	47.70	
			-37.20	

## ○C-Line断面

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	H断層名	深度(m)	
			標高(m)	
12S-8	6.09	H-2	188.10	
			-182.01	
3403	2.72	H-2	146.40	
			-143.68	
12S-2	6.08	H-3	183.05	
			-176.97	
3404	6.24	H-3	172.50	
			-166.26	
12S-5	5.99	H-3	135.93	
			-129.94	
12-no.10	5.94	H-3	29.00	
			-23.06	
3406	5.93	H-4	49.60	
			-43.67	
W26	10.57	H-5	120.20	
			(190.15)	
			-109.63	
HNo.2	12.26	H-5	34.56	
			-22.30	

※赤字で記載した箇所は、今回の資料より数値を変更した箇所を示す。  
 ( ) 内の数値は、第704回審査会合資料記載の数値を示す。

# 今後用いるH断層系深度

○F+60-Line断面

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	H断層名	深度(m)	
			標高(m)	
SF12	24.95	H-5	110.82	
			-85.87	
SF11	31.51	H-5	10.90	
			20.61	
202	34.89			
Tj-9	36.45	H-6	101.30	
			-64.85	
205	38.19	H-6	43.90	
			-5.71	
206	41.50			
207	21.00			
208	24.73			
3	48.32			
1	49.86			

○G-12-Line断面

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	H断層名	深度(m)	
			標高(m)	
3613	6.52	H-1	18.80	
			-12.28	
3612	6.38	H-2	164.48	
			-158.10	
3603	5.88	H-3	93.90	
			-88.02	
		H-3	175.00	
			-169.12	
3609	5.47	H-3	90.00	
			-84.53	
		H-3	154.00	
			-148.53	
3608	19.19	H-3	65.40	
			-46.21	
3611	16.81			
SF05	6.00	H-4	111.85	
			-105.85	
3610	36.71	H-4	78.00	
			-41.29	
SF13	24.93			
SF12	24.95	H-5	110.82	
			-85.87	
SF11	31.51	H-5	10.90	
			20.61	
Tj-9	36.45	H-6	101.30	
			-64.85	

# 今後用いるH断層系深度

## ○H+47-Line断面

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	H断層名	深度(m)	
			標高(m)	
4-18	16.95	H-1	138.50	
			-121.55	
4-22	4.30	H-1	71.65	
			-67.35	
4-9	2.86	H-1	17.50	
			-14.64	
3311	8.56			
4-8	6.76	H-2	122.20	
			-115.44	
3310	17.26			
4-1	6.32	H-3	119.87	
			-113.55	
		H-3	150.38	
4-7	6.53	H-3	-144.06	
			88.30	
4-21	6.65	H-3	-81.77	
			54.68 (54.70)	
4-6	6.33	H-4	-48.03 (-48.05)	
			122.95	
SF01	6.42	H-4	-116.62	
			71.95	
		H-4	-65.53	
SF03	6.41	H-4	151.12	
			-144.70	
		H-4	45.60	
SF08	24.96	H-5	-39.19	
			124.80	
SF07	24.93	H-5	-118.39	
			205.97	
SF14	36.03	H-5	-181.01	
			111.05	
W15	40.27	H-6	-86.12	
			140.53	
W15'	40.26	H-6	-100.26	
			129.50	
Tj-5	52.01	H-6	-89.24	
			33.96	
			18.05	

## ○I-Line断面

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	H断層名	深度(m)	
			標高(m)	
W25	6.02	H-1	91.80	
			-85.78	
3316	12.11	H-2	24.30	
			-12.19	
SF09	6.35	H-4	69.60	
		H-4	-63.25	
No.8	6.35	H-4	138.30	
			-131.95	
		H-4	43.17	
			-36.82	
			101.35 (101.50)	
H-5	-95.00 (-95.15)			
	253.40 (記載なし)			
SF15	44.72	H-5	-247.05 (記載なし)	
			111.20	
Tj-1	46.60	H-5	-66.48	
			59.25 (58.64)	
		H-5	-12.65 (-12.04)	
W15	40.27	H-6	140.53	
			-100.26	
W15'	40.26	H-6	129.50	
			-89.24	
No.0	52.65	H-6	84.85	
			-32.20	

※赤字で記載した箇所は、今回の資料より数値を変更した箇所を示す。  
 ( ) 内の数値は、第704回審査会合資料記載の数値を示す。

# 今後用いるH断層系深度

○K+44-Line断面

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	H断層名	深度(m)	
			標高(m)	
PT-0	-28.38	H-m4	34.74	-51.63
PT-1	-28.35			
PT-1'	-28.46			
PT-2	-28.46			
PT-2''	-28.49	H-m3	42.30	-70.79
PT-2'	-28.59			
PT-3	-28.63			
PT-3'	-28.68	H-m2	95.83	-124.51
PT-4	-28.75			
PT-4''	-28.79	H-m1	74.94	-103.73
PT-4'	-28.83			
PT-5	-28.87			
PT-6	-28.89	H-m0	68.16	-97.05
PT-6'	-28.88	H-m0	35.38	-64.26
PT-7	-28.86	H-m0	4.58	-33.44
5-40	11.51			
5-16	5.99	H-1	54.70	-48.71
5-2	6.35	H-2	153.73	(154.00)
			-147.38	
			(-147.65)	
5-43	6.04			
3409	22.14	H-2	39.60	-17.46
6103	29.53	H-5	60.51	-30.98

○L+17-Line断面

ボーリング 番号	孔口標高 (m)	H断層名	深度(m)	
			標高(m)	
5-11	0.75	H-1	181.21	-180.46
5-10	9.75	H-1	94.70	-84.95
			109.30	-99.55
		H-2	218.75	-212.66
5-4	6.09	H-2	132.40	-123.32
5-1	9.08	H-2	47.10	-34.37
5-3	12.73	H-2	139.84	-118.96
5-9	20.88	H-3	221.55	-200.67
			25.52	-2.21
		H-3	114.55	-91.24
5-8	23.31	H-3	211.75	-188.44
			72.73	-37.94
		H-4	17.40	-9.44
5-17	34.79	H-3	95.56	-87.60
6133	7.96	H-4	4.60	31.88
			83.24	-39.16
6106	36.48	H-4		
6134	44.08	H-5		
6105	26.94			

※赤字で記載した箇所は、今回の資料より数値を変更した箇所を示す。  
( )内の数値は、第704回審査会合資料記載の数値を示す。

**(3)**

## **H断層系分布図の変更点及びその経緯**



## <概要>

### i. 過去の資料におけるH断層系分布図の変更点

H断層系分布図（鉛直断面図）については、1.2(1)及び1.2(2)において説明した鍵層となる凝灰岩層及びH断層系の変更や、地質構造の三次元的な検討結果等に伴い、その線形の変更を実施している。本節では、H断層系分布図（鉛直断面図）の線形変更を伴う主要な変更箇所について、それらとの関連性を説明する。

### ii. 今回の資料におけるH断層系分布図の変更点

前回会合（第704回審査会合、2019.4.12）資料中のH断層系分布図について、新たに確認した誤記の訂正も含め、iの結果を踏まえ記載を見直した。

A white lowercase letter 'i' centered within a square orange-to-red gradient box.

# 過去の資料における H断層系分布図の変更点

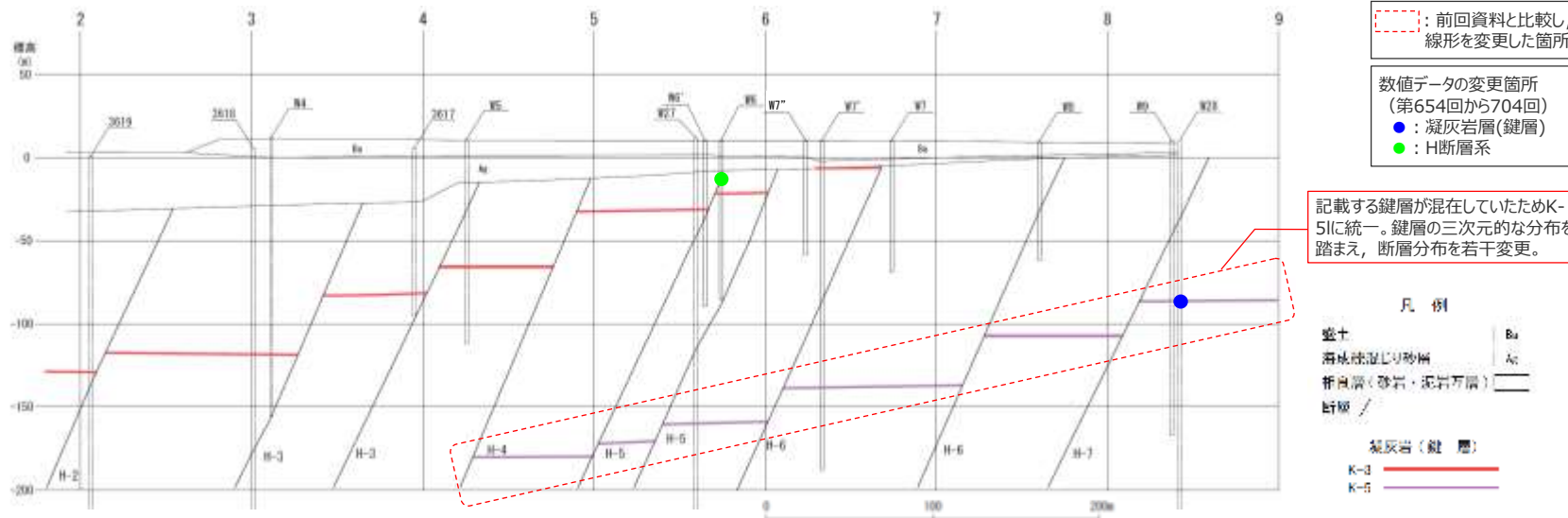


# 敷地西側断面

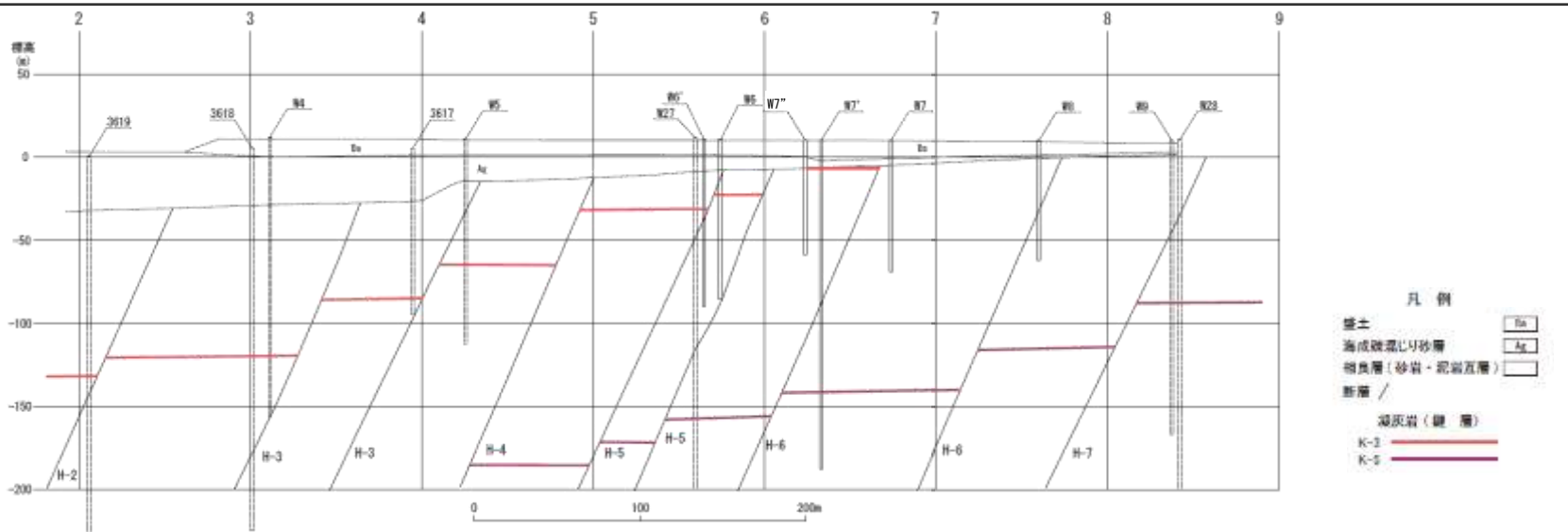
# H断層系分布図の変更点（敷地西側断面）

敷地西側 断面図（第654回から第704回の変化箇所）

第704回  
審査会合



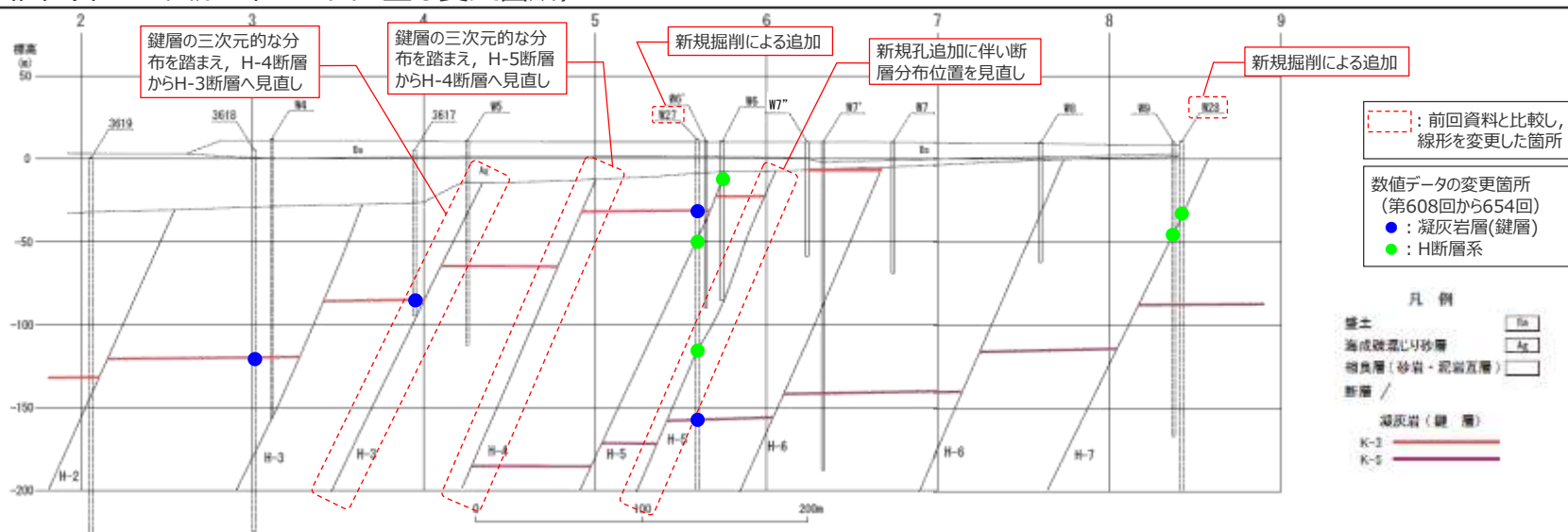
第654回  
審査会合



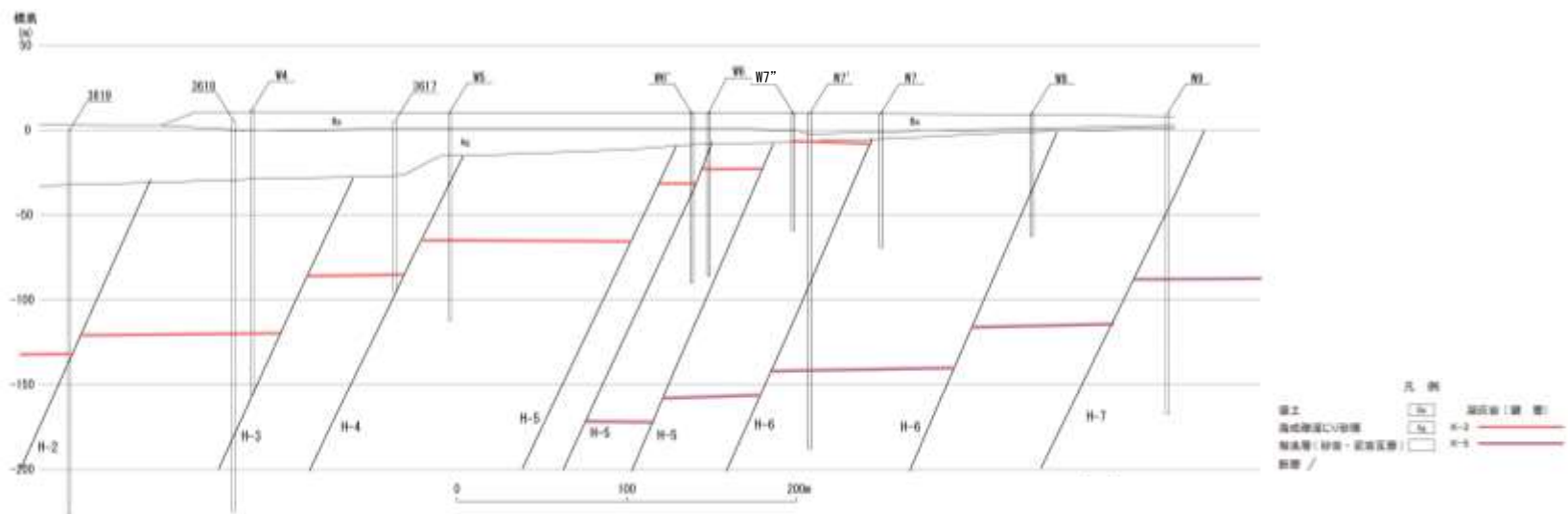
# H断層系分布図の変更点（敷地西側断面）

敷地西側 断面図（第608回から第654回までの主な変更箇所）

第654回  
審査会合



第608回  
審査会合





# C-Line断面

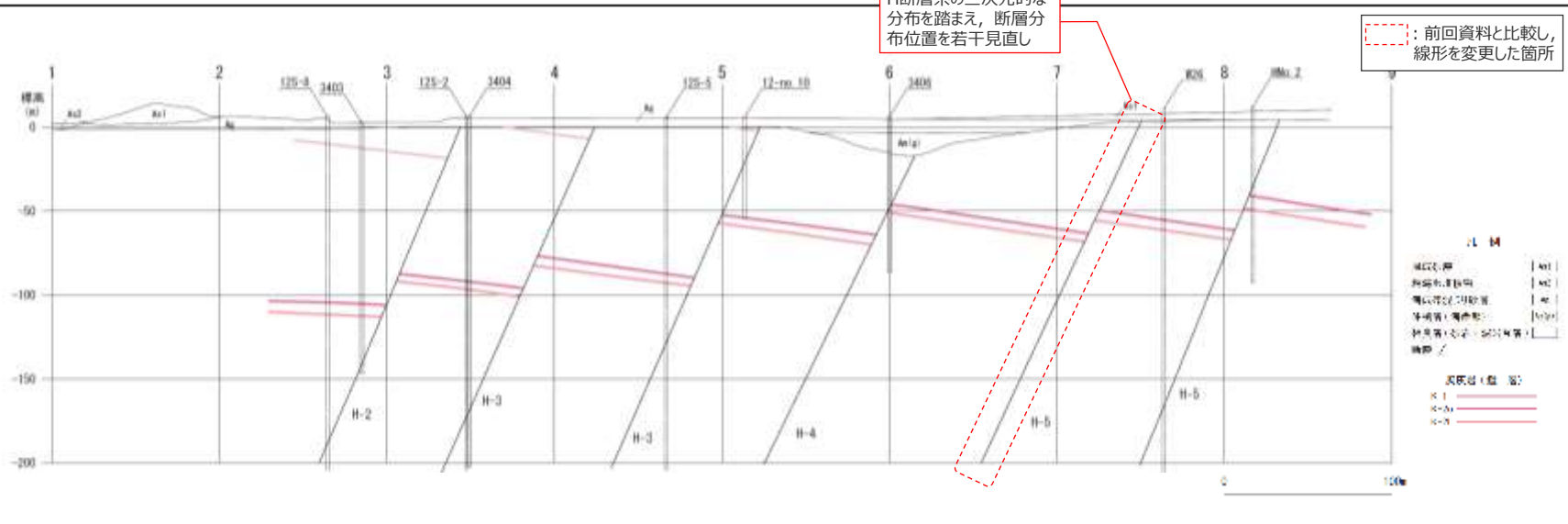
# H断層系分布図の変更点（C-Line断面）

C-Line 断面図（第654回から第704回までの主な変更箇所）

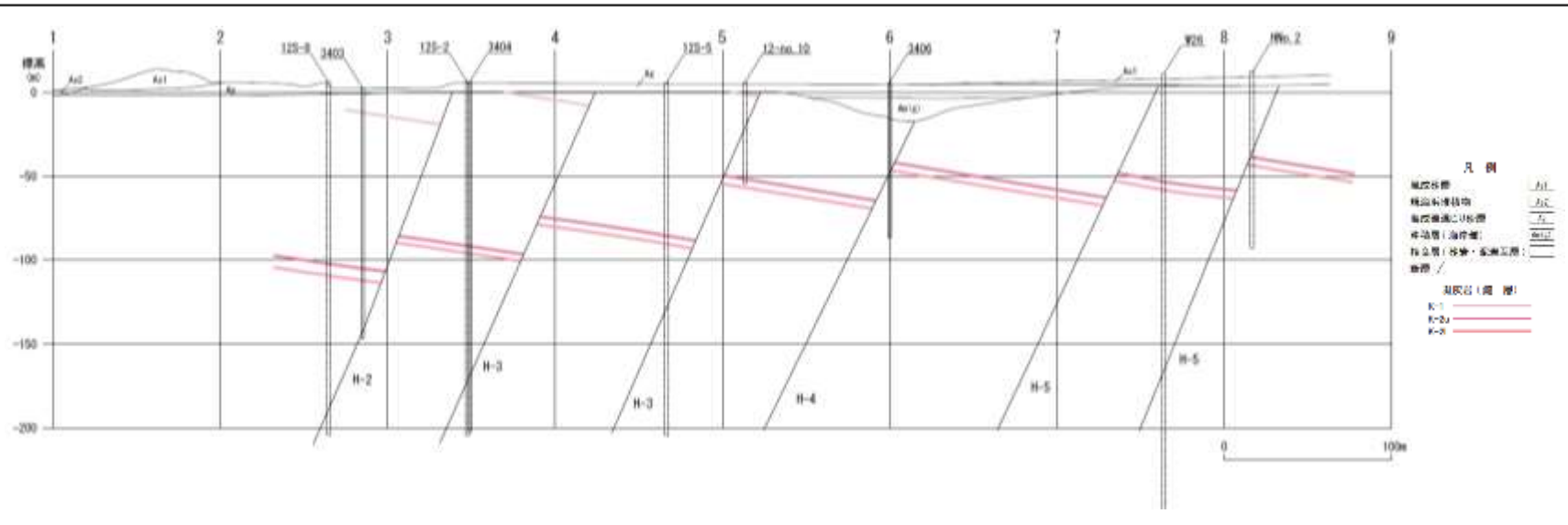
H断層系の三次元的な分布を踏まえ、断層分布位置を若干見直し

：前回資料と比較し、線形を変更した箇所

第704回  
審査会合



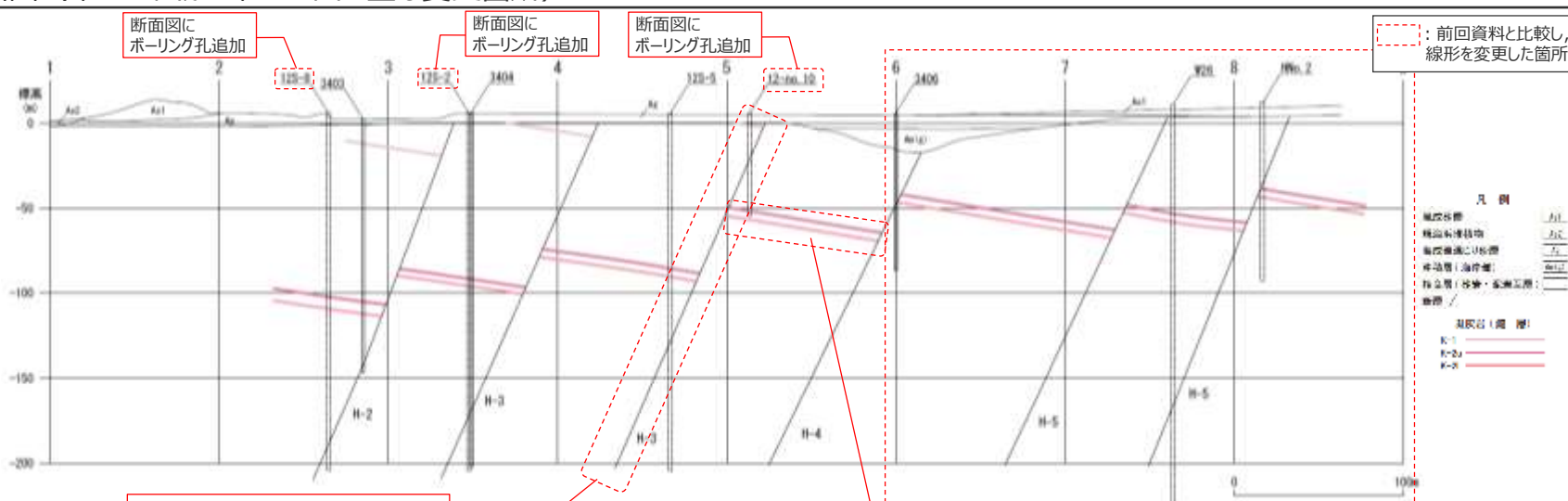
第654回  
審査会合



# H断層系分布図の変更点（C-Line断面）

C-Line 断面図（第608回から第654回の主な変更箇所）

第654回  
審査会合

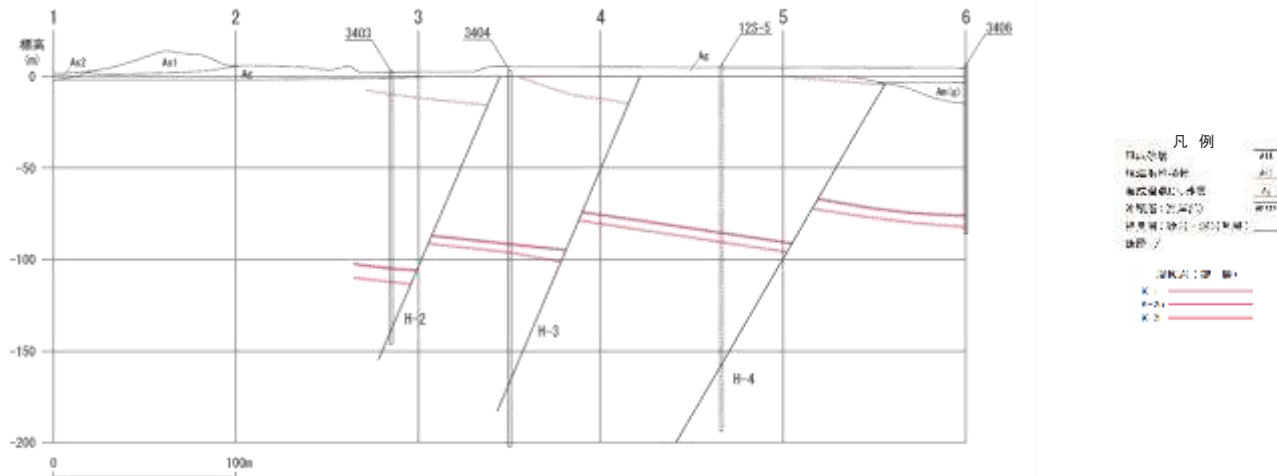


12-no.10の追加に伴い、12S-5の断層位置を変更したことにより、断層分布を見直し（以前の断層は傾斜が緩いことから、上位の断層へ変更）

50m程東側で新たに掘削したW38孔で鍵層となる凝灰岩層が確認されたことから、分布位置を若干見直し

敷地北部を追加

第608回  
審査会合







# F+60-Line断面

# H断層系分布図の変更点 (F+60-Line断面)

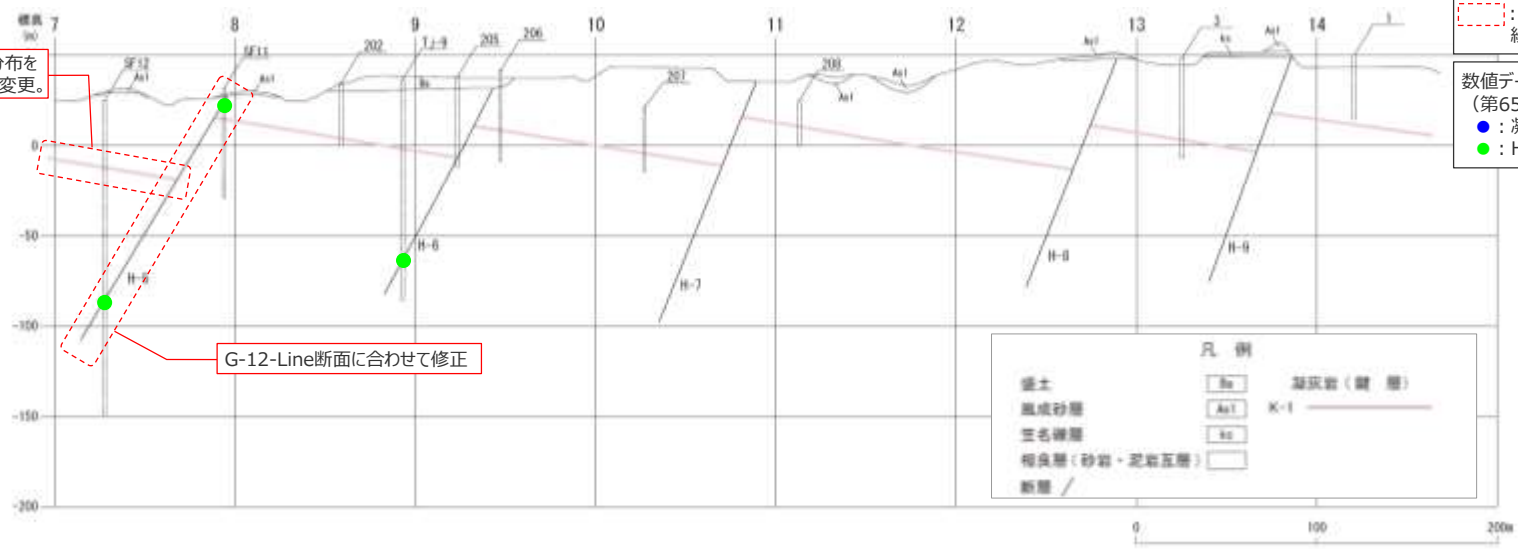
F+60-Line 断面図 (第654回から第704回 of 主な変更箇所)

鍵層の三次元的な分布を踏まえ、鍵層分布を変更。

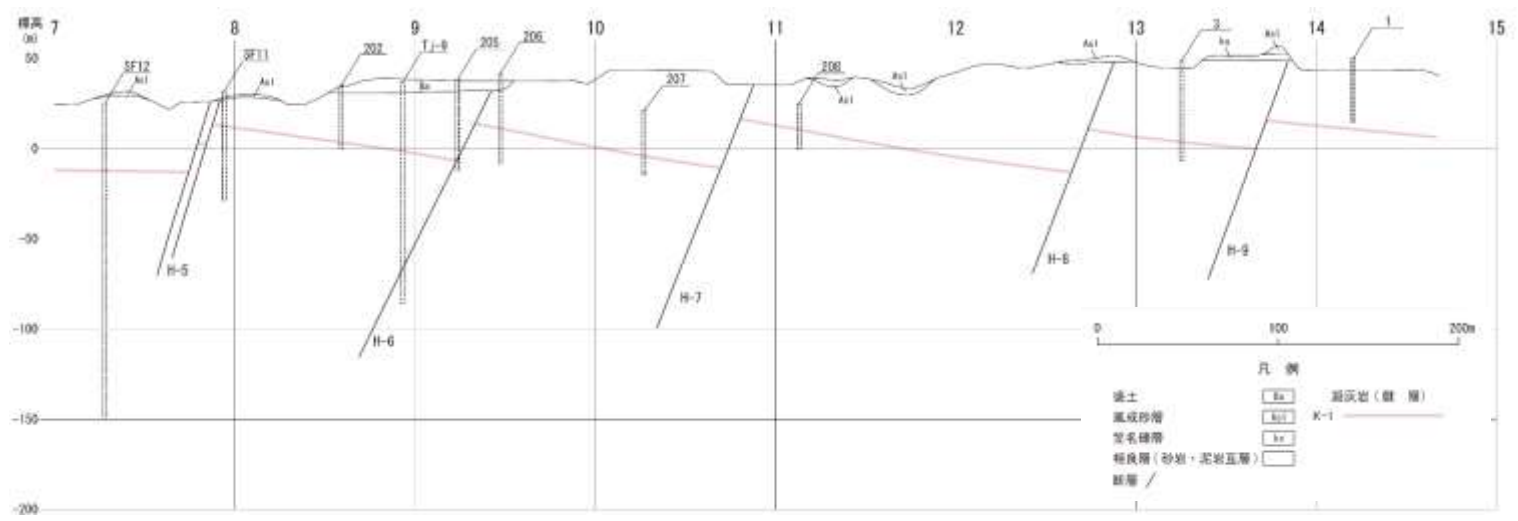
---: 前回資料と比較し、線形を変更した箇所

数値データの変更箇所 (第654回から704回)  
 ●: 凝灰岩層(鍵層)  
 ●: H断層系

第704回  
審査会合



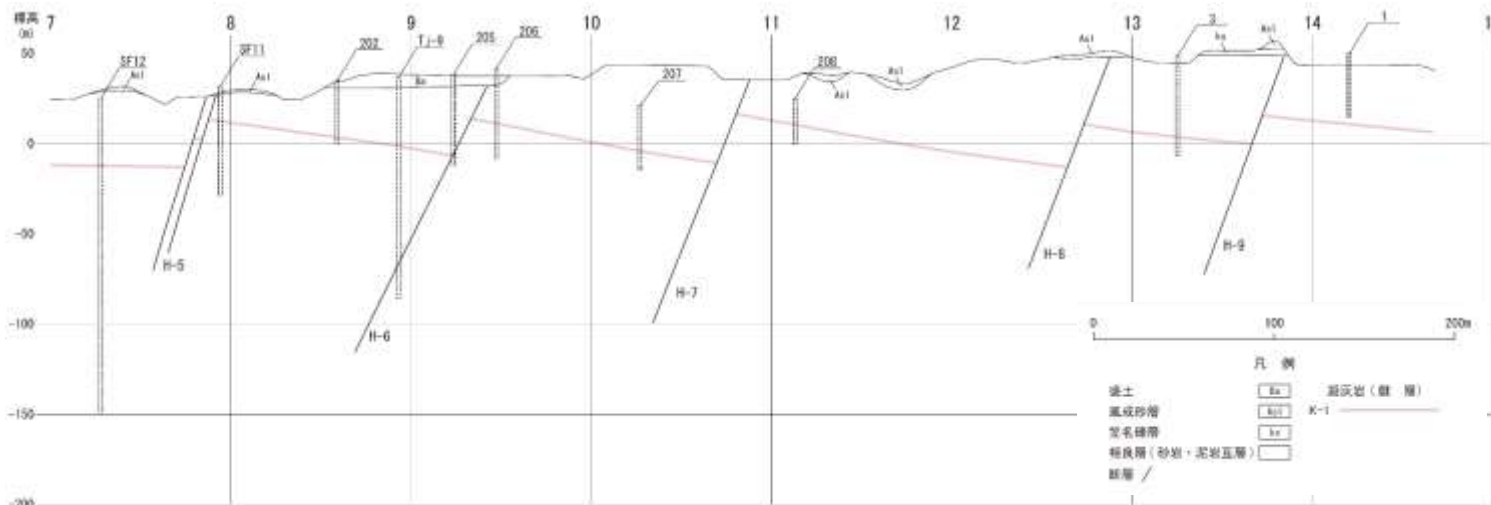
第654回  
審査会合



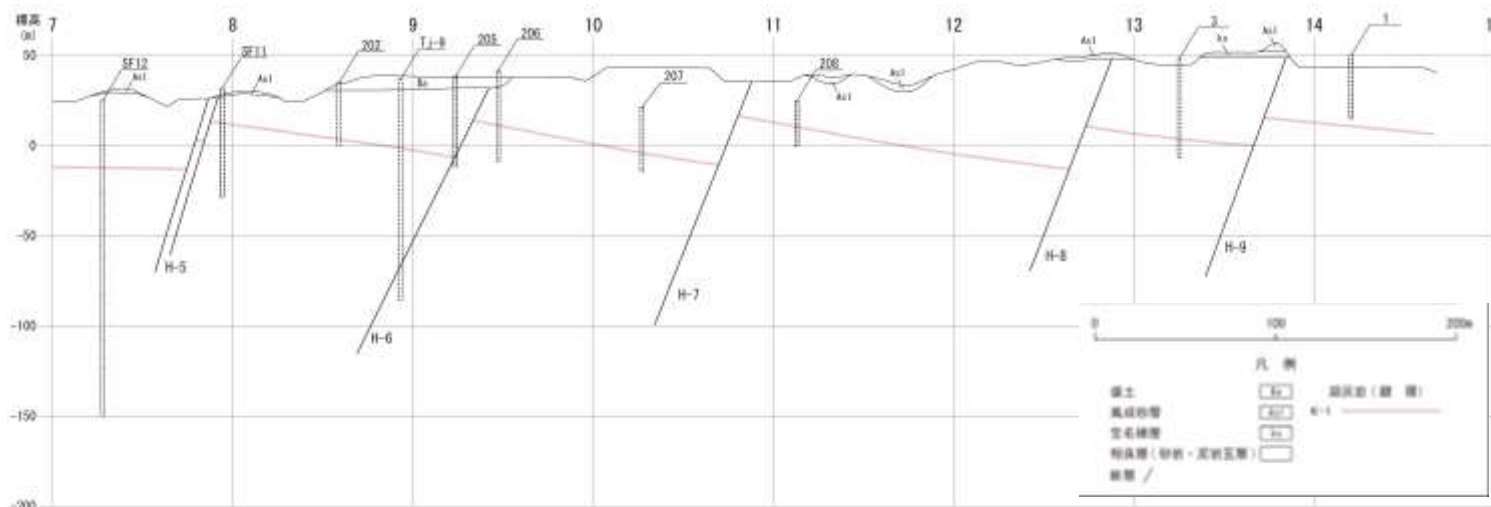
# H断層系分布図の変更点 (F+60-Line断面)

F+60-Line 断面図 (第608回から第654回の主な変更箇所)

第654回  
審査会合  
(第608回  
審査会合と  
同じ)



第608回  
審査会合



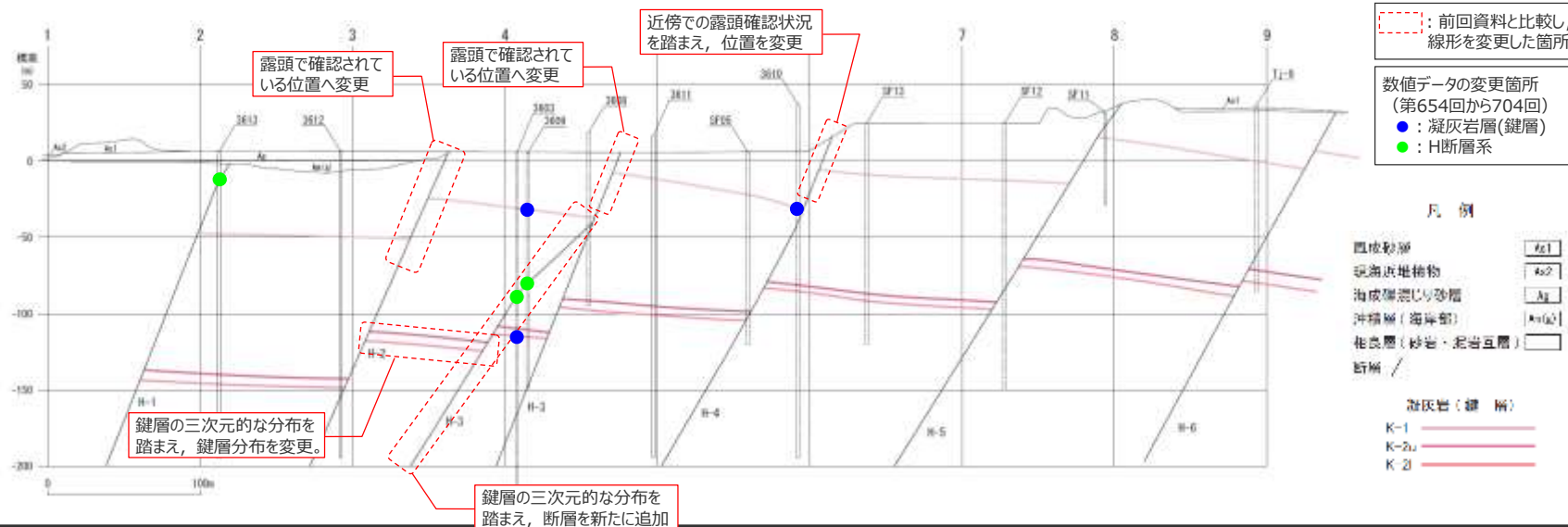


# G-12-Line断面

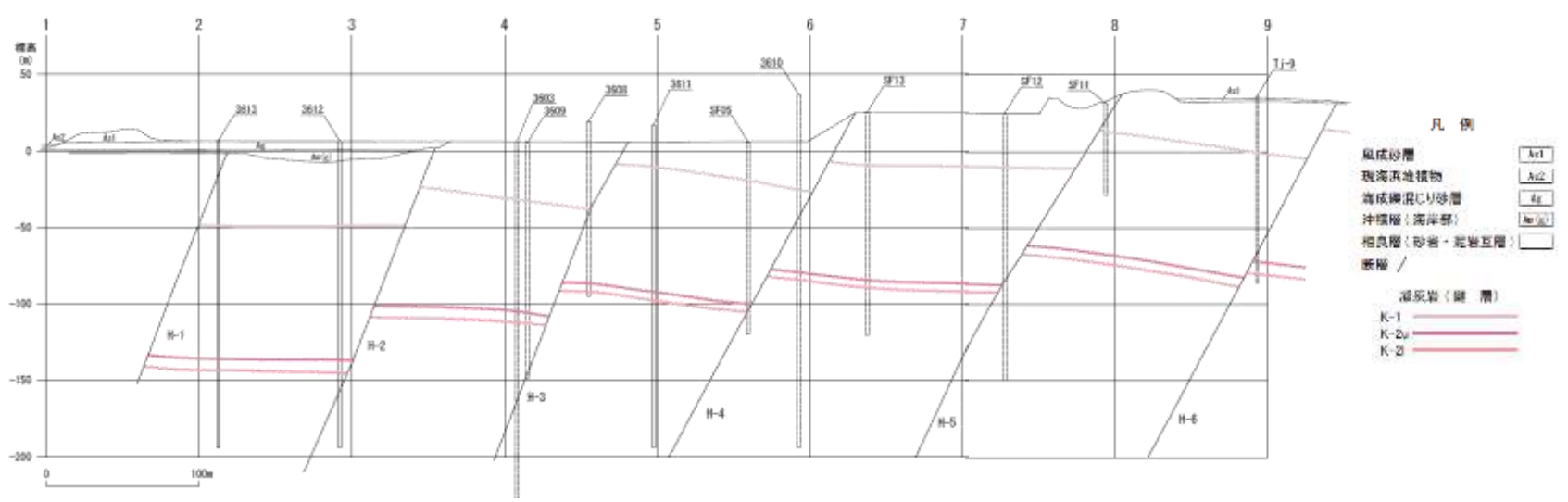
# H断層系分布図の変更点 (G-12-Line断面)

G-12-Line 断面図 (第654回から第704回の主な変更箇所)

第704回  
審査会合



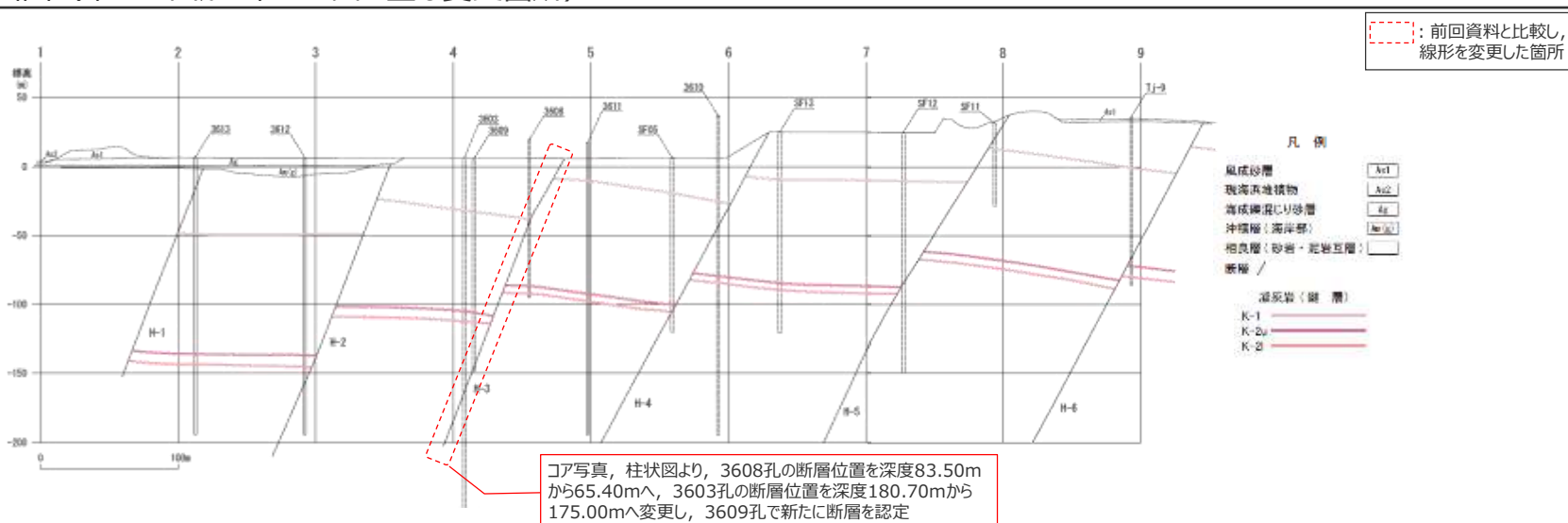
第654回  
審査会合



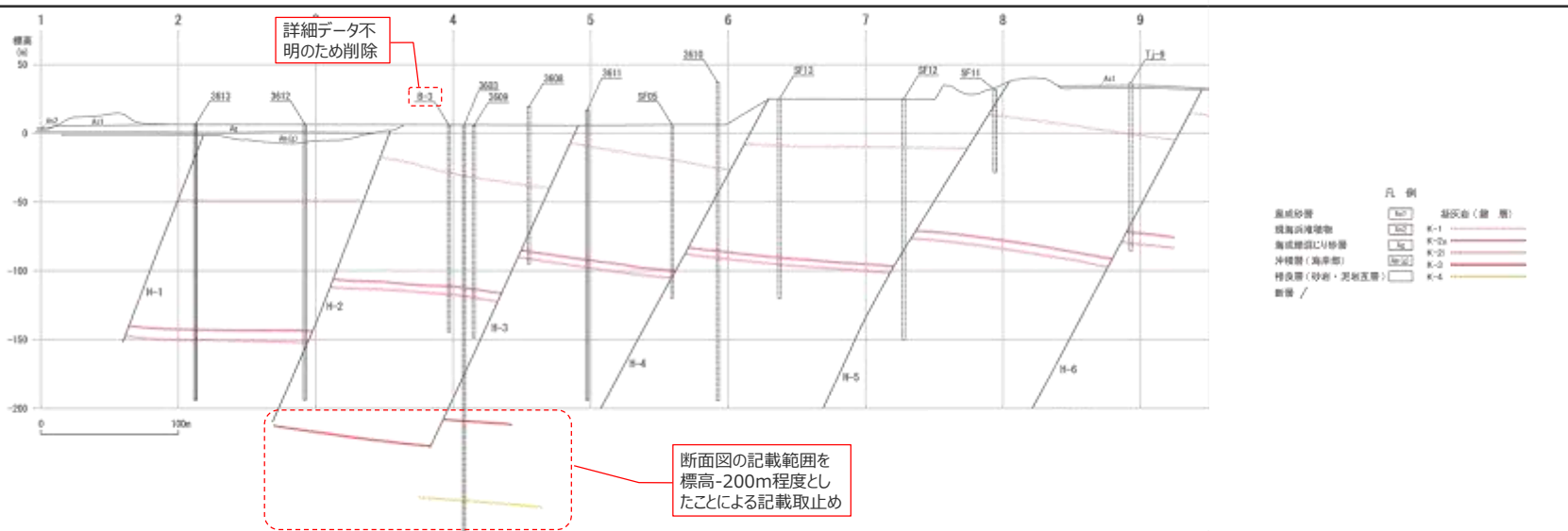
# H断層系分布図の変更点 (G-12-Line断面)

G-12-Line 断面図 (第608回から第654回の主な変更箇所)

第654回  
審査会合



第608回  
審査会合



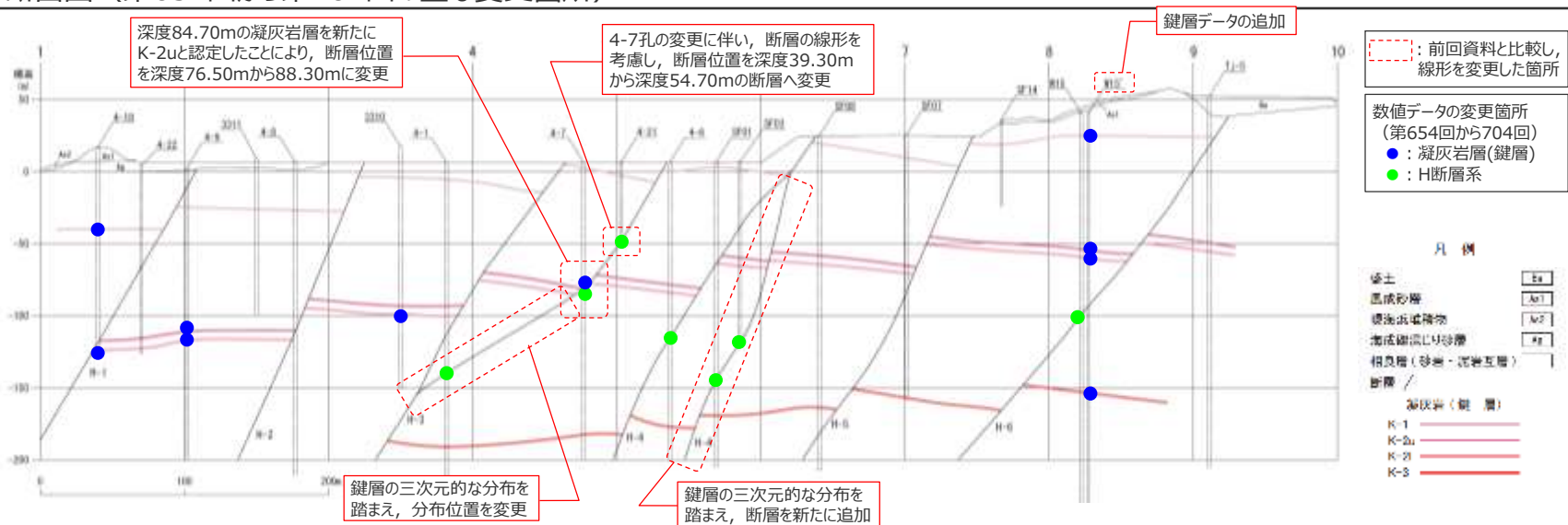


# H+47-Line断面

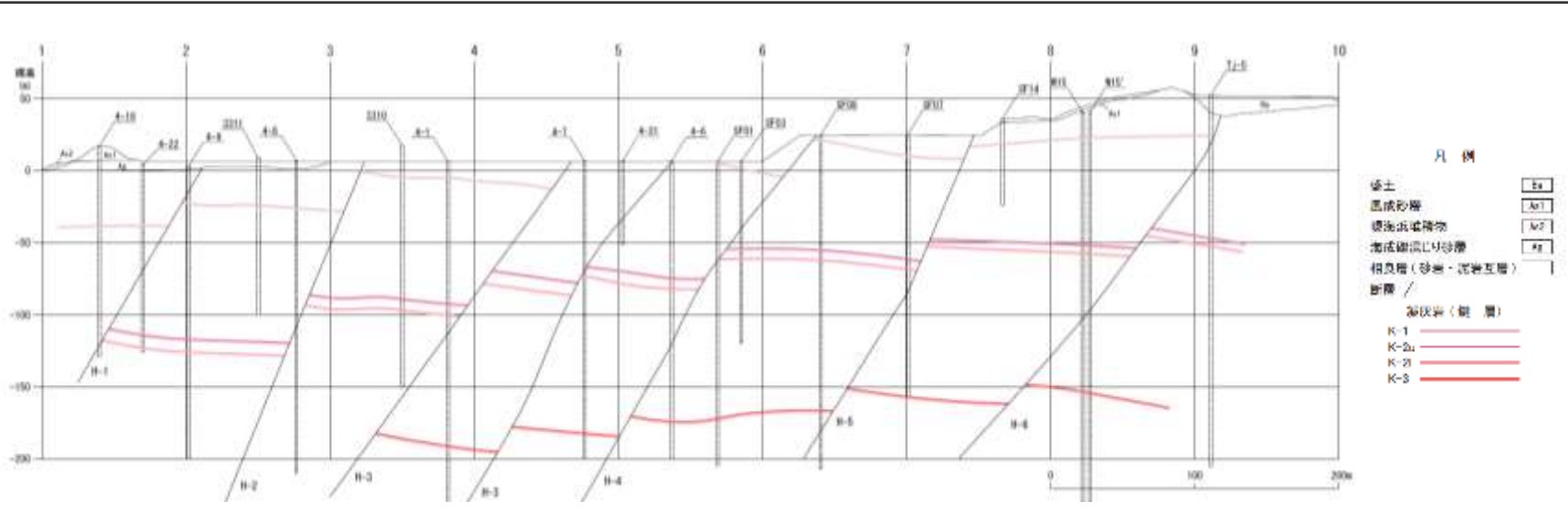
# H断層系分布図の変更点（H+47-Line断面）

H+47-Line 断面図（第654回から第704回的主要変更箇所）

第704回  
審査会合



第654回  
審査会合

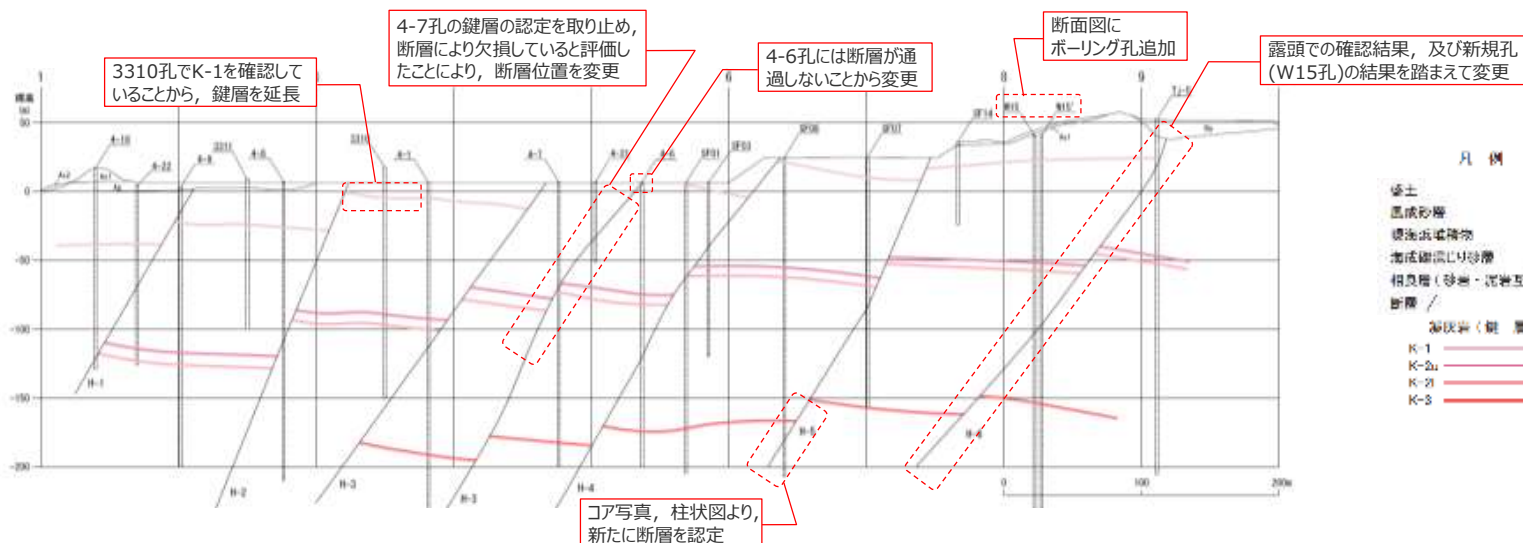




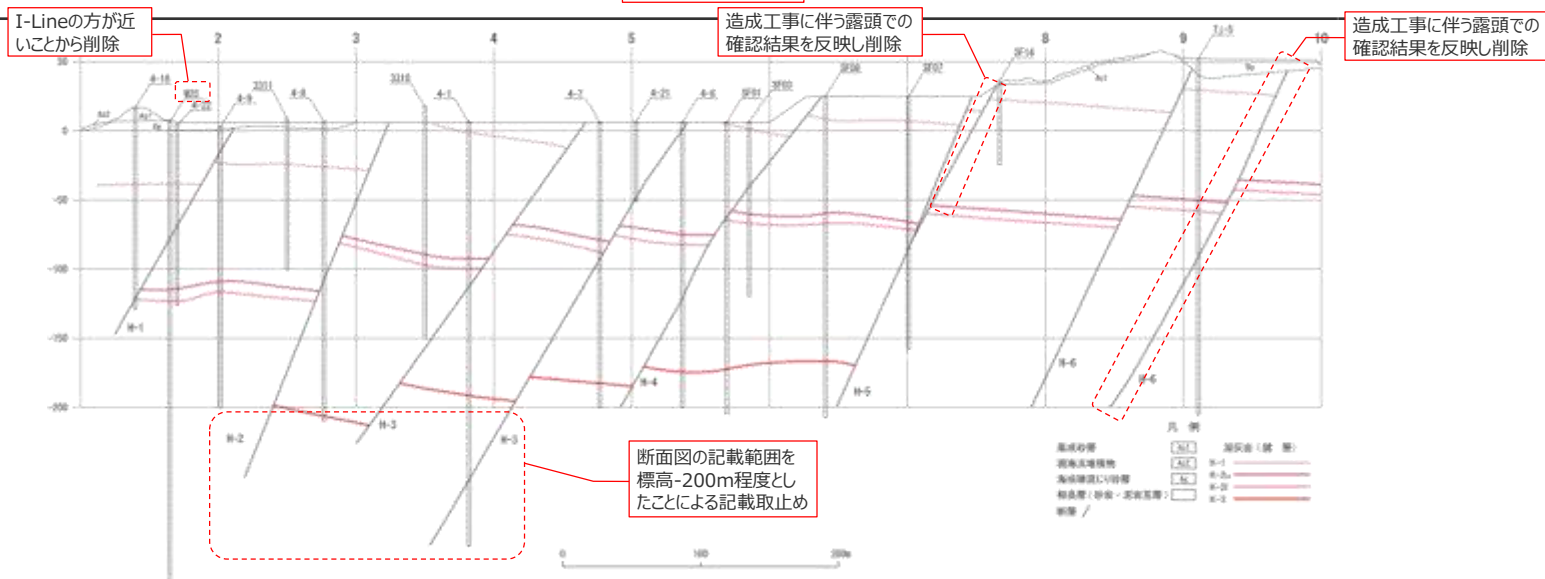
# H断層系分布図の変更点 (H+47-Line断面)

H+47-Line 断面図 (第608回から第654回の主な変更箇所)

第654回  
審査会合



第608回  
審査会合





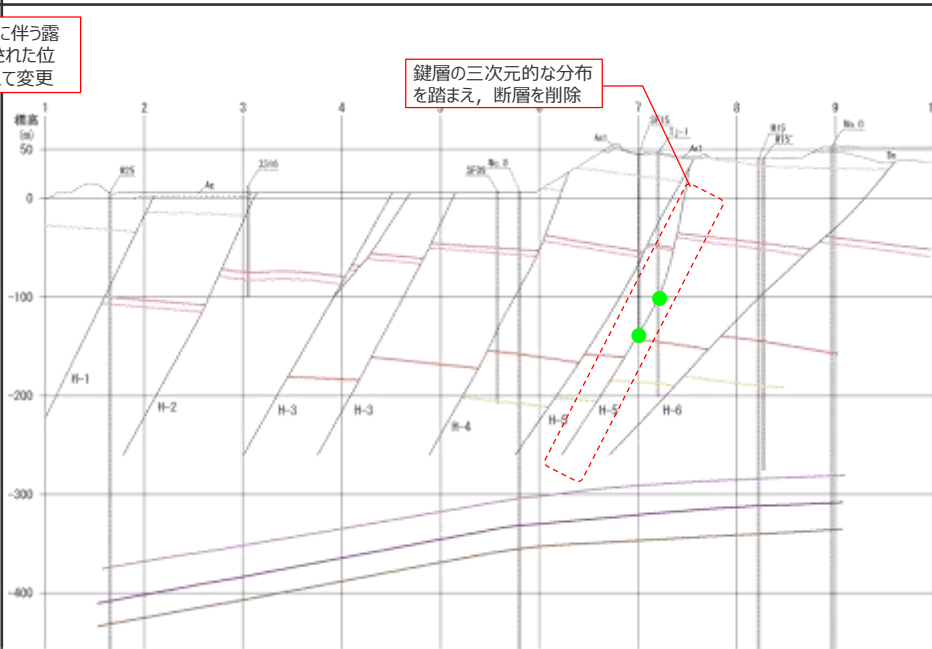
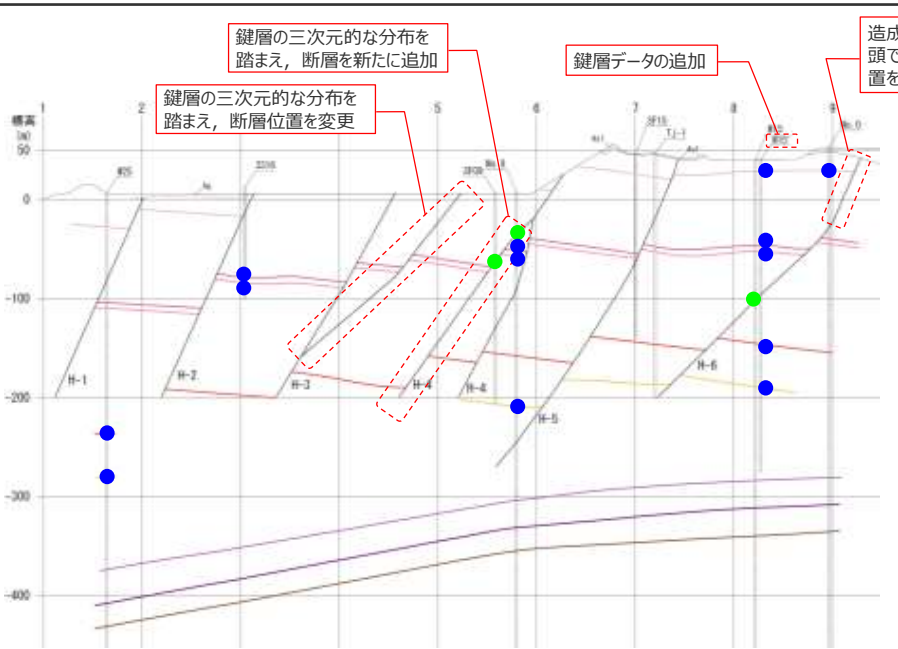
# I-Line断面

# H断層系分布図の変更点 (I-Line断面)

I-Line 断面図 (第654回から第704回的主要変更箇所)

## 第704回審査会合

## 第654回審査会合

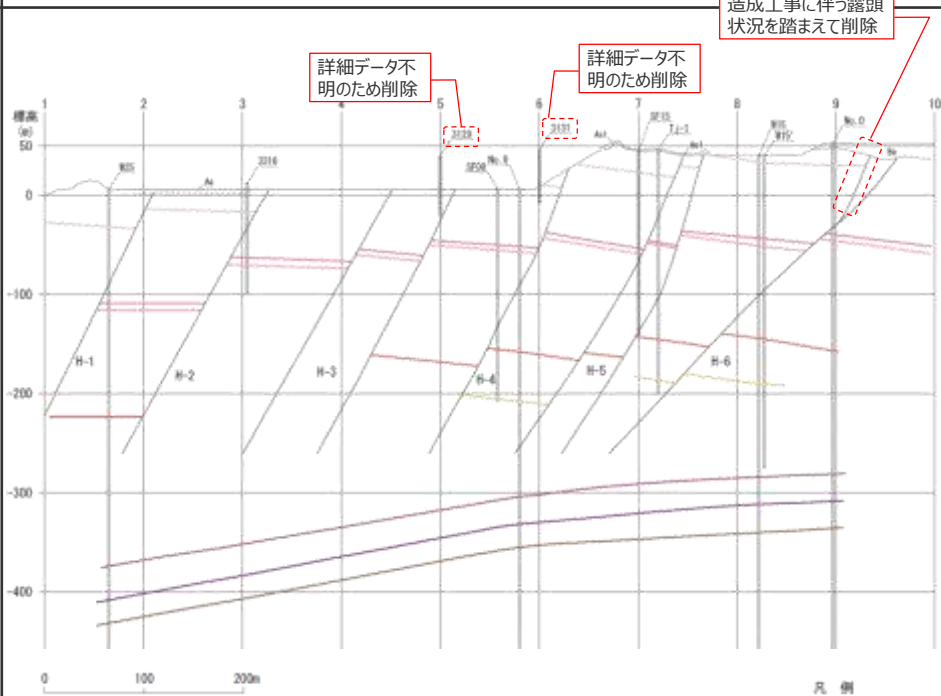
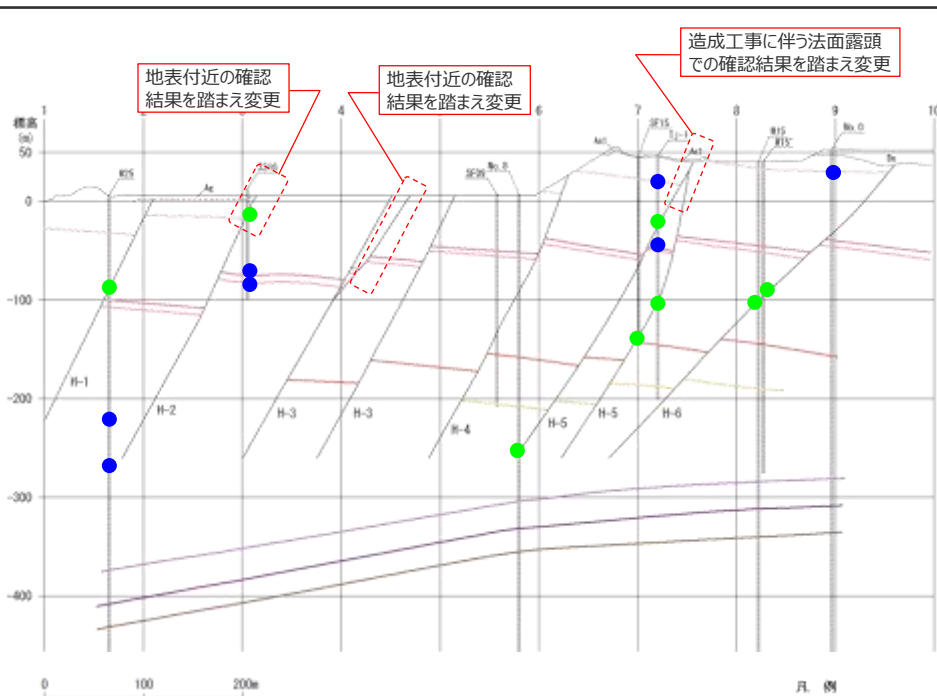


# H断層系分布図の変更点 (I-Line断面)

I-Line 断面図 (第608回から第654回の主な変更箇所)

## 第654回審査会合

## 第608回審査会合



---: 前回資料と比較し、線形を変更した箇所

数値データの変更箇所 (第608回から654回)

- : 凝灰岩層(鍵層)
- : H断層系

- 凡例
- 凝土 [K]
  - 風成砂層 [K1]
  - 海成礫泥に砂層 [K2]
  - 粘灰層(砂岩・泥岩互層) [K3]
  - 礫層 / [K8]
- 凝灰岩(鍵層)
- K-1
  - K-2a
  - K-2b
  - K-3
  - K-4
  - K-5
  - K-6
  - K-7

- 凡例
- 凝土 [K]
  - 風成砂層 [K1]
  - 海成礫泥に砂層 [K2]
  - 粘灰層(砂岩・泥岩互層) [K3]
  - 礫層 / [K8]
- 凝灰岩(鍵層)
- K-1
  - K-2a
  - K-2b
  - K-3
  - K-4
  - K-5
  - K-6
  - K-7

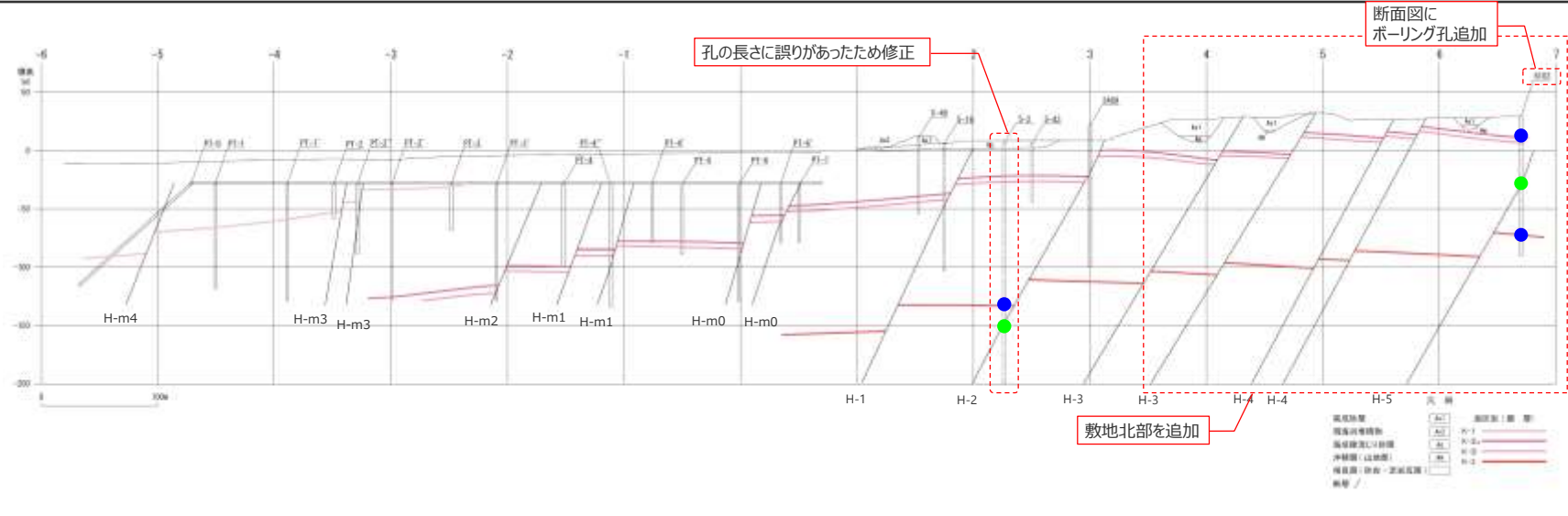


# K+44-Line断面 (海域断面)

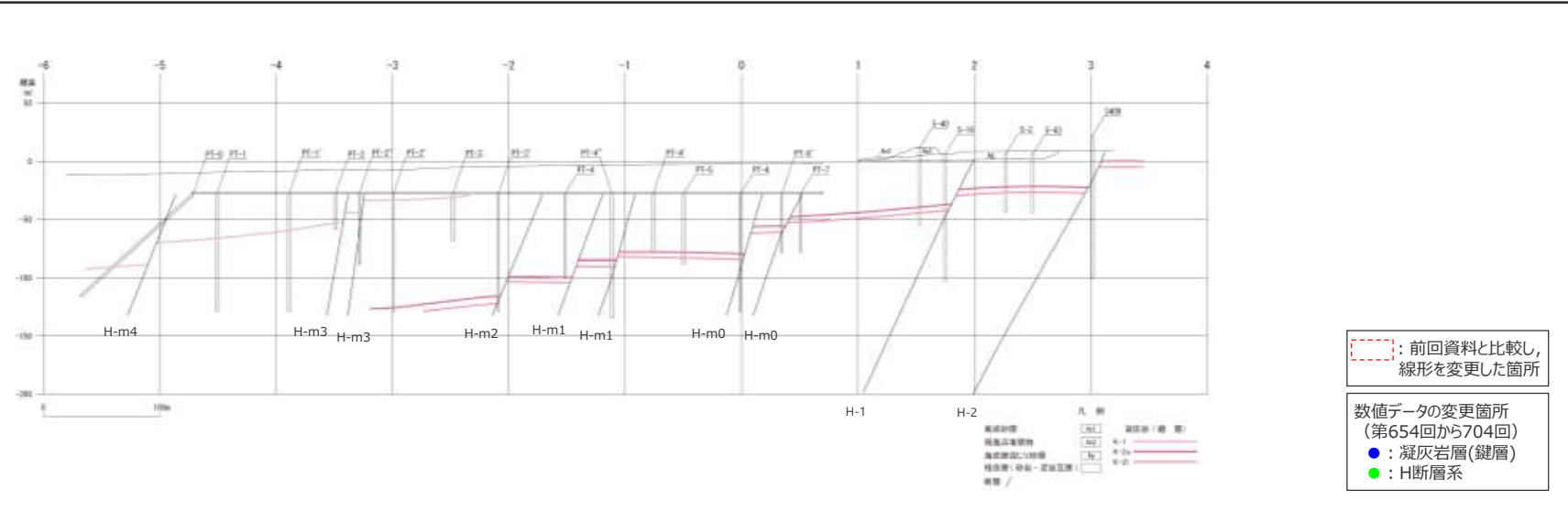
# H断層系分布図の変更点 (K+44-Line断面)

K+44-Line 断面図 (第654回から第704回の主な変更箇所)

第704回  
審査会合



第654回  
審査会合

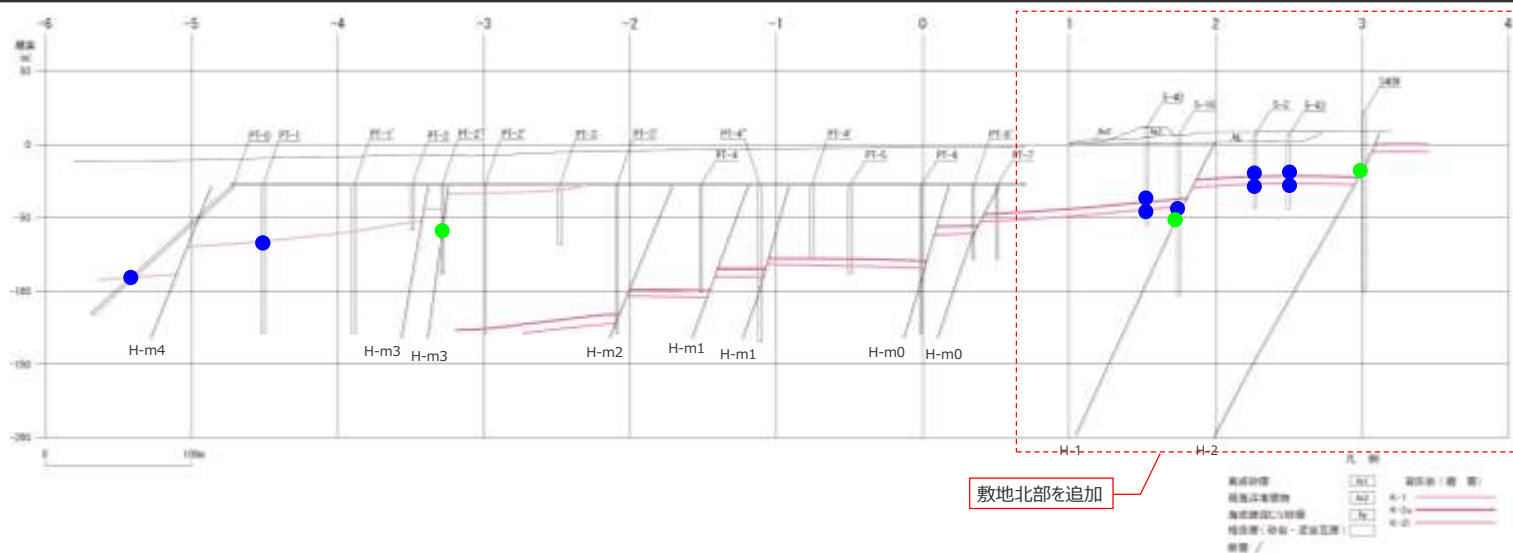


   : 前回資料と比較し、線形を変更した箇所  
 ● : 凝灰岩層(鍵層)  
 ● : H断層系

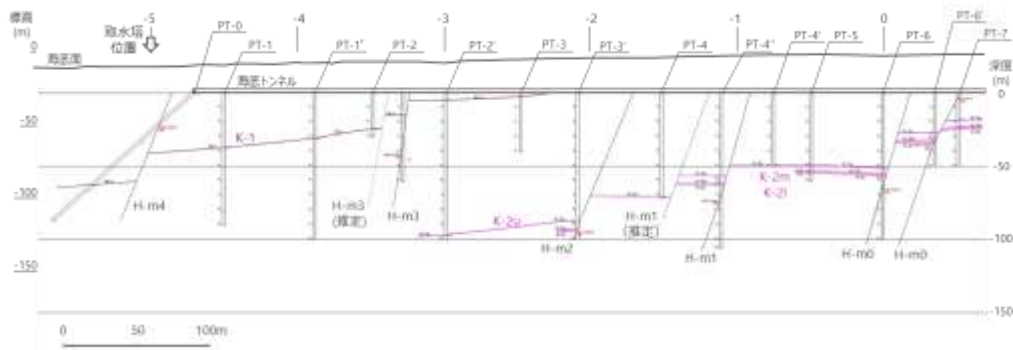
# H断層系分布図の変更点 (K+44-Line断面)

K+44-Line 断面図 (第608回から第654回の変更箇所)

第654回  
審査会合



第608回  
審査会合



- : 前回資料と比較し、線形を変更した箇所
- 数値データの変更箇所 (第608回から654回)
- : 凝灰岩層(鍵層)
- : H断層系



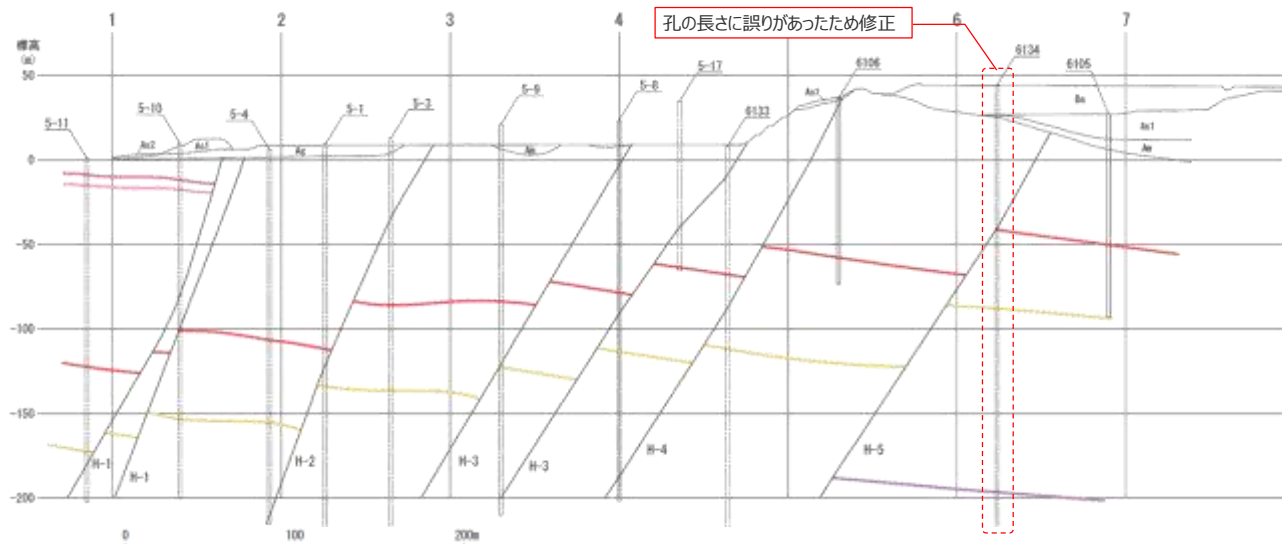
# L+17-Line断面



# H断層系分布図の変更点 (L+17-Line断面)

L+17-Line 断面図 (第654回から第704回の主な変更箇所)

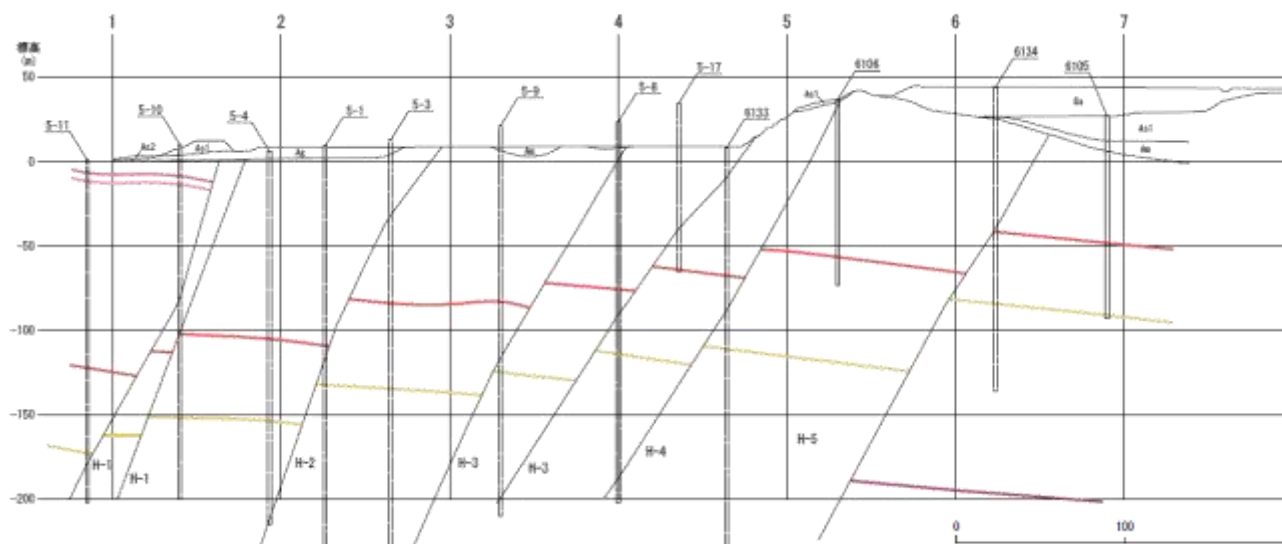
第704回  
審査会合



---: 前回資料と比較し、  
線形を変更した箇所

- 凡例
- |               |       |          |
|---------------|-------|----------|
| 凝土            | [Aa]  | 凝灰岩 (硬層) |
| 風成砂層          | [Aa1] | K-2a     |
| 浅海沖積物         | [Aa2] | K-2b     |
| 海成礫層 (砂層)     | [Aa3] | K-3      |
| 沖積層 (山地部)     | [Aa4] | K-4      |
| 相良層 (砂岩・泥岩互層) | [Aa]  | K-5      |
| 断層 /          | [ ]   |          |

第654回  
審査会合



- 凡例
- |               |       |          |
|---------------|-------|----------|
| 凝土            | [Aa]  | 凝灰岩 (硬層) |
| 風成砂層          | [Aa1] | K-2a     |
| 浅海沖積物         | [Aa2] | K-2b     |
| 海成礫層 (砂層)     | [Aa3] | K-3      |
| 沖積層 (山地部)     | [Aa4] | K-4      |
| 相良層 (砂岩・泥岩互層) | [Aa]  | K-5      |
| 断層 /          | [ ]   |          |

# H断層系分布図の変更点 (L+17-Line断面)

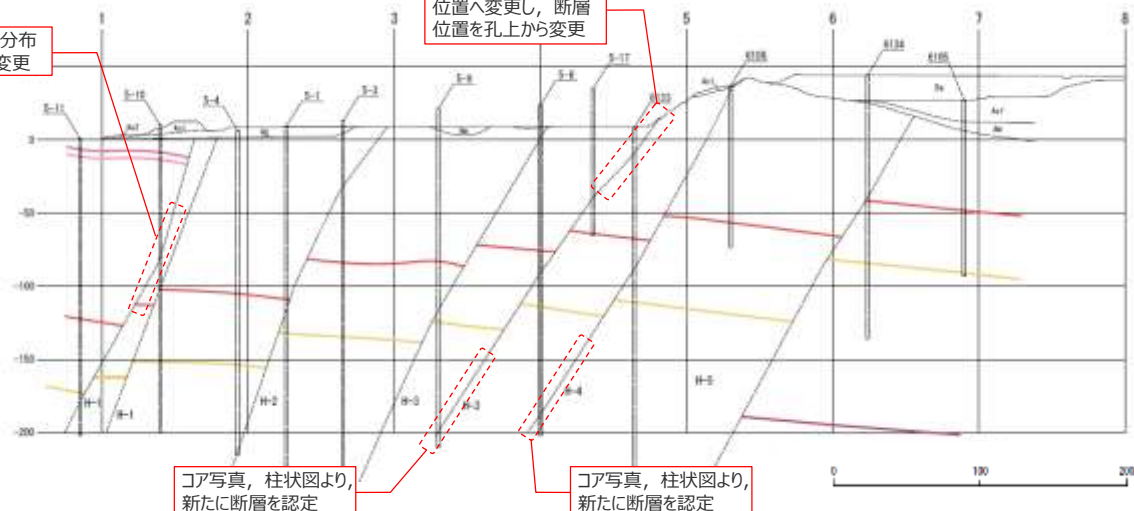
L+17-Line 断面図 (第608回から第654回的主要変更箇所)

H断層系の三次元的な分布を踏まえ、断層位置を変更

露頭で確認されている位置へ変更し、断層位置を孔上から変更

：前回資料と比較し、線形を変更した箇所

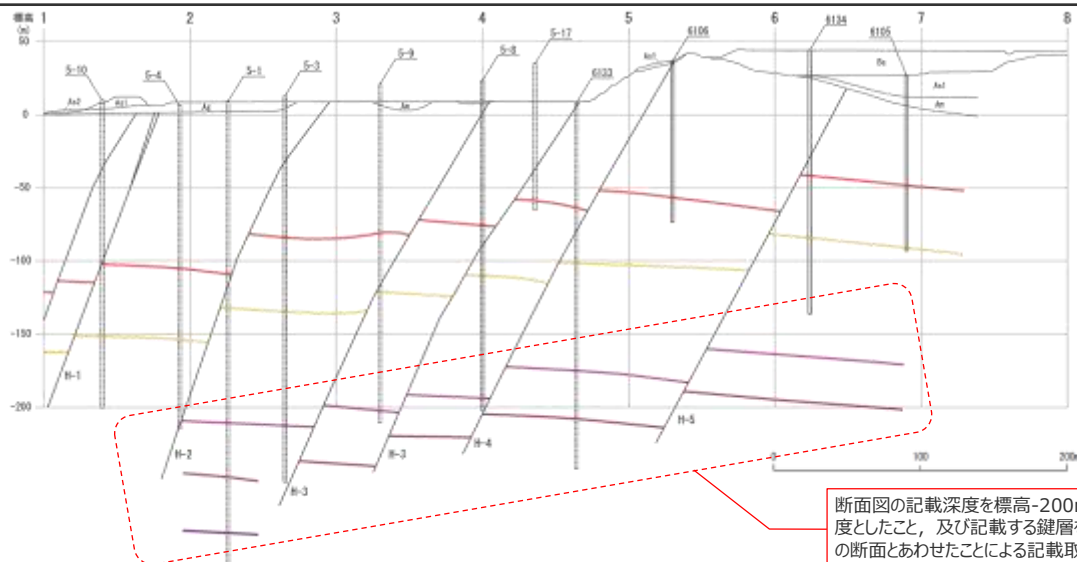
第654回  
審査会合



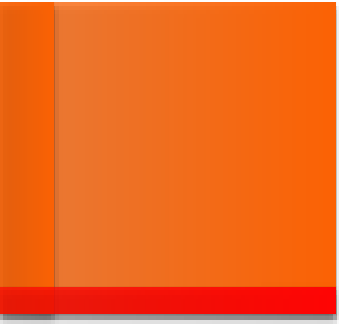
コア写真、柱状図より、新たに断層を認定

コア写真、柱状図より、新たに断層を認定

第608回  
審査会合



断面図の記載深度を標高-200m程度としたこと、及び記載する鍵層を他の断面とあわせたことによる記載取止め

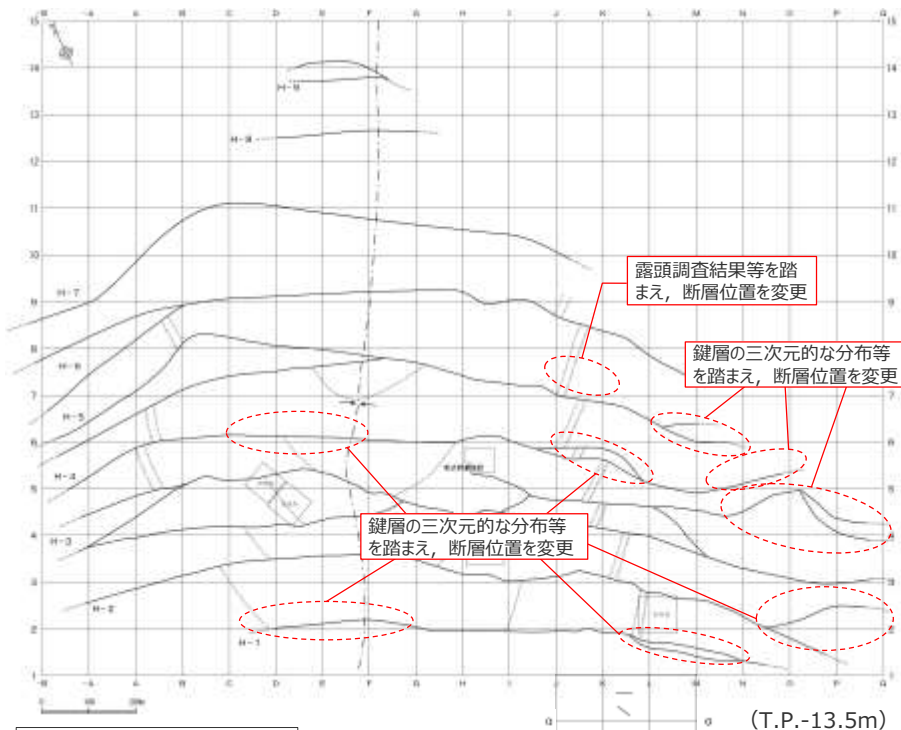


# 水平断面

# H断層系分布図の変更点（水平断面）

水平断面図（第654回から第704回の主な変更箇所）

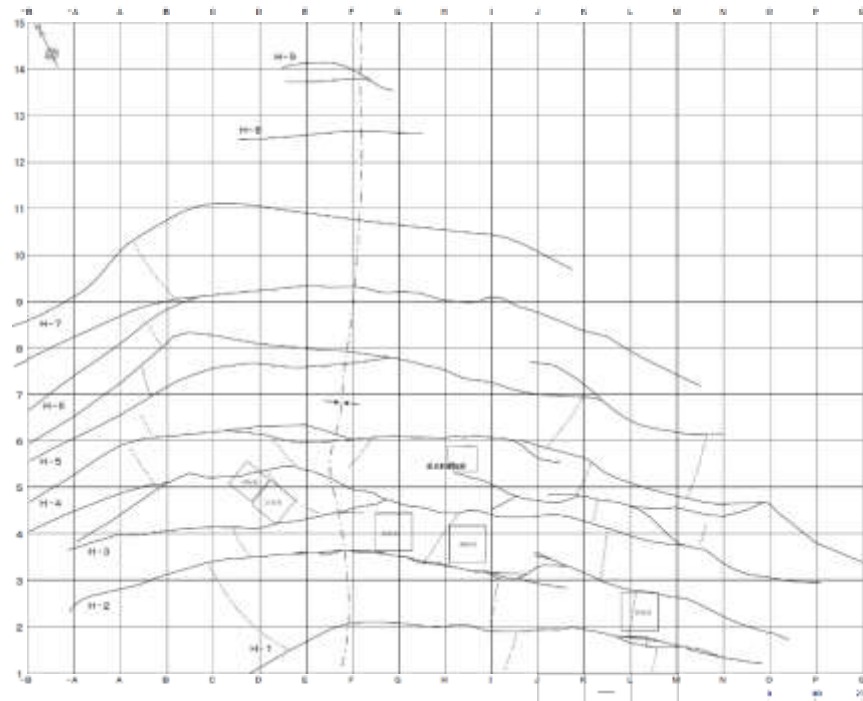
## 第704回審査会合



表示する鍵層を変更

— : 前回資料と比較し、線形を変更した箇所  
— : その他の変更箇所

## 第654回審査会合

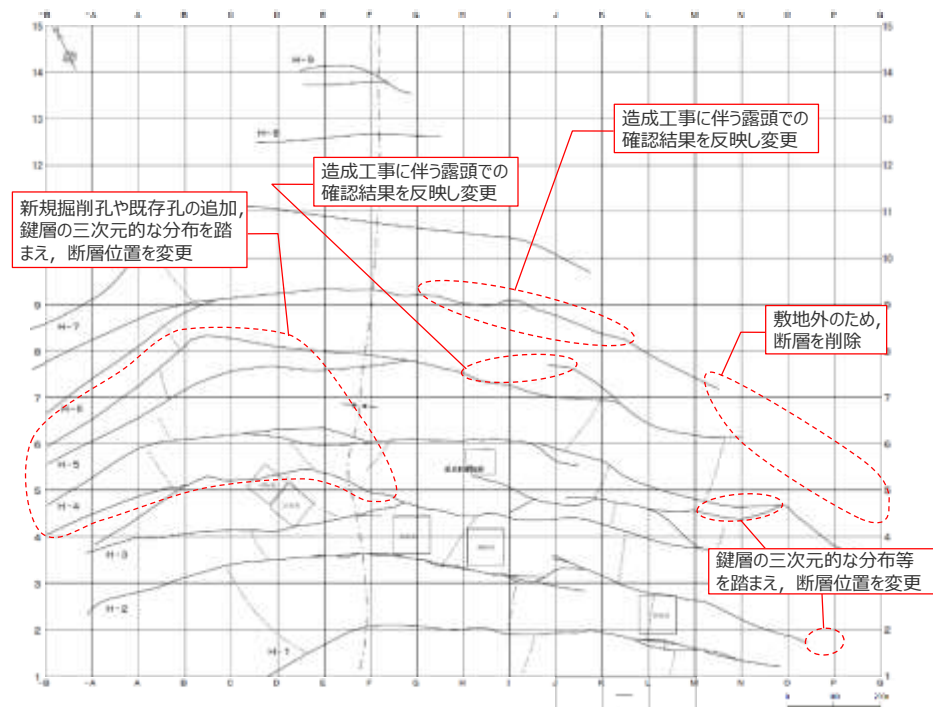


**凡例**  
 — H断層系  
 凝灰岩（鍵層）  
 K-1 ————  
 K-2l ————  
 K-3 ————

# H断層系分布図の変更点（水平断面）

水平断面図（第608回から第654回の主な変更箇所）

## 第654回審査会合



**凡例**

—— H断層系

凝灰岩（鍵層）

K-1 ————

K-2 ————

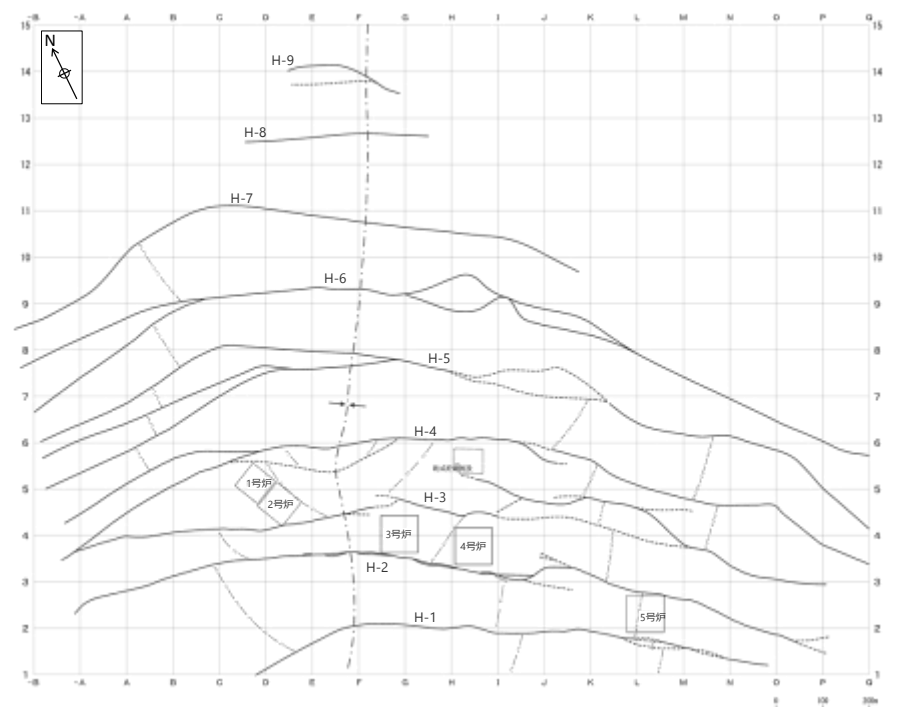
K-3 ————

--- : 前回資料と比較し, 線形を変更した箇所

(T.P.-13.5m)

海域部については、別途作成の海域部の断面を統合

## 第608回審査会合



**凡例**

—— 落差 15m以上 H断層系

--- 落差 15m以下 H断層系

凝灰岩（鍵層）

K-1 ————

K-2 ————

K-3 ————

(T.P.-13.5m)



# 今回の資料における H断層系分布図の変更点

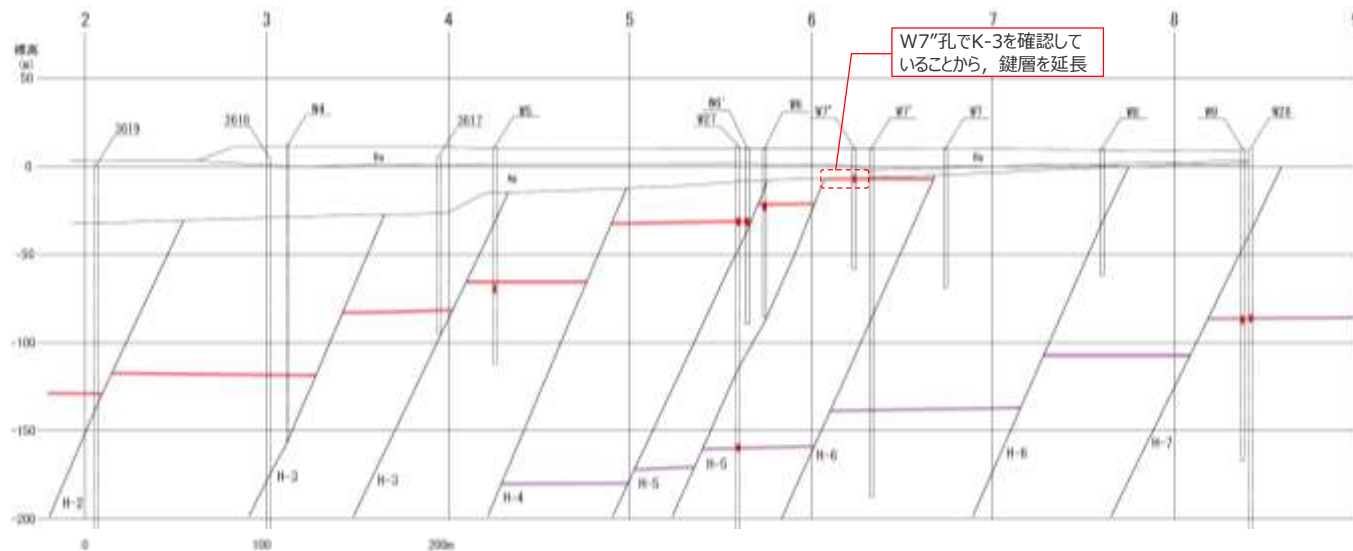
# 今回の資料におけるH断層系分布図の変更点

- 前回会合（第704回審査会合，2019.4.12）資料中のH断層系分布図について，新たに確認した誤記の訂正も含め，i（過去の資料におけるH断層系分布図の変更点）の結果を踏まえ記載を見直した。
- 鍵層となる凝灰岩層については，データの引用元の相違（コア写真による数値と，柱状図に記載の数値が混在したことによる相違）による数値の変更が多く存在するが，地質断面図に影響を与えるような変更はないことを確認した。
- H断層系については，C-Line断面のW26孔において，断層位置の変更に伴い分布形状を若干見直した。
- その他，これまでの資料における修正漏れ等による数値変更が数箇所存在するが，地質断面図に影響を与えるような変更はないことを確認した。また，水平断面図に変更はない。
- 各断面の変更箇所の詳細について，次頁以降に示す。
- なお，変更後の断面図については，ボーリング孔で実際に確認した鍵層の地点も参考に示す。

# H断層系分布図の変更点（敷地西側断面）

敷地西側 断面図（第704回から今回の主な変更箇所）

今回



- : 前回資料と比較し、線形を変更した箇所
- : その他の変更箇所
- : ポーリング孔で鍵層となる凝灰岩層の分布を確認した地点

凡例

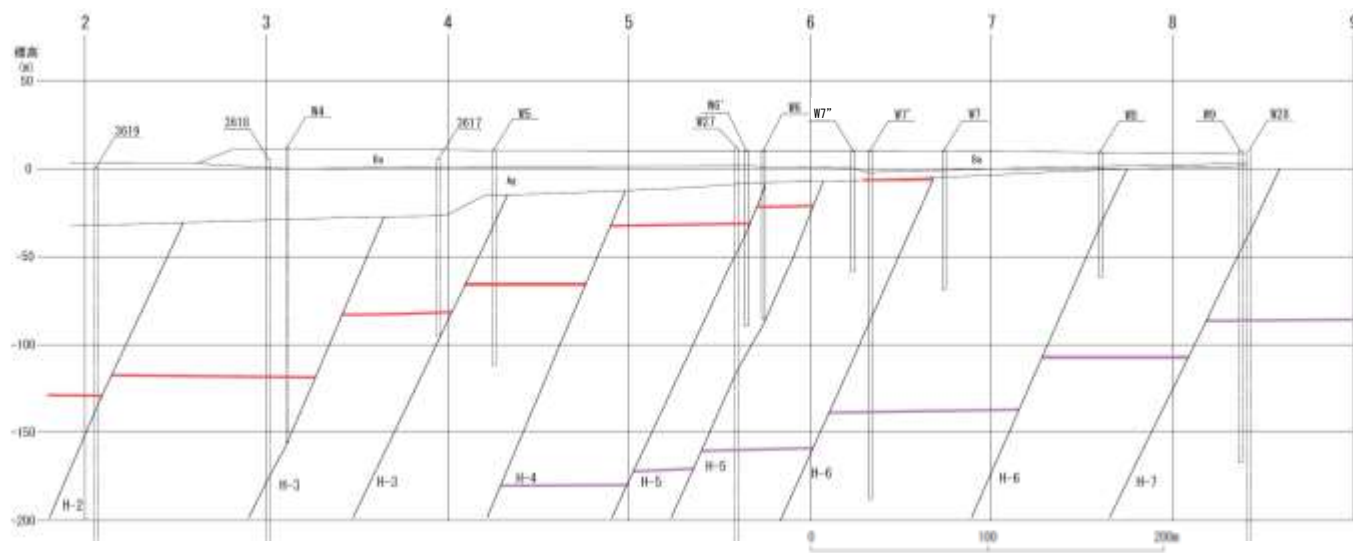
- 盛土  Ba
- 高成層泥り砂層  Ac
- 相良層（砂岩・泥岩互層）
- 断層 /

凝灰岩（鍵層）

- K-3
- K-5

鍵層名を詳細に記載

第704回  
審査会合



凡例

- 盛土  Ba
- 高成層泥り砂層  Ac
- 相良層（砂岩・泥岩互層）
- 断層 /

凝灰岩（鍵層）

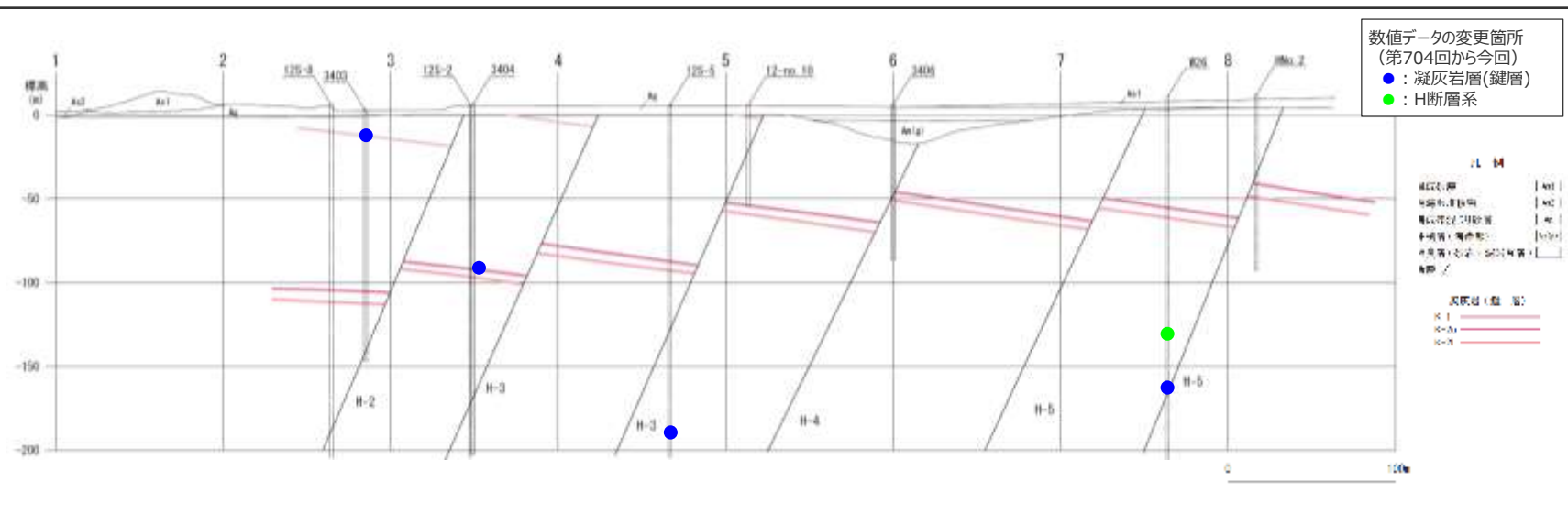
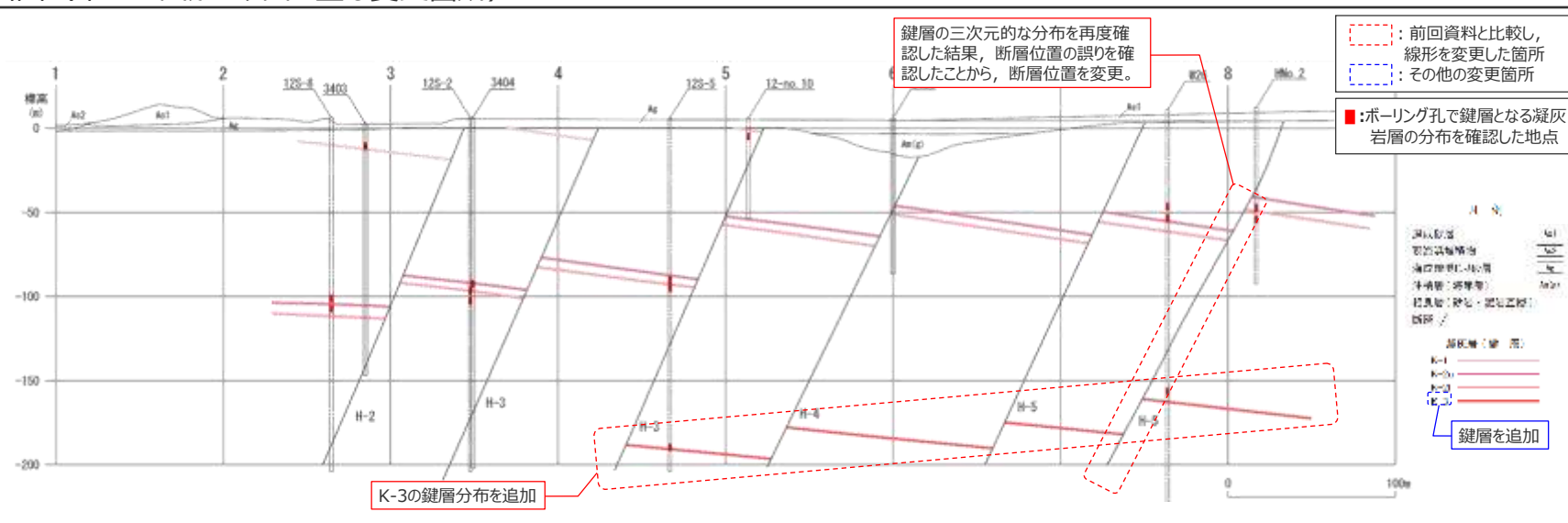
- K-3
- K-5



# H断層系分布図の変更点 (C-Line断面)

C-Line 断面図 (第704回から今回の主な変更箇所)

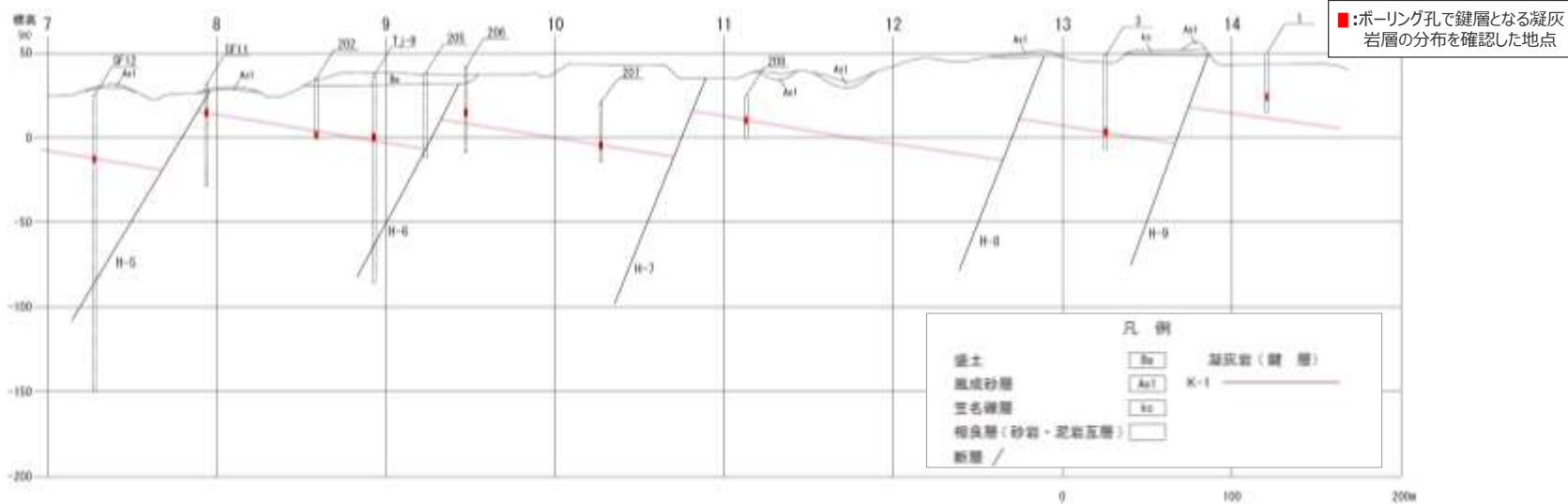
今回



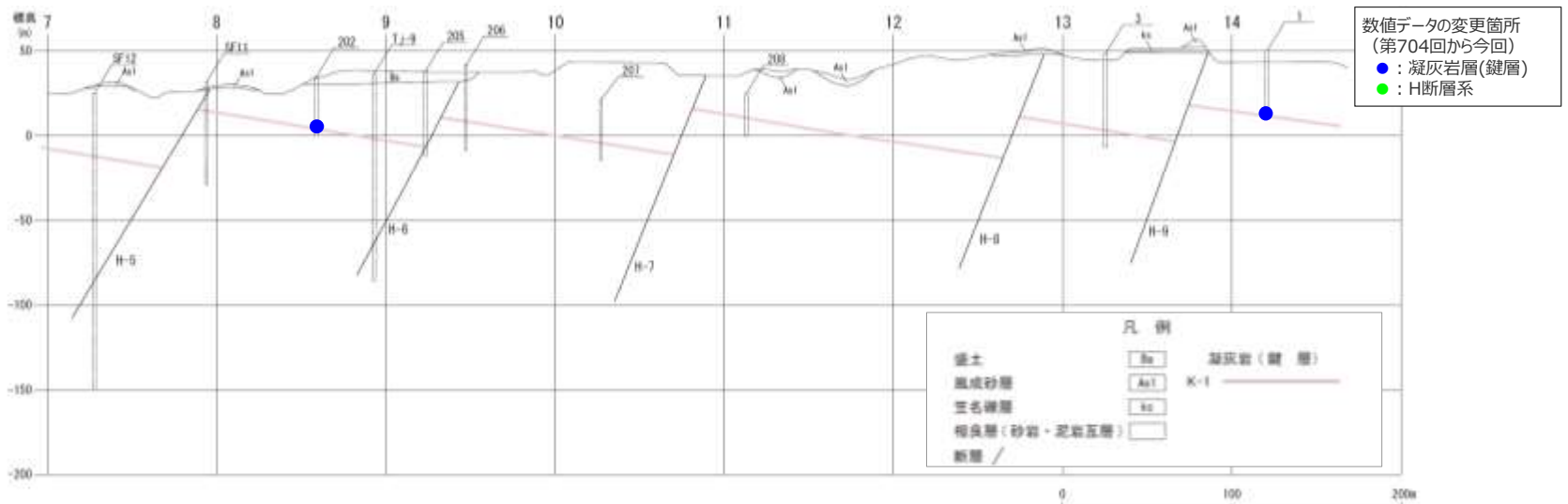
# H断層系分布図の変更点 (F+60-Line断面)

F+60-Line 断面図 (第704回から今回の主な変更箇所)

今回  
(第704回  
審査会合と  
同じ)



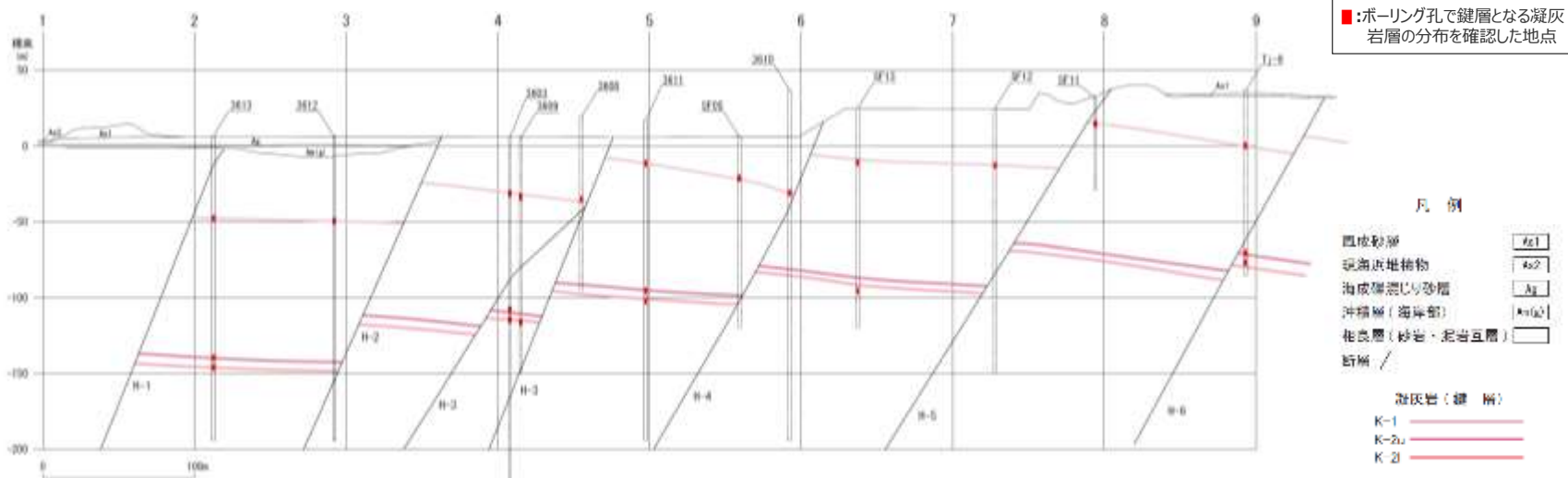
第704回  
審査会合



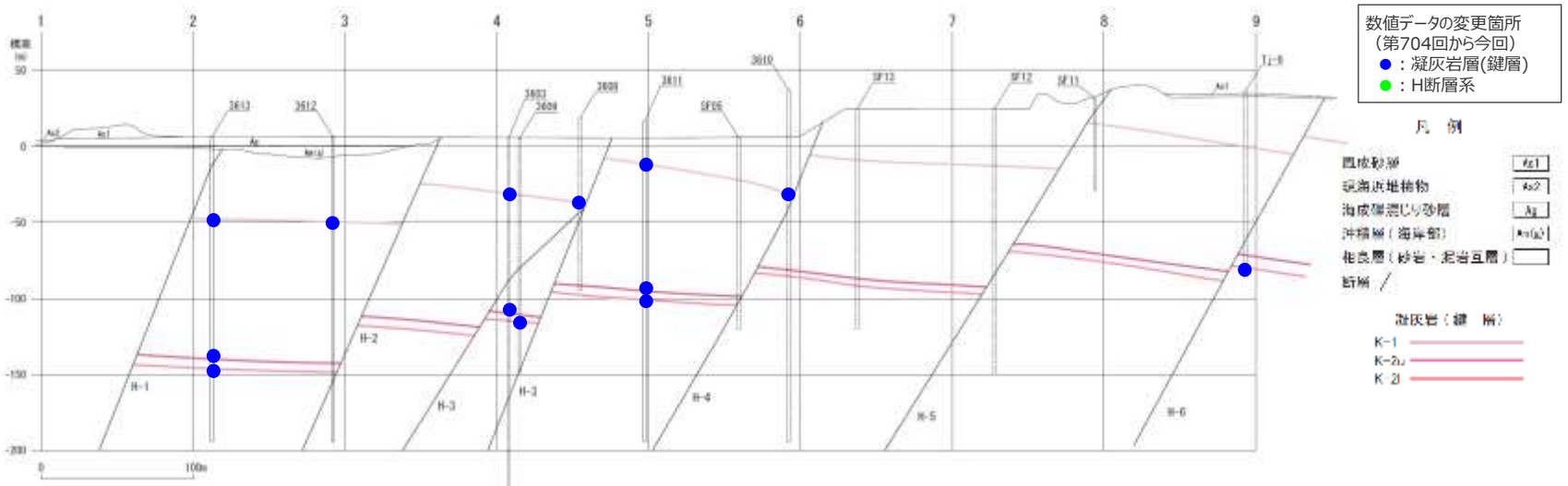
# H断層系分布図の変更点 (G-12-Line断面)

G-12-Line 断面図 (第704回から今回の主な変更箇所)

今回  
(第704回  
審査会合と  
同じ)



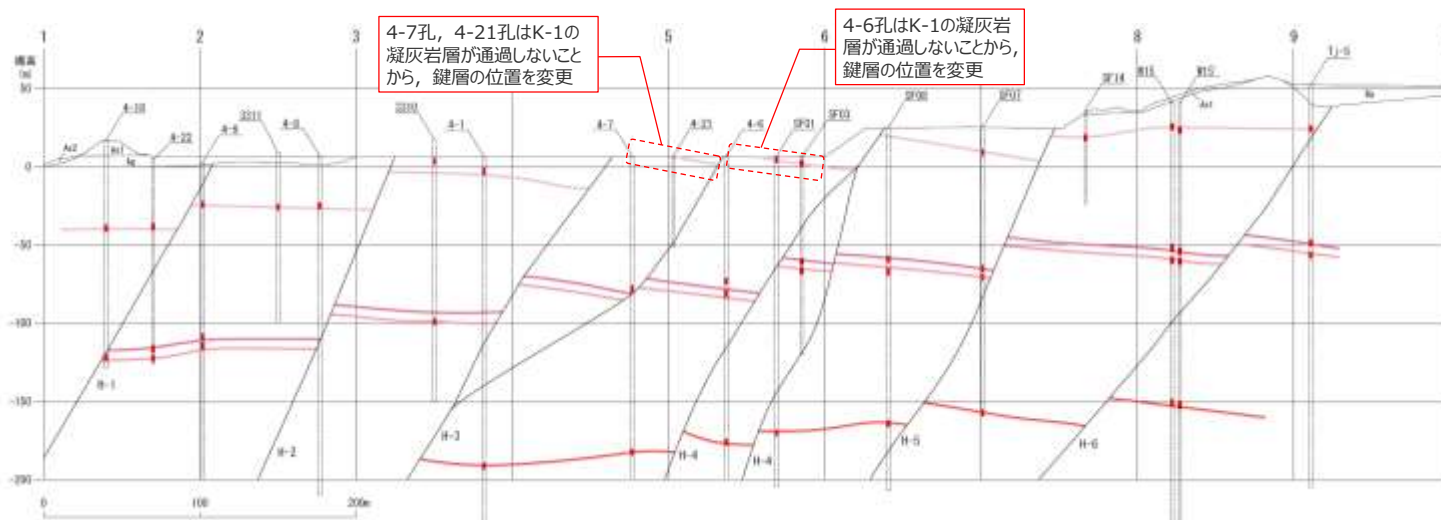
第704回  
審査会合



# H断層系分布図の変更点 (H+47-Line断面)

H+47-Line 断面図 (第704回から今回の主な変更箇所)

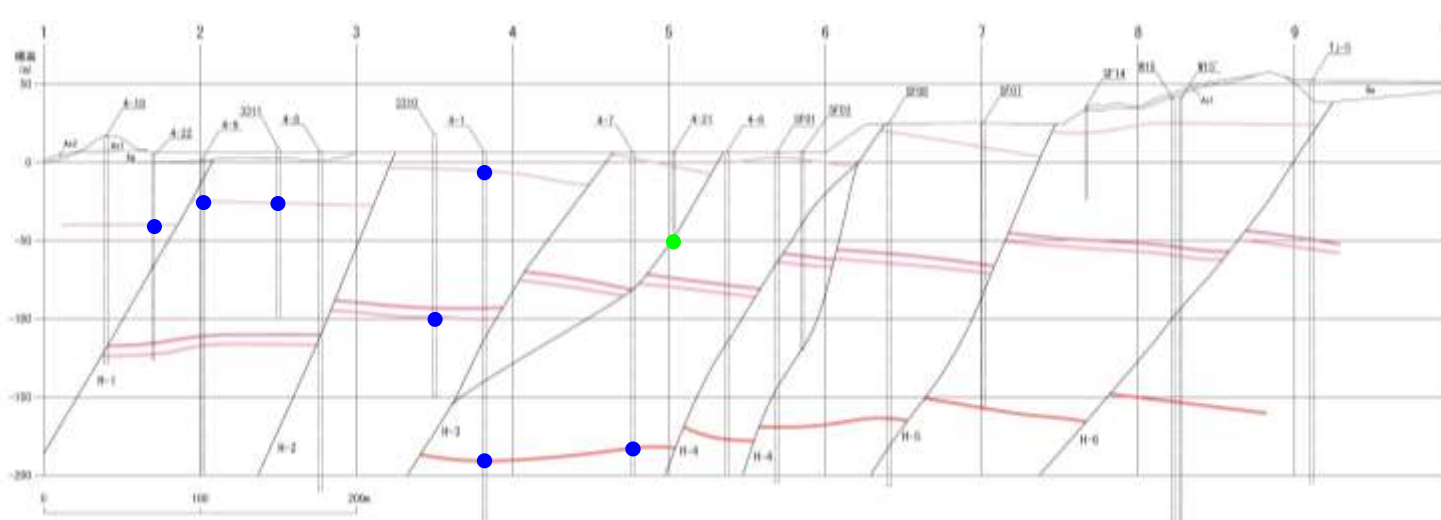
今回



●: ボーリング孔で鍵層となる凝灰岩層の分布を確認した地点

- 凡例
- 粘土 [A]
  - 風成砂層 [A1]
  - 馬場層砂礫層 [A2]
  - 凝灰岩混じり砂層 [A3]
  - 相良層(砂層・泥岩互層) [A4]
  - 断層 /
- 凝灰岩(鍵層)
- K-1 [Red line]
  - K-2a [Pink line]
  - K-2b [Pink line]
  - K-3 [Red line]

第704回  
審査会合



●: 凝灰岩層(鍵層)

●: H断層系

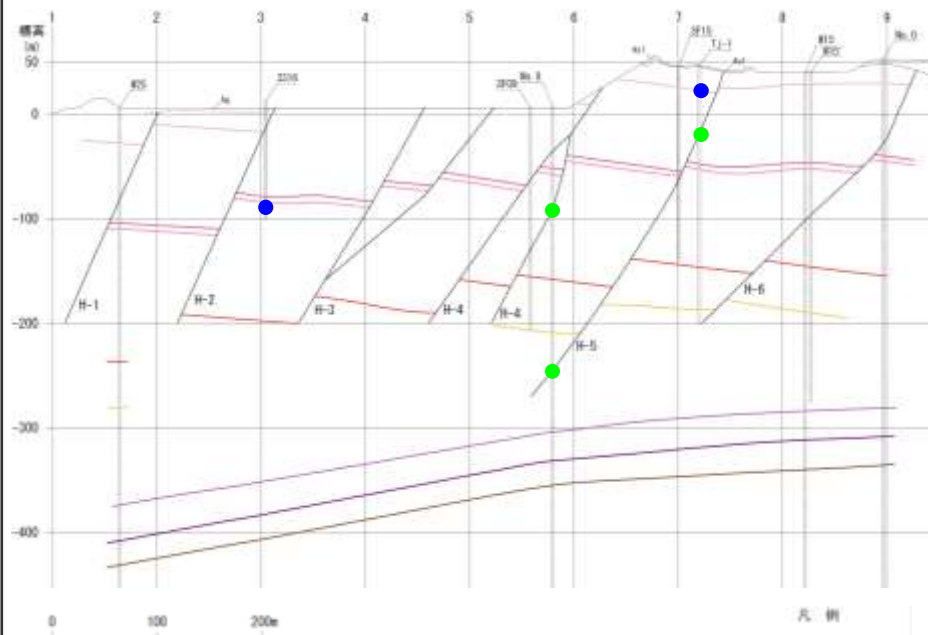
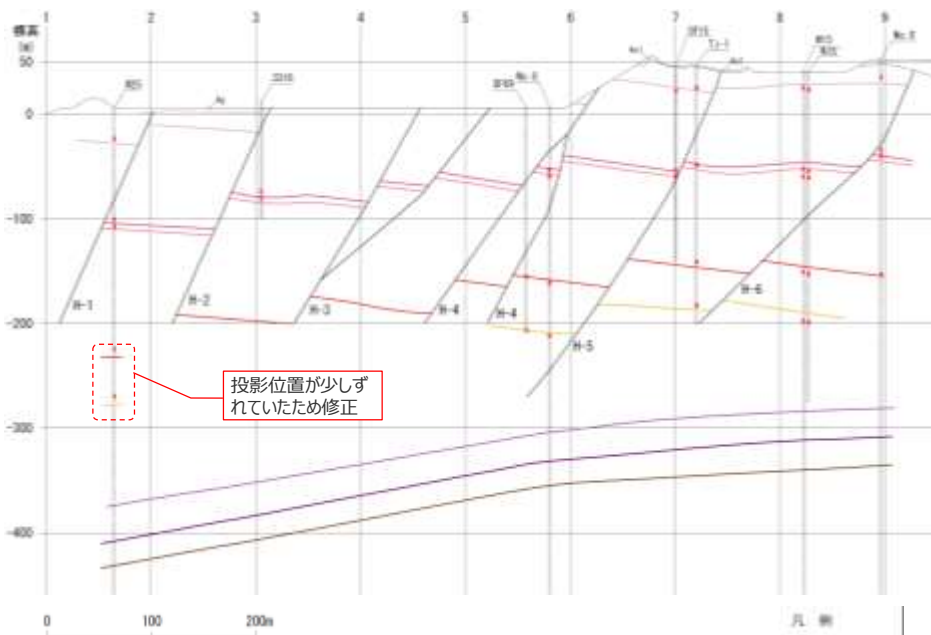
- 凡例
- 粘土 [A]
  - 風成砂層 [A1]
  - 馬場層砂礫層 [A2]
  - 凝灰岩混じり砂層 [A3]
  - 相良層(砂層・泥岩互層) [A4]
  - 断層 /
- 凝灰岩(鍵層)
- K-1 [Red line]
  - K-2a [Pink line]
  - K-2b [Pink line]
  - K-3 [Red line]

# H断層系分布図の変更点 (I-Line断面)

I-Line 断面図 (第704回から今回の主な変更箇所)

今回

第704回審査会合



投影位置が少しずれていたため修正

前回資料と比較し、線形を変更した箇所

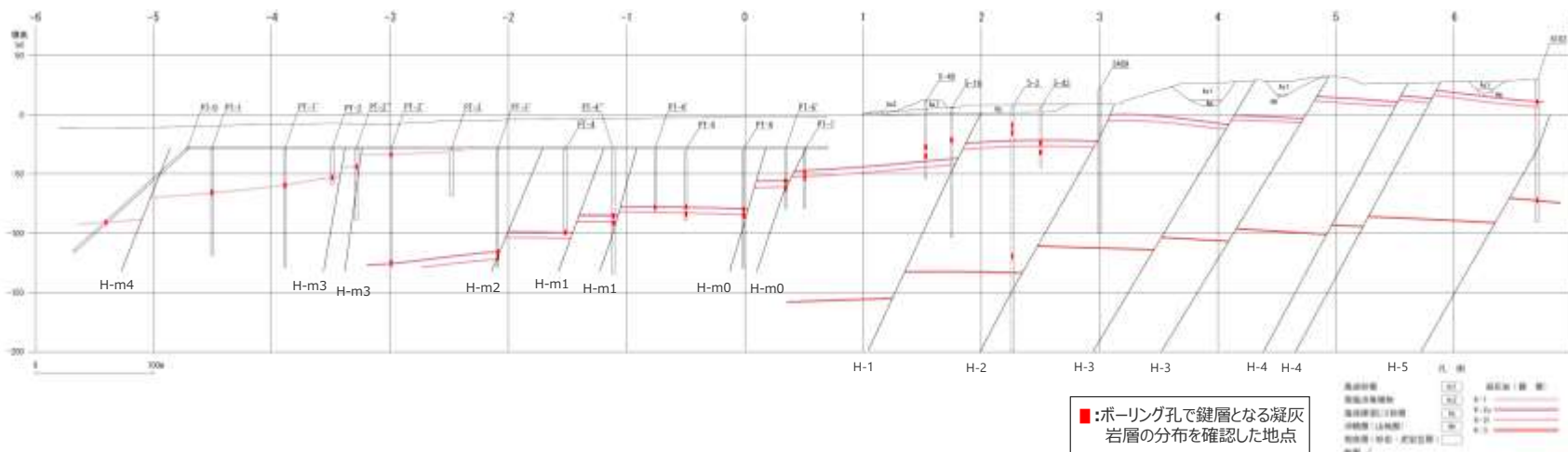
ボーリング孔で鍵層となる凝灰岩層の分布を確認した地点

数値データの変更箇所 (第704回から今回)  
 ● : 凝灰岩層(鍵層)  
 ● : H断層系

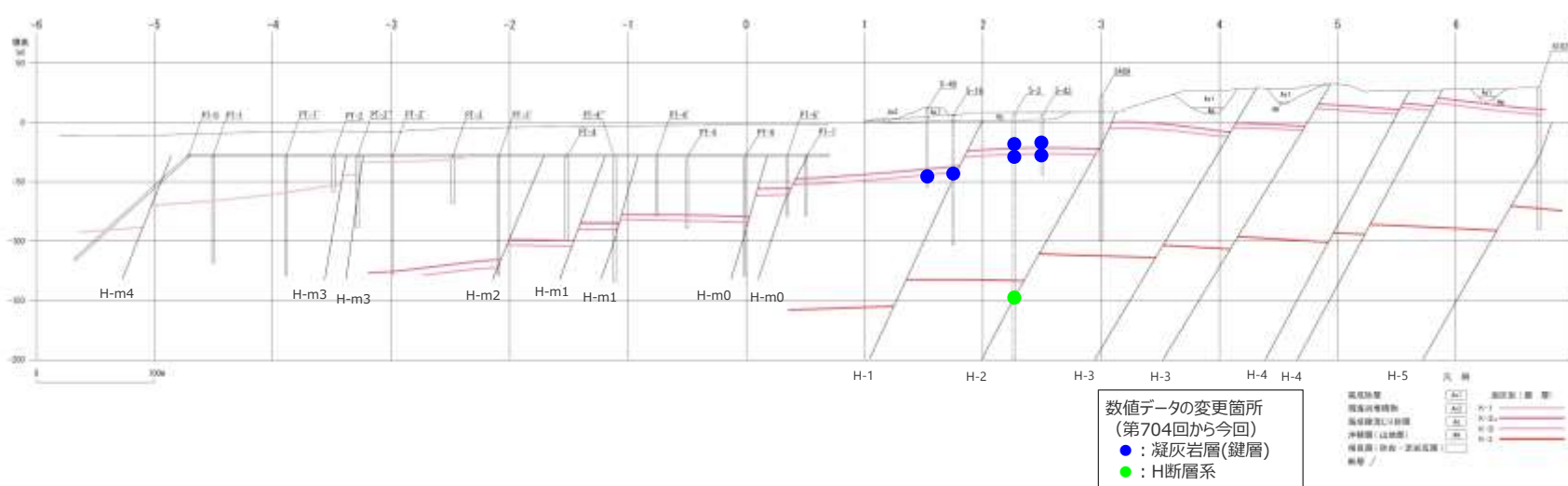
# H断層系分布図の変更点 (K+44-Line断面)

K+44-Line 断面図 (第704回から今回の主な変更箇所)

今回  
(第704回  
審査会合と  
同じ)



第704回  
審査会合

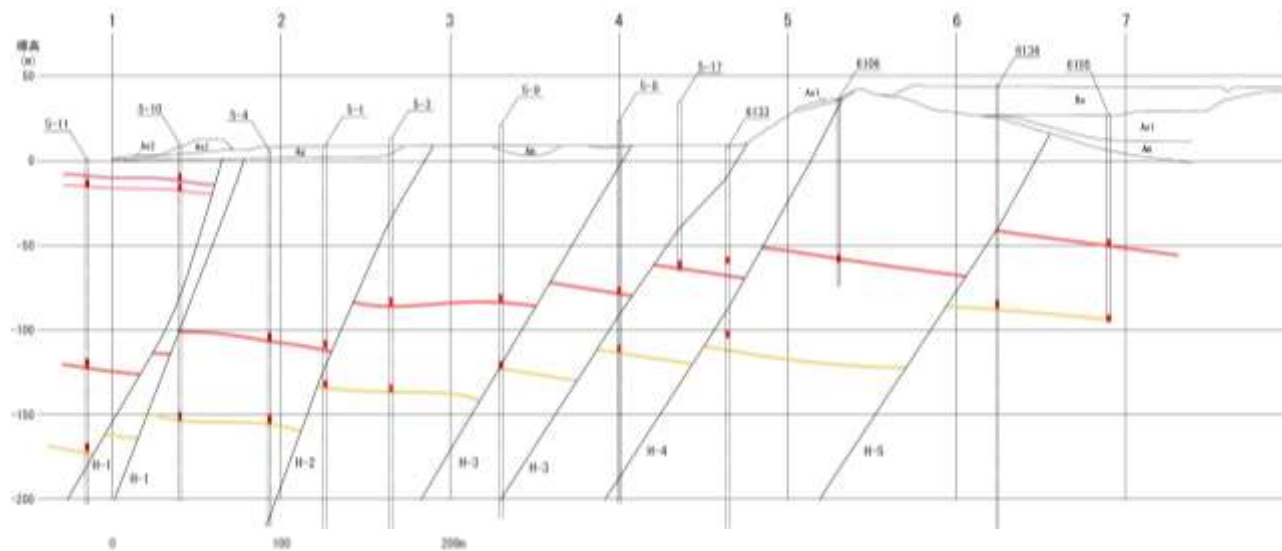




# H断層系分布図の変更点 (L+17-Line断面)

L+17-Line 断面図 (第704回から今回の主な変更箇所)

今回

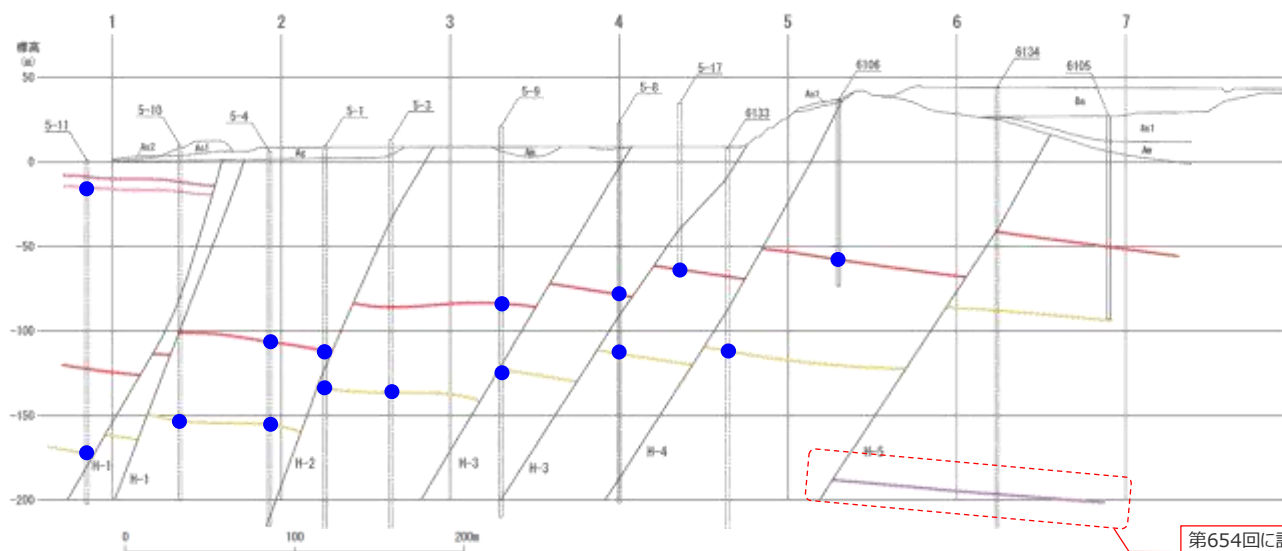


  : 前回資料と比較し、線形を変更した箇所  
■ : ボーリング孔で鍵層となる凝灰岩層の分布を確認した地点

凡例

凝灰岩 (鍵層)	<span style="border: 1px solid black; padding: 1px;"> </span>	K-2a	凝灰岩 (鍵層)
風成砂層	<span style="border: 1px solid black; padding: 1px;"> </span>	K-2b	凝灰岩 (鍵層)
礫層/堆積物	<span style="border: 1px solid black; padding: 1px;"> </span>	K-3	凝灰岩 (鍵層)
海成礫層/砂層	<span style="border: 1px solid black; padding: 1px;"> </span>	K-4	凝灰岩 (鍵層)
沖積層 (山地部)	<span style="border: 1px solid black; padding: 1px;"> </span>	K-5	凝灰岩 (鍵層)
相良層 (砂岩・泥岩互層)	<span style="border: 1px solid black; padding: 1px;"> </span>		
断層 /	<span style="border: 1px solid black; padding: 1px;"> </span>		

第704回  
審査会合



数値データの変更箇所 (第704回から今回)  
● : 凝灰岩層 (鍵層)  
● : H断層系

凡例

凝灰岩 (鍵層)	<span style="border: 1px solid black; padding: 1px;"> </span>	K-2a	凝灰岩 (鍵層)
風成砂層	<span style="border: 1px solid black; padding: 1px;"> </span>	K-2b	凝灰岩 (鍵層)
礫層/堆積物	<span style="border: 1px solid black; padding: 1px;"> </span>	K-3	凝灰岩 (鍵層)
海成礫層/砂層	<span style="border: 1px solid black; padding: 1px;"> </span>	K-4	凝灰岩 (鍵層)
沖積層 (山地部)	<span style="border: 1px solid black; padding: 1px;"> </span>	K-5	凝灰岩 (鍵層)
相良層 (砂岩・泥岩互層)	<span style="border: 1px solid black; padding: 1px;"> </span>		
断層 /	<span style="border: 1px solid black; padding: 1px;"> </span>		

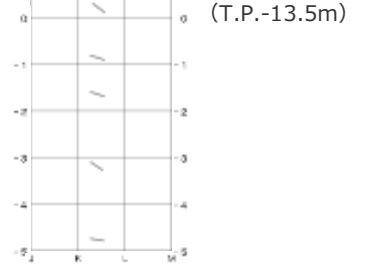
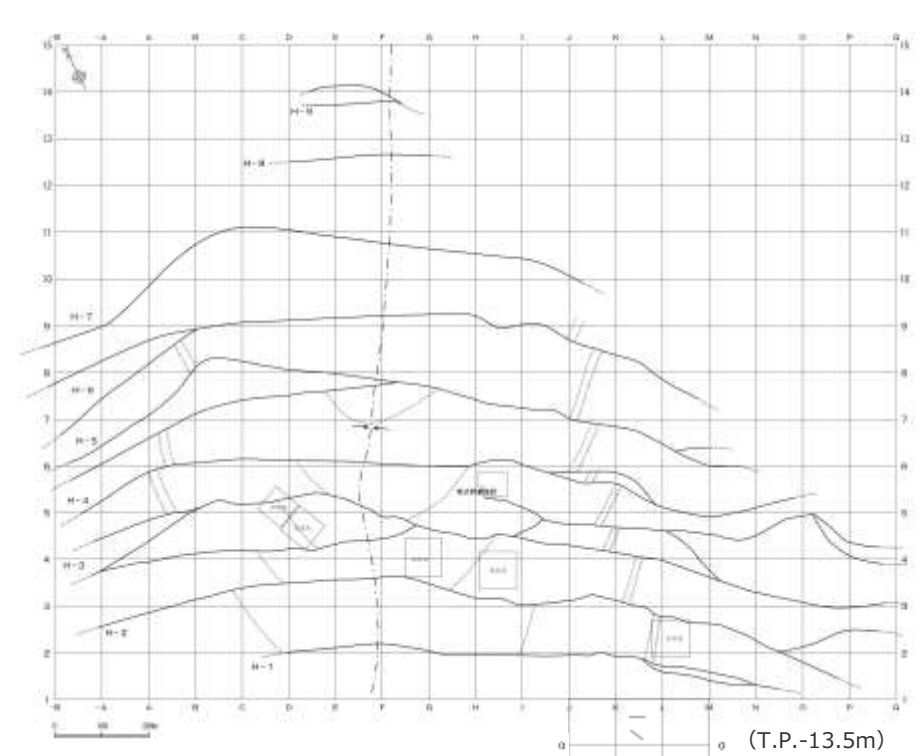
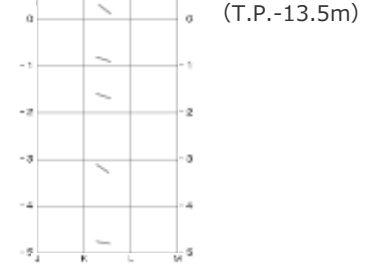
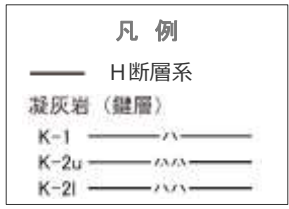
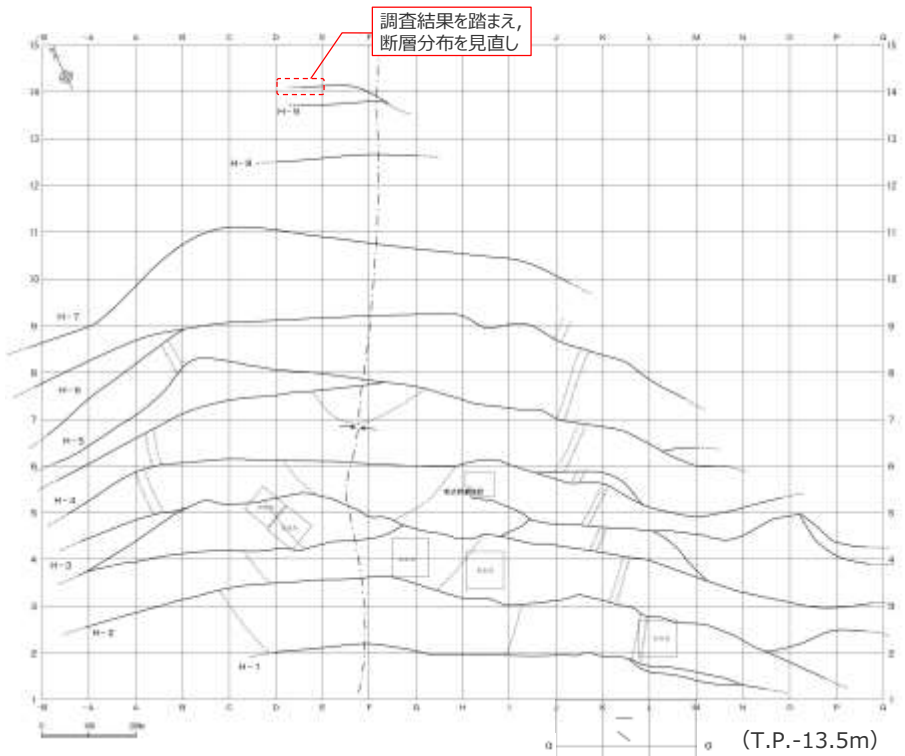
第654回に記載を取止めたものの、一部残っていたことから、今回削除。

# H断層系分布図の変更点（水平断面）

水平断面図（第704回から今回の主な変更箇所）

今回

第704回審査会合





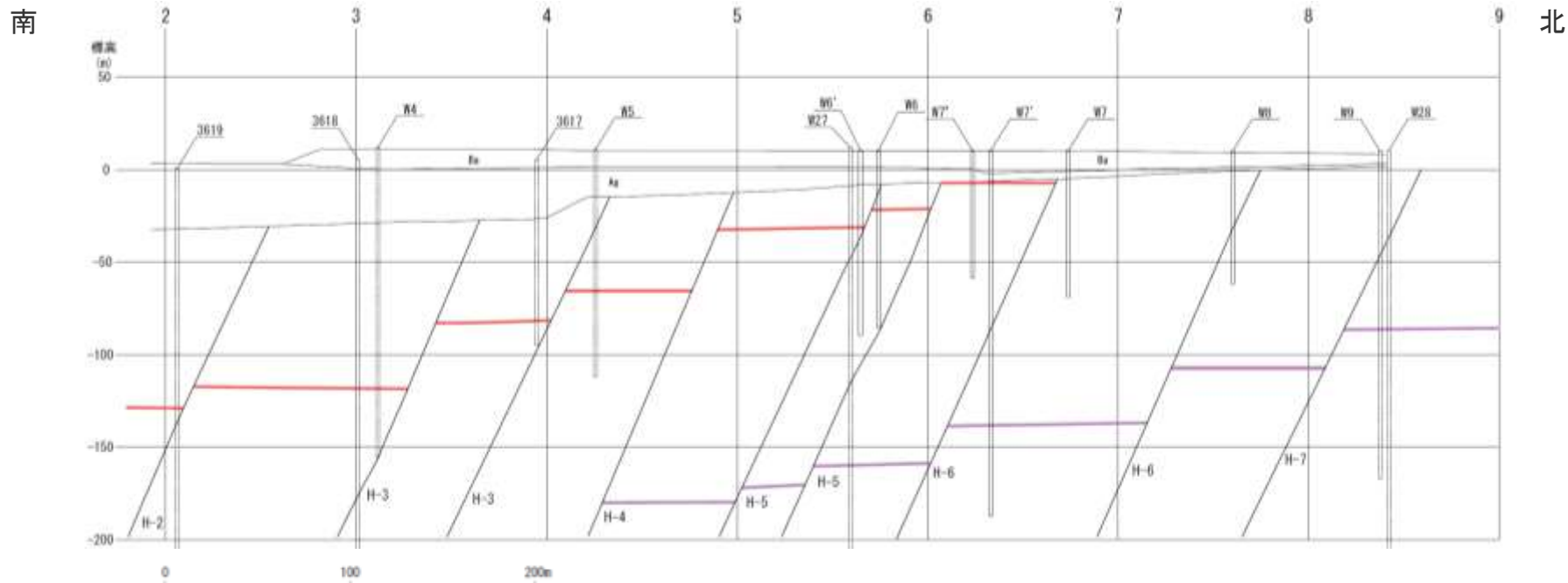
## 1.2 H断層系の分布把握に係る検討の変更点及びその経緯に関するまとめ

- これまでの資料において、鍵層となる凝灰岩層やH断層の深度として記載した数値やH断層系分布図の変更について、以下の通り確認した。
  - 鍵層となる凝灰岩層における深度の相違は、一旦は認定を見送ったものの三次元的な検討により再度認定したものや、数値の引用元の違いにより生じたものが約4割を占め、説明性向上等のため追記したものを含めると8割を占める。
  - H断層系の深度に相違がみられる箇所は、数値の引用元の違いにより生じているものの他、三次元モデルの検討結果の反映に伴いH断層選定部分そのものが見直されている箇所もある。
  - これらの変更や、地質構造の三次元的な検討結果に伴い、H断層系分布図（鉛直断面図）については、鍵層やH断層の線形を変更している。
- 上記確認結果を踏まえたデータ引用元の統一や、三次元モデルの再確認結果等を踏まえ、前回の資料における鍵層となる凝灰岩層やH断層の深度として記載した数値やH断層系分布図を見直し、今後使用するものを提示した。
- このように、鍵層となる凝灰岩層やH断層について、深度として記載した数値や分布図における線形は追加・更新されているものの、H断層系の大局的な分布形状は変わることはなく、H断層系の分布に関する評価（『H断層系は走向傾斜及び落差が同傾向を示し、ほぼ同じ間隔で並走する落差が比較的大きい南落ちの正断層で、向斜軸部付近を中心に南に開いたゆるい弧状を呈する。』）に影響はない。
- 今後、こういった新たな観点による検討や追加データによる変更については、変更の都度明記するとともに、誤記や記載漏れ等がないよう、資料作成時のチェックをより入念に行う。



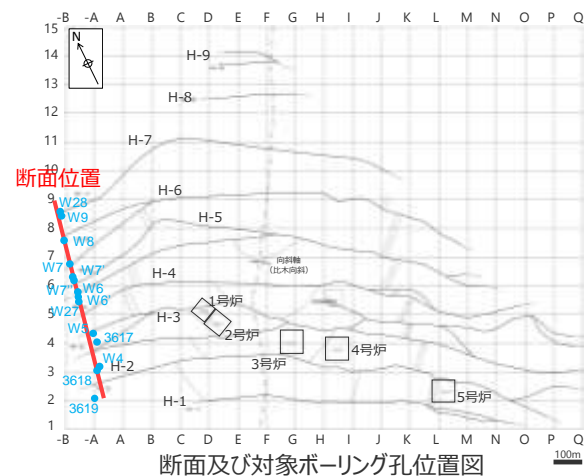
## **(参考) 今後用いるH断層系分布図**

# 今後用いるH断層系分布図（敷地西側断面）



断面図作成に用いたボーリング孔・破線は断面上にない孔の投影。

地質鉛直断面図（敷地西側断面）

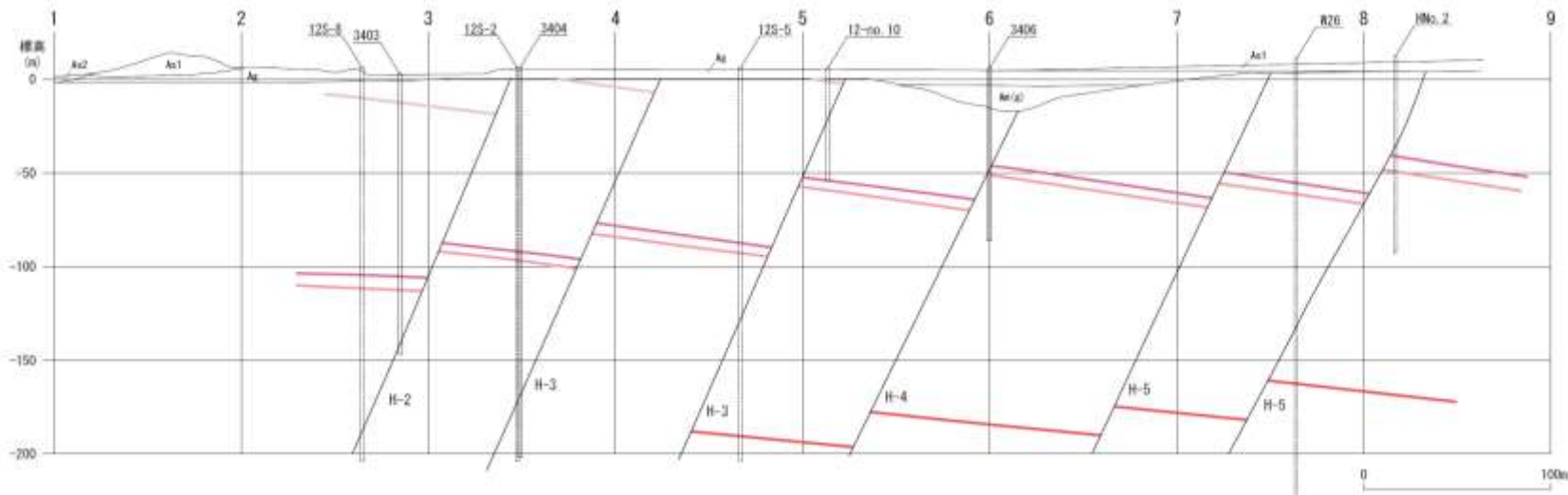


断面及び対象ボーリング孔位置図

# 今後用いるH断層系分布図 (C-Line断面)

南西

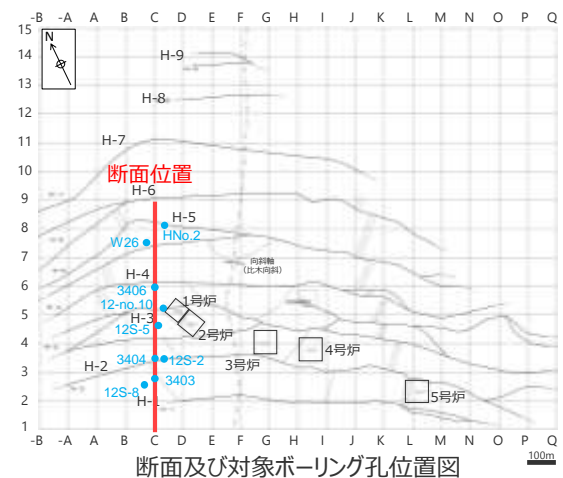
北東



### 凡例

- |               |       |          |      |
|---------------|-------|----------|------|
| 風成砂層          | As1   | 凝灰岩 (鍵層) | K-1  |
| 現海浜堆積物        | As2   |          | K-2u |
| 海成礫混じり砂層      | Ag    |          | K-2l |
| 沖積層 (海岸部)     | An(a) |          | K-3  |
| 相良層 (砂岩・泥岩互層) |       |          |      |
| 断層 /          |       |          |      |

断面図作成に用いたボーリング孔  
・破線は断面上にない孔の投影。



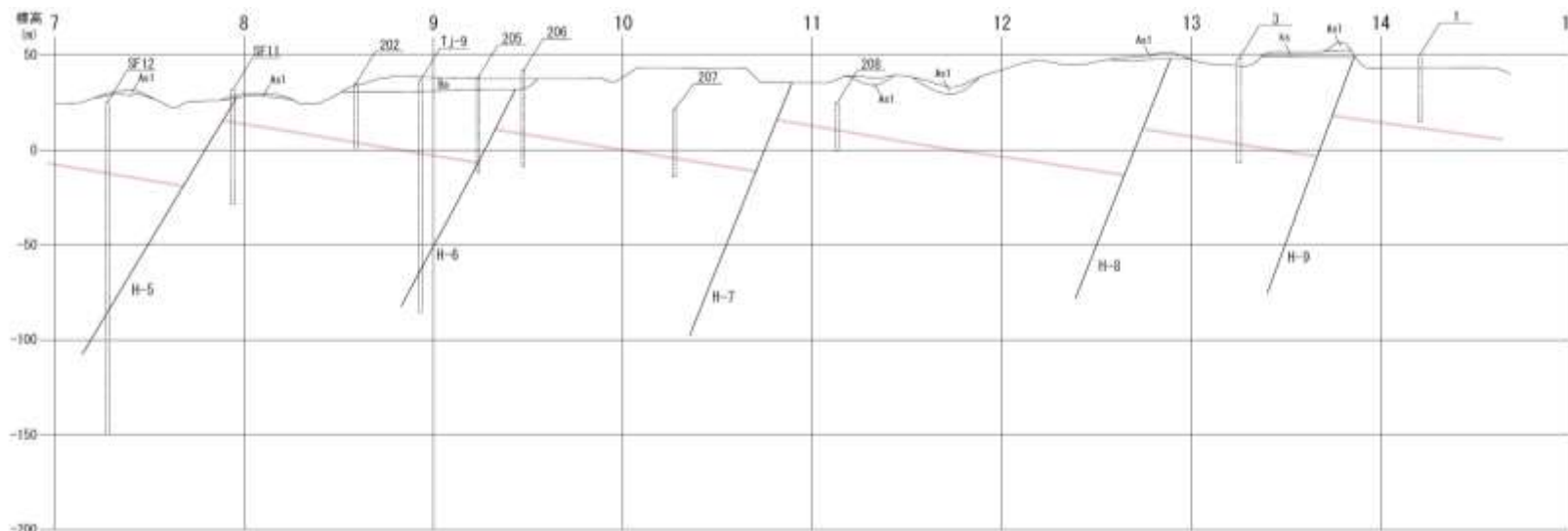
地質鉛直断面図 (C-Line断面)

断面及び対象ボーリング孔位置図

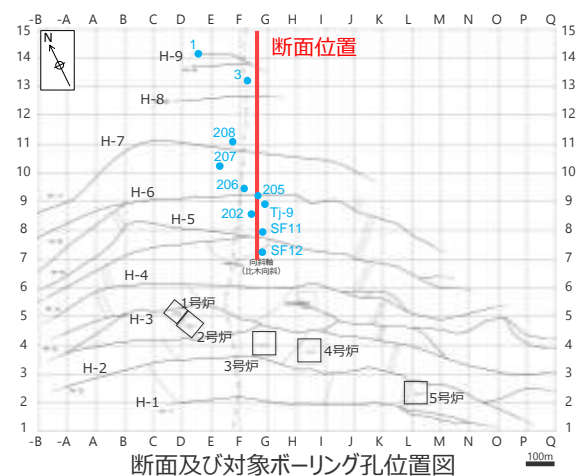
# 今後用いるH断層系分布図 (F+60-Line断面)

南西

北東



断面図作成に用いたボーリング孔  
・破線は断面上にない孔の投影。



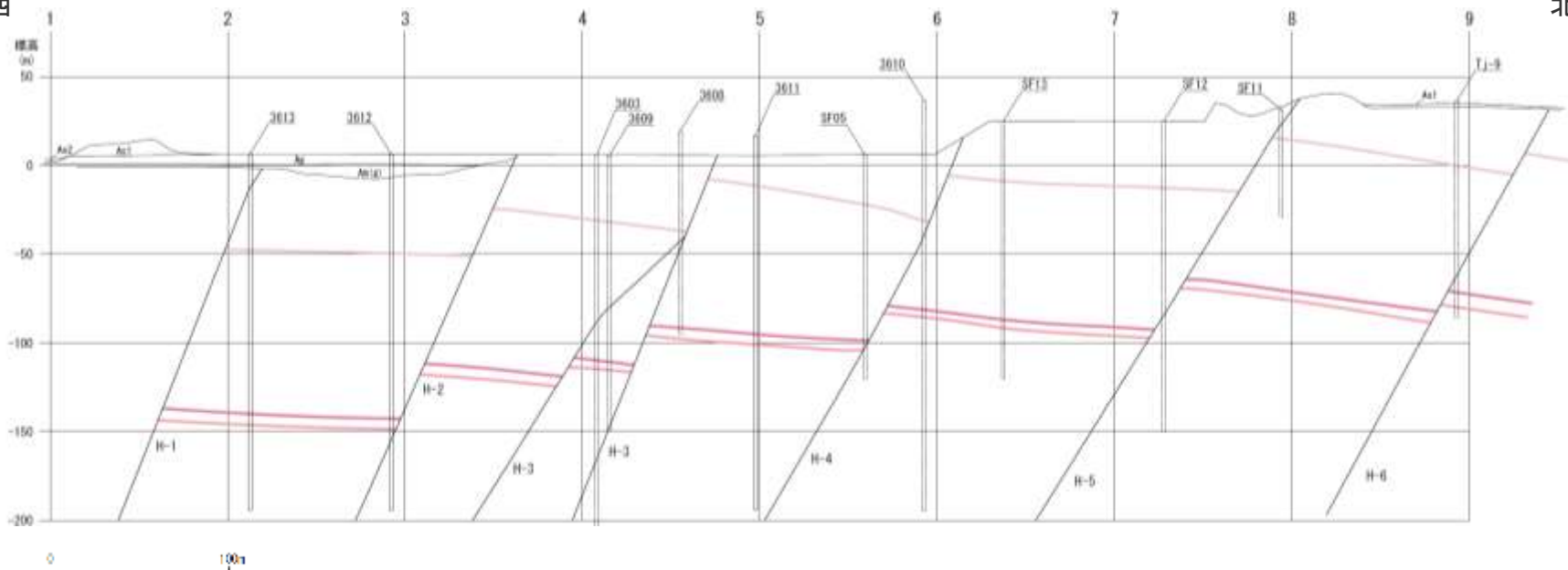
地質鉛直断面図 (F+60-Line断面)

断面及び対象ボーリング孔位置図

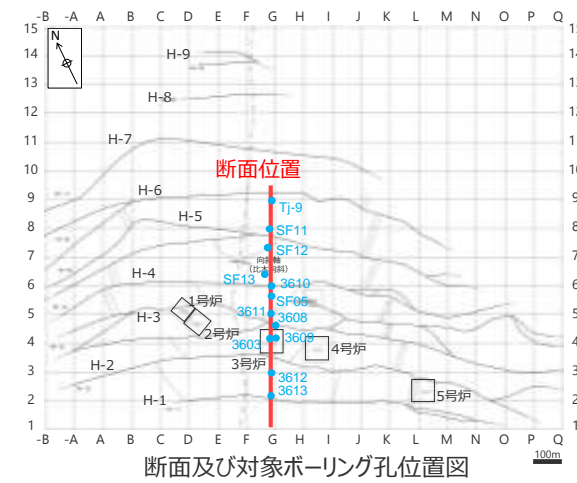
# 今後用いるH断層系分布図 (G-12-Line断面)

南西

北東



断面図作成に用いたボーリング孔  
・破線は断面上にない孔の投影。



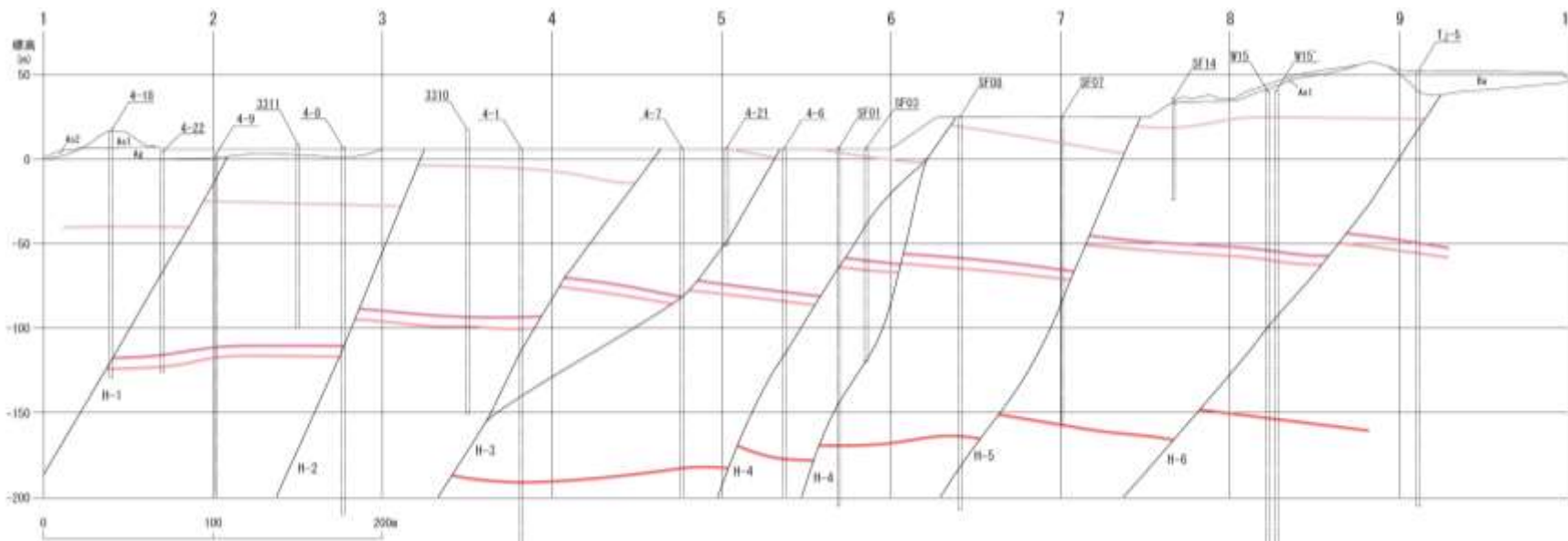
地質鉛直断面図 (G-12-Line断面)

断面及び対象ボーリング孔位置図

# 今後用いるH断層系分布図 (H+47-Line断面)

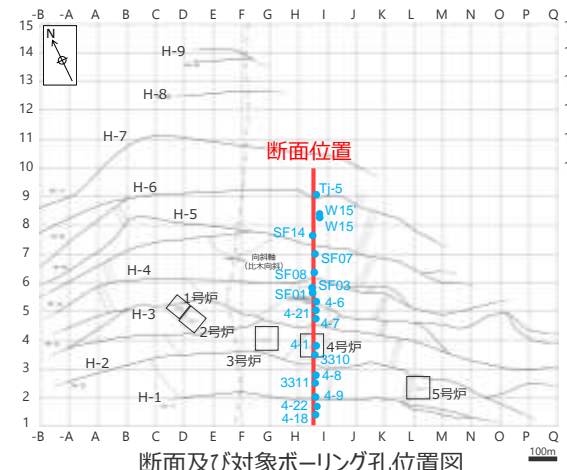
南西

北東



凡例	
硬土	■ K-1
風成砂層	■ K-2a
風成洪積物	■ K-2b
風成硬質シルト層	■ K-3
礫層 (砂質・泥質混層)	■ K-3
軟層	■ K-3
埋設管 (管・溝)	—

断面図作成に用いたボーリング孔  
・破線は断面上にない孔の投影



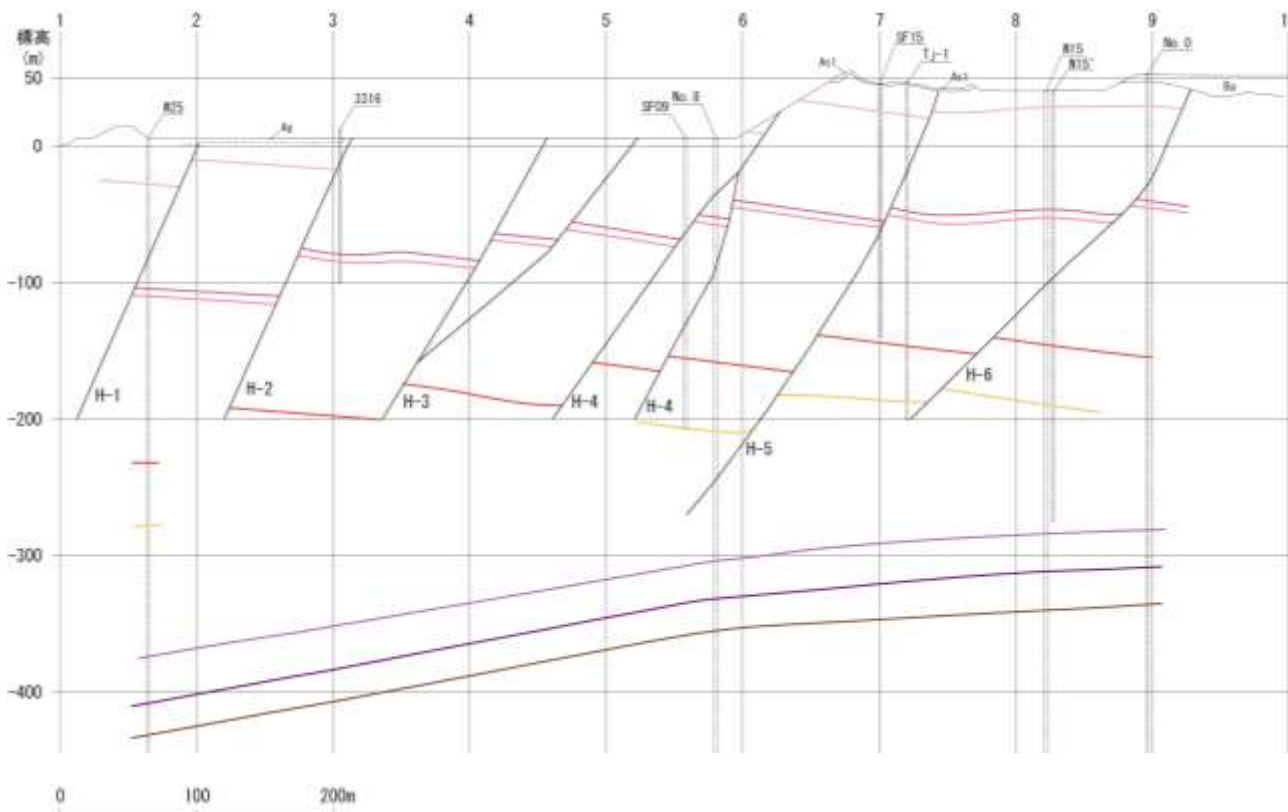
地質鉛直断面図 (H+47-Line断面)

断面及び対象ボーリング孔位置図

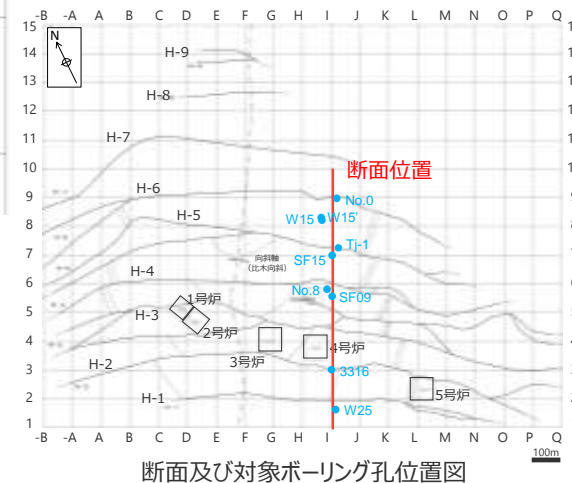
# 今後用いるH断層系分布図 (I-Line断面)

南西

北東



地質鉛直断面図 (I-Line断面)



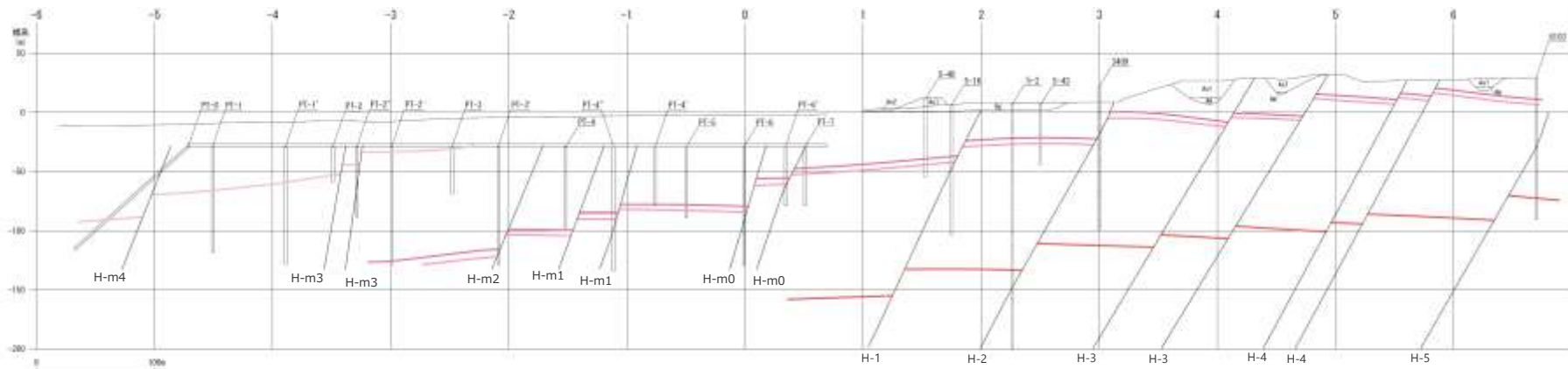
断面及び対象ボーリング孔位置図



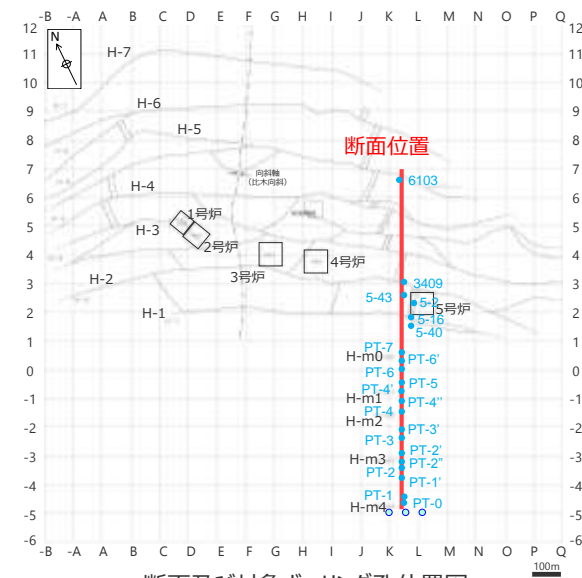
# 今後用いるH断層系分布図 (K+44-Line断面)

南西

北東



断面図作成に用いたボーリング孔  
・破線は断面上にない孔の投影。



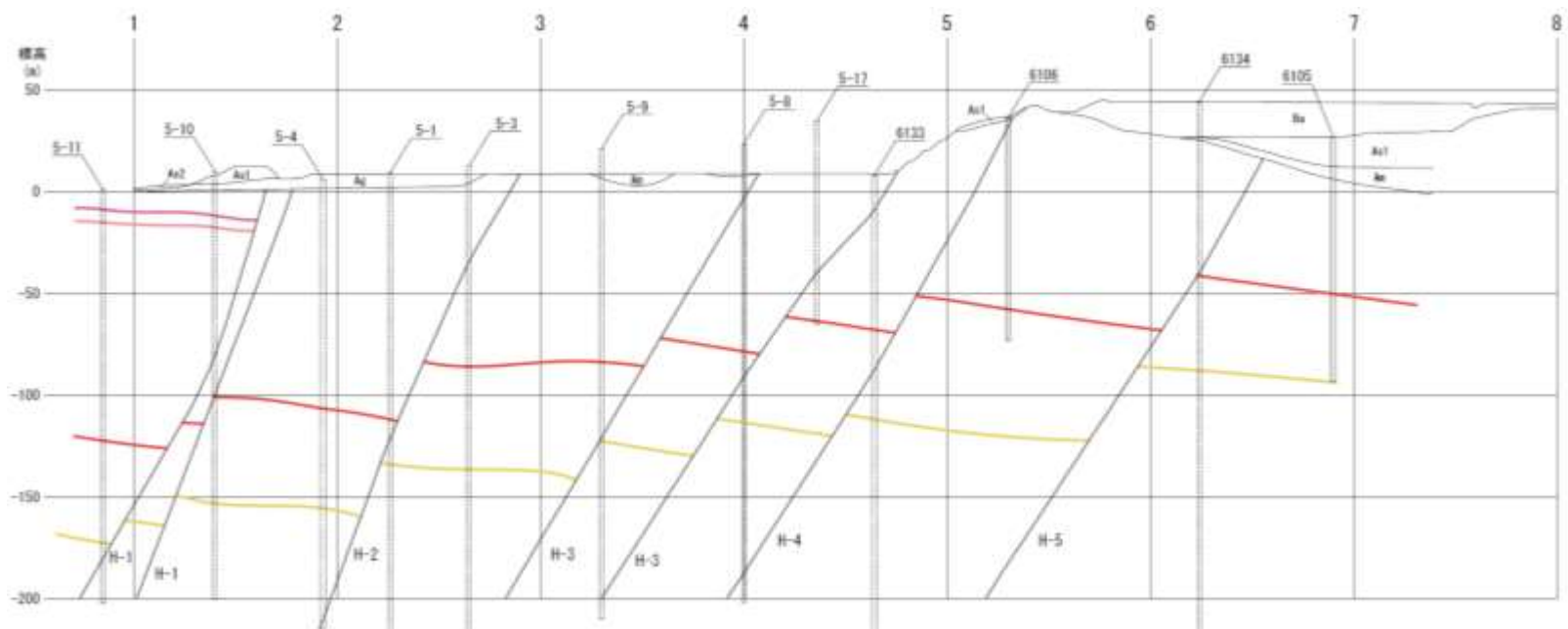
断面及び対象ボーリング孔位置図

地質鉛直断面図 (K+44-Line断面)

# 今後用いるH断層系分布図 (L+17-Line断面)

南西

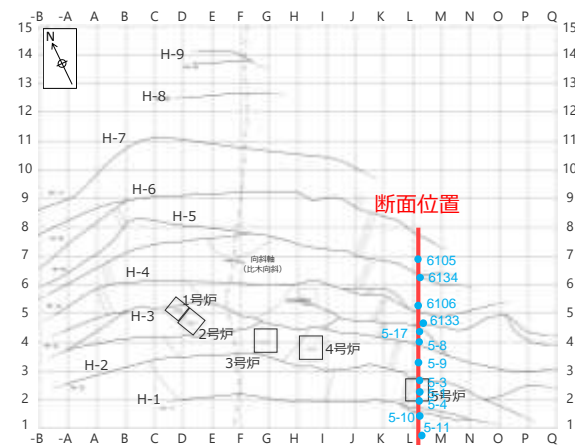
北東



凡例

堆土	Ba	凝灰岩 (健層)	K-2u
風成砂層	Aa1	K-2l	K-3
親海浜堆積物	Aa2	K-4	
海成礫混じり砂層	Ag		
沖積層 (山地部)	Am		
相良層 (砂岩・泥岩互層)			
新層 /			

断面図作成に用いたボーリング孔  
・破線は断面上にない孔の投影。



地質鉛直断面図 (L+17-Line断面)

断面及び対象ボーリング孔位置図

# 2

## 既提出資料の見直し・修正について

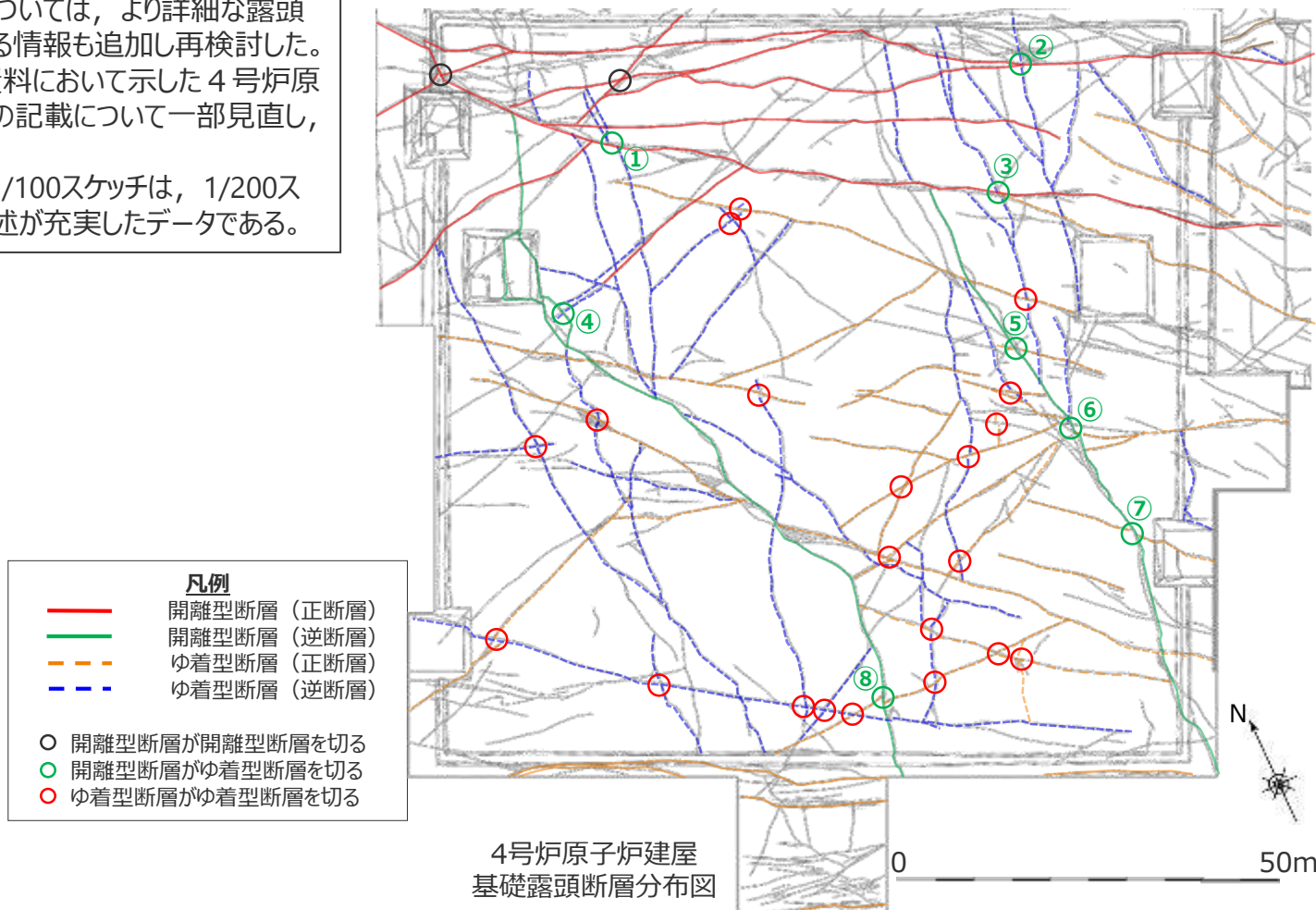
**(1)**

# 4号原子炉建屋断層分布図関連 (第704回審査会合資料)

# 4号炉原子炉建屋基礎露頭断層分布図の見直し・修正について

- 今回のコメント回答にあたり、前回会合までの審査資料内容について、より詳細に検討を行う観点から詳細なデータに基づいて再検討した。
- 4号炉原子炉建屋基礎露頭断層分布図（露頭観察記録（1/200スケッチ）から作成）については、より詳細な露頭観察記録（1/100スケッチ）による情報も追加し再検討した。
- その結果、第704回審査会合資料において示した4号炉原子炉建屋基礎露頭断層分布図の記載について一部見直し、修正を行った。
- なお、露頭観察記録について、1/100スケッチは、1/200スケッチに比べ短い断層に関する記述が充実したデータである。

4号炉原子炉建屋基礎露頭断層分布図  
(第704回審査会合資料より)

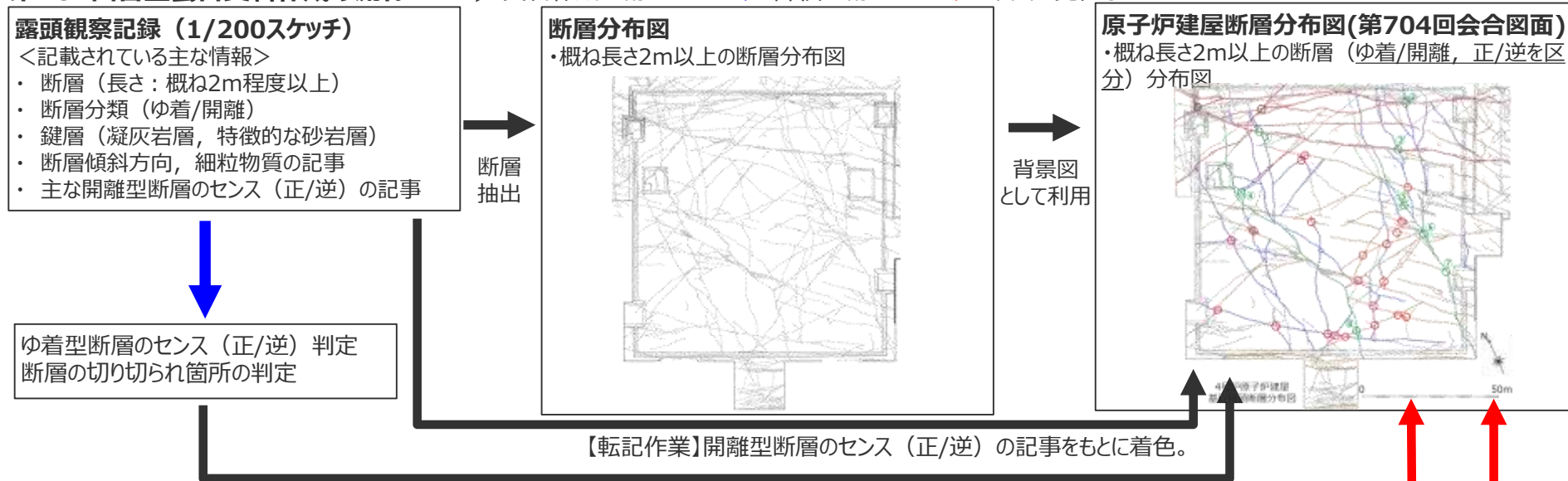


# 該当資料作成の手順と今回追加した検討

- 第704回審査会合資料で提示した4号原子炉建屋基礎露頭断層分布図（以下、第704回会合図面という。）は、露頭観察記録（1/200スケッチ）から作成した断層分布図に、断層分類の情報を同記録から転記し作成した。
- 今回、本編「3.敷地の地質・地質構造」における同露頭での検討（断層の全長及び各断層グループ間の切り切れ関係）を新たに実施するにあたり、より詳細な情報を有する露頭観察記録（1/100スケッチ）を用いて検討したところ、第704回会合図面の一部断層の評価及び分類（正断層/逆断層、開離型断層/ゆ着型断層）が見直しとなった。なお、本編「3.敷地の地質・地質構造」において示す同露頭での検討結果は、これら評価及び分類の見直しを含む1/100スケッチの露頭観察記録を用いて実施したものである。
- また、改めて第704回会合図面の記載内容を確認した結果、一部の断層の表記に資料作成時の転記ミスによる記載誤りが認められた。

## 第704回審査会合資料作成の流れ

→ 資料作成の流れ    → 評価の流れ    → 今回の見直し



## 今回の追加検討

### より詳細な露頭観察記録 (1/100スケッチ)

- <記載されている主な情報>
- 断層（長さ：概ね1m程度以上）
  - 断層分類（ゆ着/開離）
  - 鍵層（凝灰岩層、特徴的な砂岩層）
  - 断層傾斜方向、細粒物質の記事  
(1/200よりも詳細)
  - 主な開離型断層のセンス（正/逆）の記事

ゆ着型断層のセンス（正/逆）判定  
 断層の切り切れ箇所判定  
 詳細は本編「3.敷地の地質・地質構造」参照。



# 4号原子炉建屋基礎露頭断層分布図の見直し・修正箇所概要

より詳細な露頭観察記録（1/100スケッチ）を用いた見直しの概要は以下の通りである。

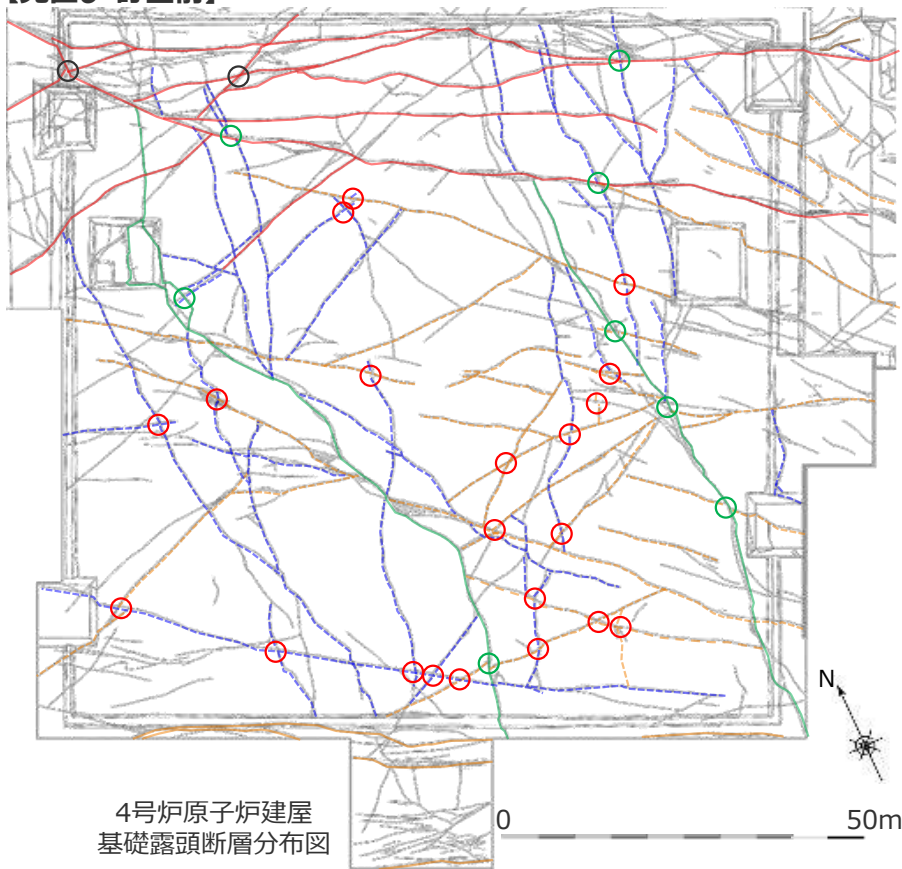
- A<sub>1</sub> : 断層分類（ゆ着型断層/開離型断層）を見直し 3箇所
  - A<sub>2</sub> : 断層センス（正断層/逆断層）を見直し 2箇所
  - B : 断層線形を見直し 2箇所
  - C : 落差の大きい断層に切られる断層ペアの見直し 1箇所
- 次頁より、個別の見直し内容を示す。※

※落差の大きい断層に切られる断層ペアの見直し箇所については、補足説明資料2「6. 落差の大きい正断層に切られる断層についての検討」参照。

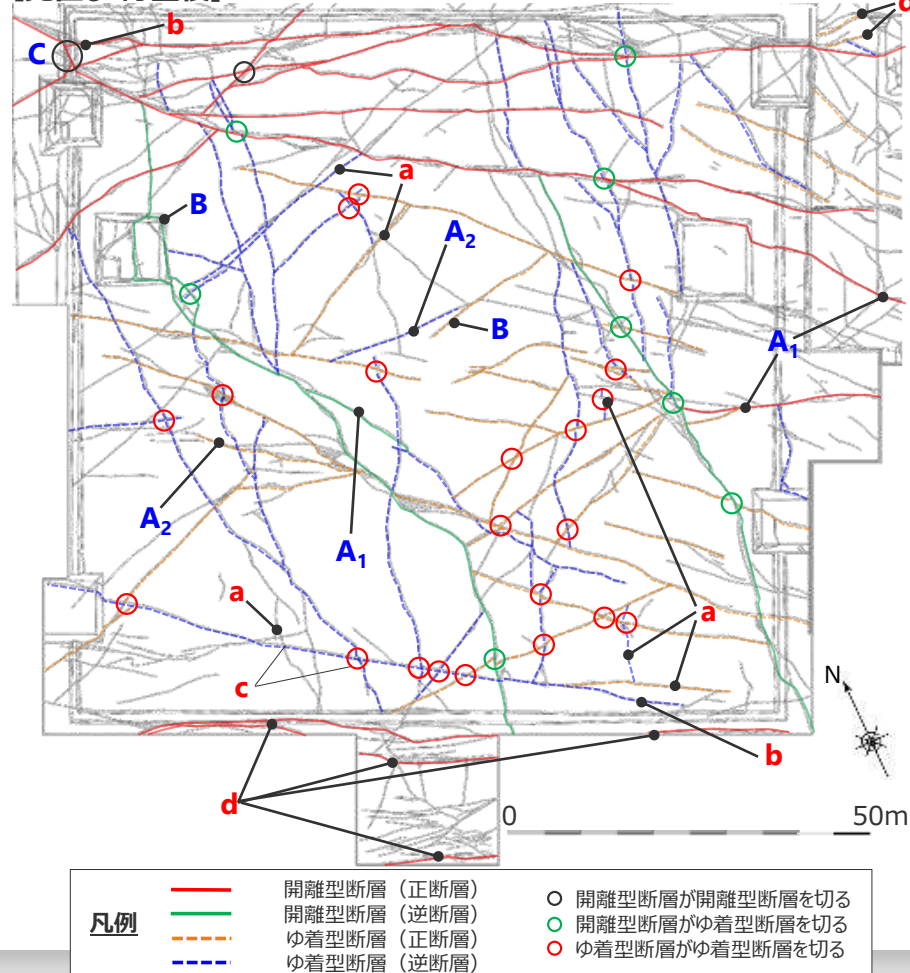
資料作成時の転記ミスによる記載誤りの修正の概要は以下の通りである。

- a : 断層分類，センス（ゆ着型/開離型，正断層/逆断層）の記載誤りを修正 5箇所
- b : 断層線形の記載誤りを修正 2箇所
- c : 切り切れ確認箇所（ゆ着型断層がゆ着型断層を切る）の記載誤りを修正 1箇所
- d : 凡例にない線種を使用して記載していた箇所を適正化 6箇所

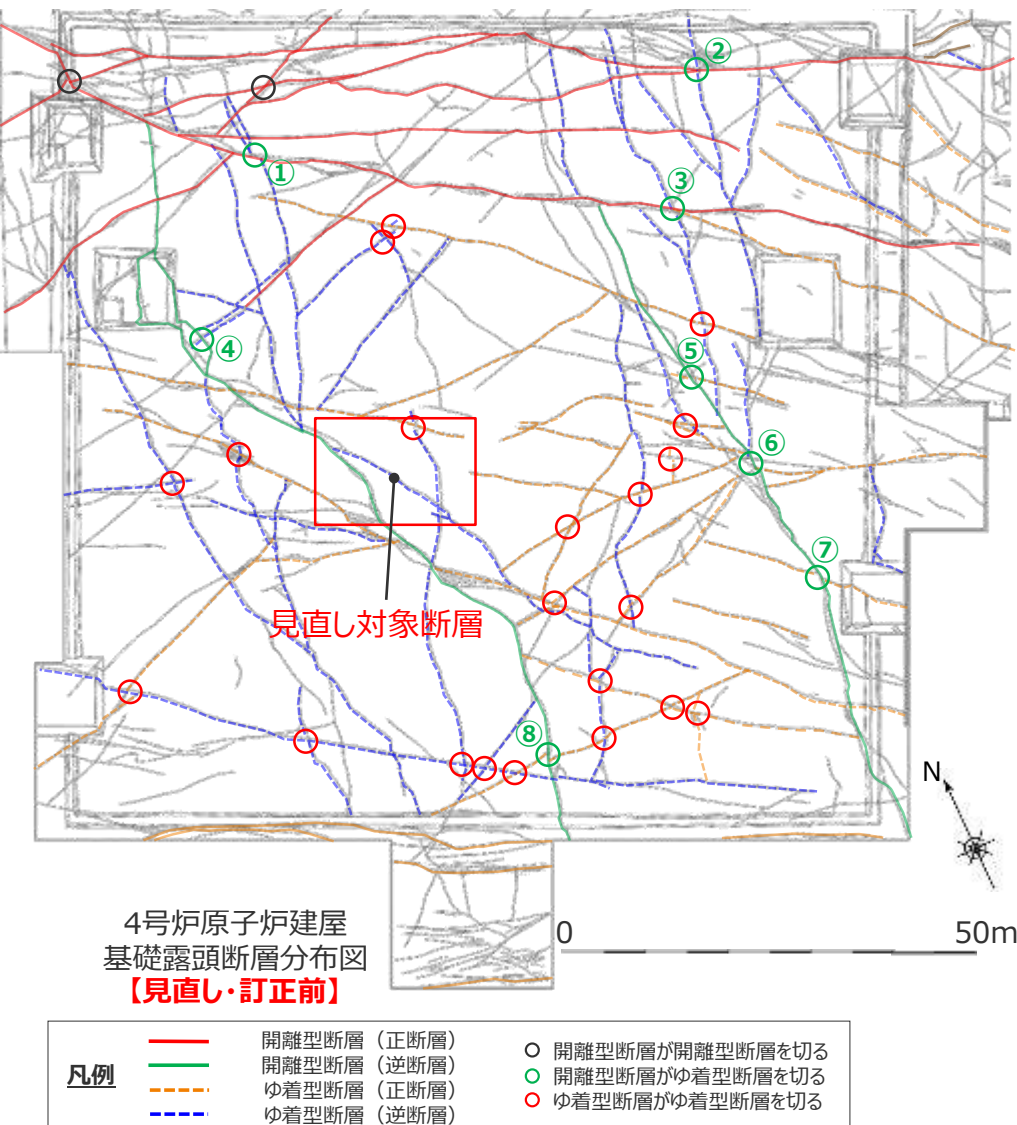
## 【見直し・訂正前】



## 【見直し・訂正後】



# A<sub>1</sub> : 断層分類 (ゆ着型断層/開離型断層) を見直し①



## ゆ着型逆断層 から 開離型逆断層 への見直し

左図赤枠部の地質スケッチの記載



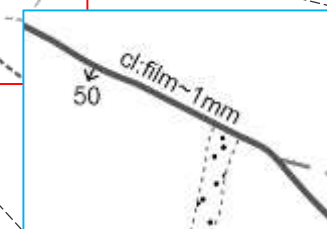
1/200スケッチの記載

開離型断層としての記述がなく、細粒物質についての記事もなかったことから、ゆ着型断層とした。



1/100スケッチの記載

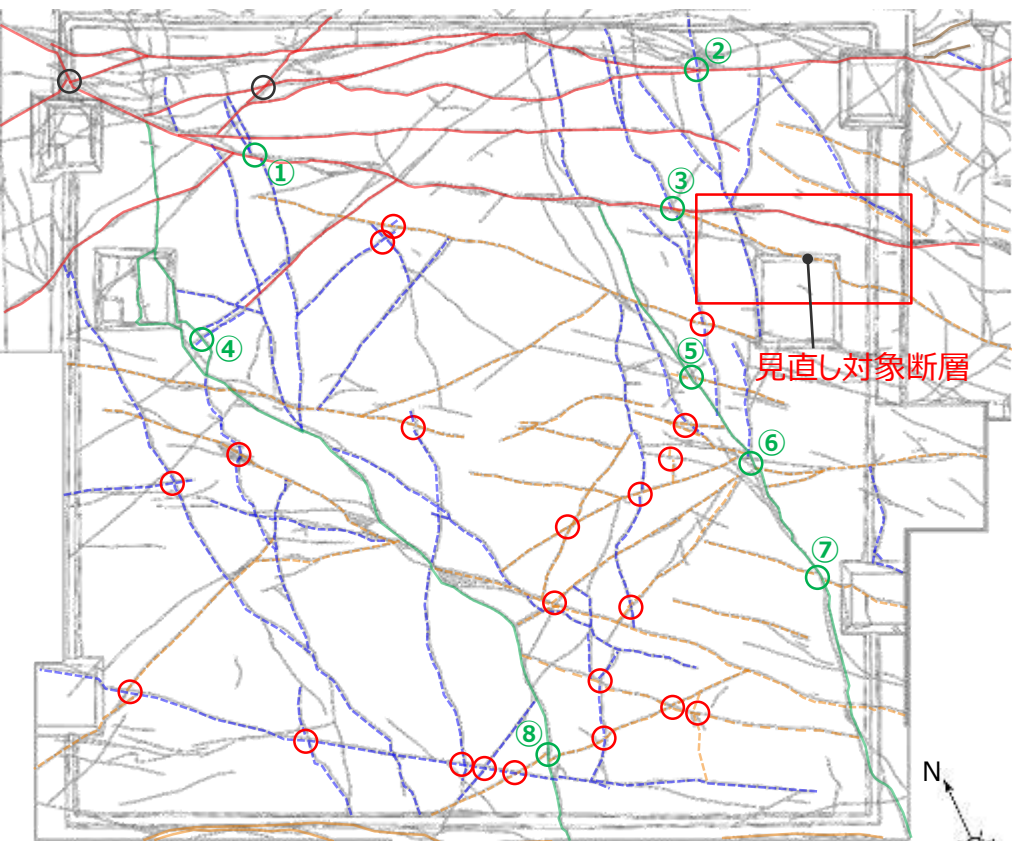
細粒物質 (cl:粘土幅) の記事があったことから、開離型断層とした。



film:フィルム状

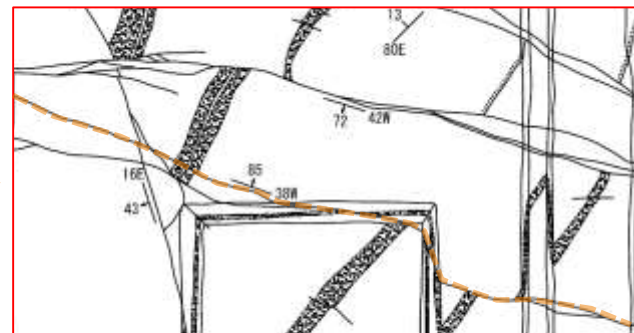


# A<sub>1</sub> : 断層分類 (ゆ着型断層/開離型断層) を見直し②

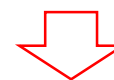


ゆ着型正断層 から 開離型正断層 への見直し

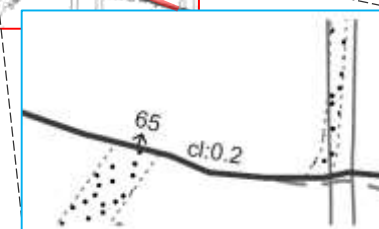
左図赤枠部の地質スケッチの記載



1/200スケッチの記載  
開離型断層としての記述がなく、細粒物質についての記事もなかったことから、ゆ着型断層とした。



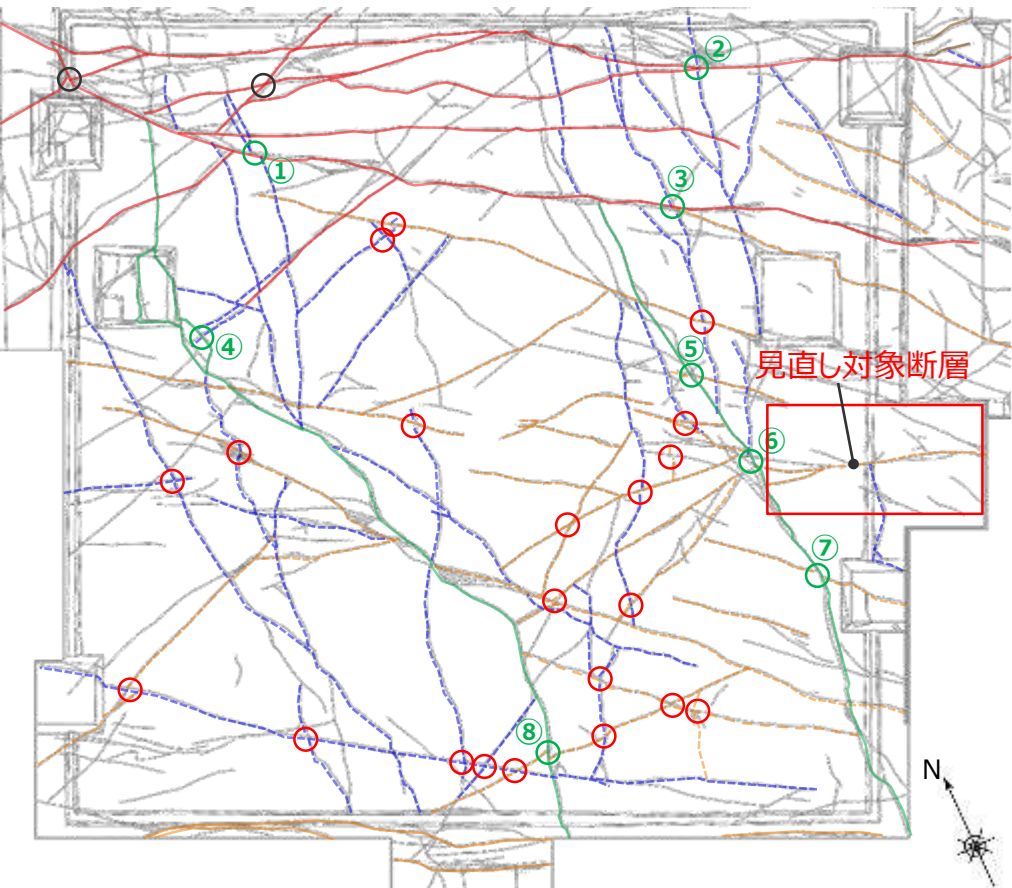
1/100スケッチの記載  
細粒物質 (cl:粘土幅) の記事があったことから、開離型断層とした。



4号炉原子炉建屋  
基礎露頭断層分布図  
【見直し・訂正前】

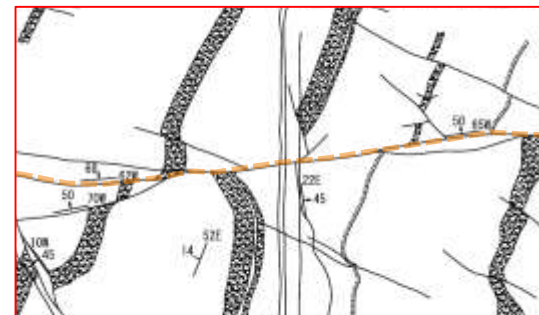
凡例		開離型断層 (正断層)		開離型断層が開離型断層を切る
		開離型断層 (逆断層)		開離型断層がゆ着型断層を切る
		ゆ着型断層 (正断層)		ゆ着型断層がゆ着型断層を切る
		ゆ着型断層 (逆断層)		

# A<sub>1</sub> : 断層分類 (ゆ着型断層/開離型断層) を見直し③



ゆ着型正断層 から 開離型正断層 への見直し

左図赤枠部の地質スケッチの記載



1/200スケッチの記載  
開離型断層としての記述がなく、細粒物質についての記事もなかったことから、ゆ着型断層とした。



1/100スケッチの記載  
細粒物質 (cl:粘土幅) の記事があったことから、開離型断層とした。

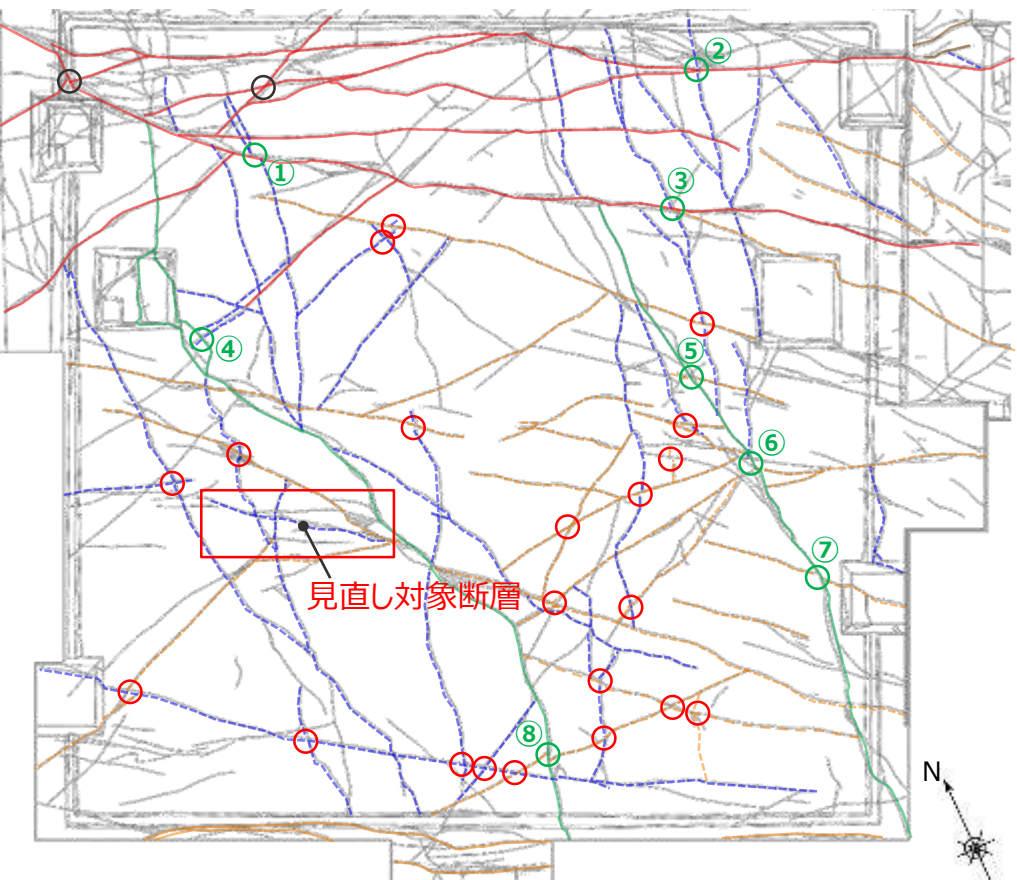


film:フィルム状

4号炉原子炉建屋  
基礎露頭断層分布図  
【見直し・訂正前】

凡例		開離型断層 (正断層)		開離型断層が開離型断層を切る
		開離型断層 (逆断層)		開離型断層がゆ着型断層を切る
		ゆ着型断層 (正断層)		ゆ着型断層がゆ着型断層を切る
		ゆ着型断層 (逆断層)		

# A<sub>2</sub> : 断層センス (正断層/逆断層) を見直し①

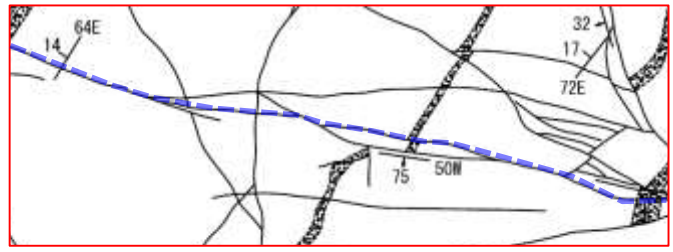


4号炉原子炉建屋  
基礎露頭断層分布図  
【見直し・訂正前】

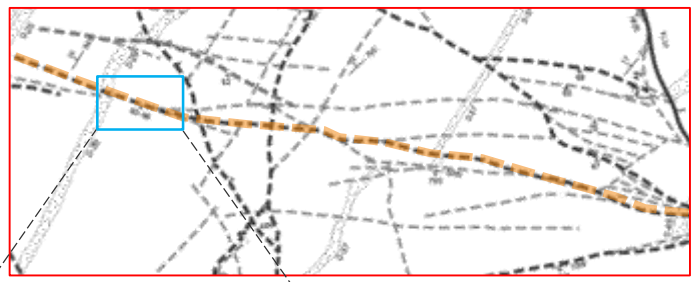
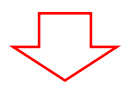
凡例	<span style="color:red">—</span>	開離型断層 (正断層)	○	開離型断層が開離型断層を切る
	<span style="color:green">—</span>	開離型断層 (逆断層)	○	開離型断層がゆ着型断層を切る
	<span style="color:orange">- - -</span>	ゆ着型断層 (正断層)	○	ゆ着型断層がゆ着型断層を切る
	<span style="color:blue">- - -</span>	ゆ着型断層 (逆断層)		

ゆ着型逆断層 から ゆ着型正断層 への見直し

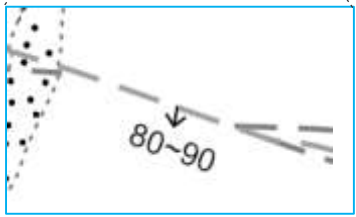
左図赤枠部の地質スケッチの記載



1/200スケッチ  
断層傾斜の記載が無い  
ため、本来センスの  
判定はできないが、  
西側の同走向の断層  
が逆断層であるため、  
逆断層とした。



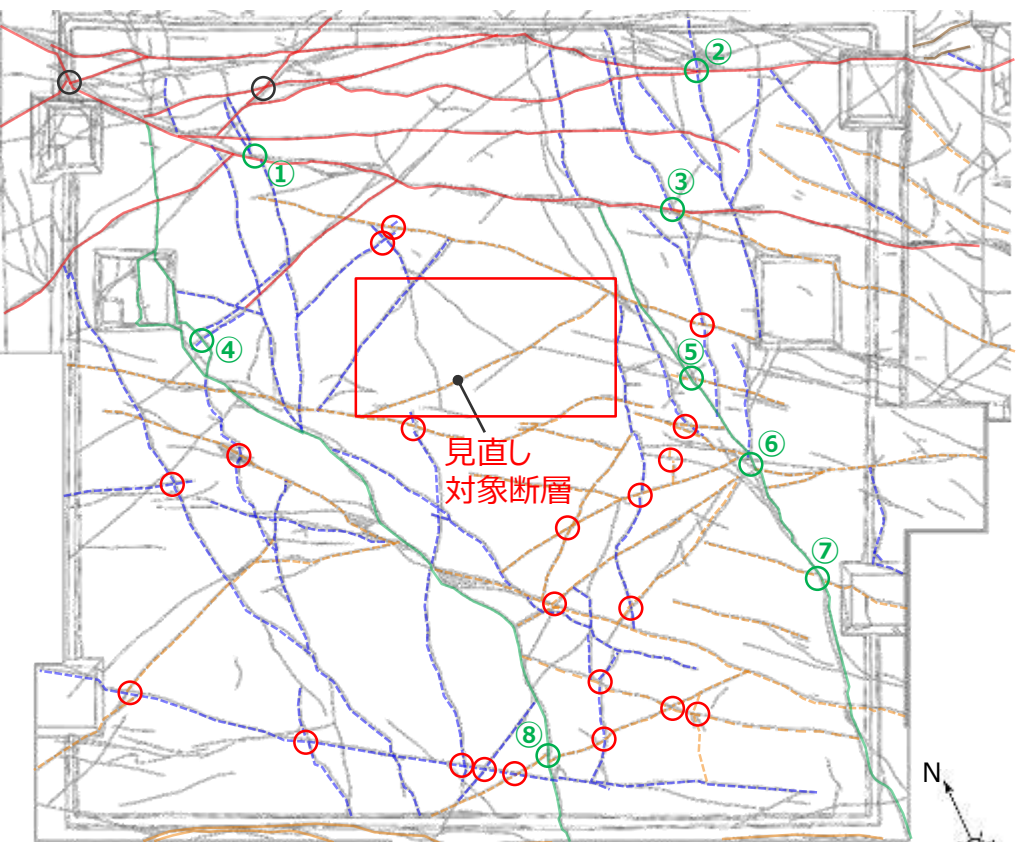
1/100スケッチ  
断層傾斜の記載があり、  
鍵層の変位方向の  
情報と併せ、正断層  
とした。





# A<sub>2</sub> : 断層センス (正断層/逆断層) を見直し②

## B : 断層線形を見直し①



4号炉原子炉建屋  
基礎露頭断層分布図  
【見直し・訂正前】

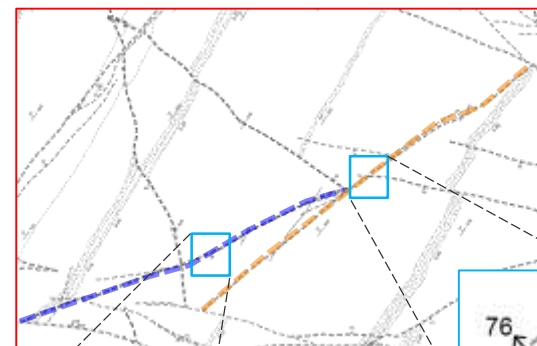
凡例	<span style="color: red;">—</span>	開離型断層 (正断層)	○	開離型断層が開離型断層を切る
	<span style="color: green;">—</span>	開離型断層 (逆断層)	○	開離型断層がゆ着型断層を切る
	<span style="color: orange;">- - -</span>	ゆ着型断層 (正断層)	○	ゆ着型断層がゆ着型断層を切る
	<span style="color: blue;">- - -</span>	ゆ着型断層 (逆断層)		

ゆ着型正断層 から ゆ着型正断層  
ゆ着型逆断層 への見直し

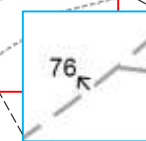
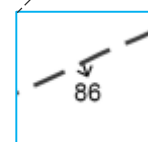
左図赤枠部の地質スケッチの記載



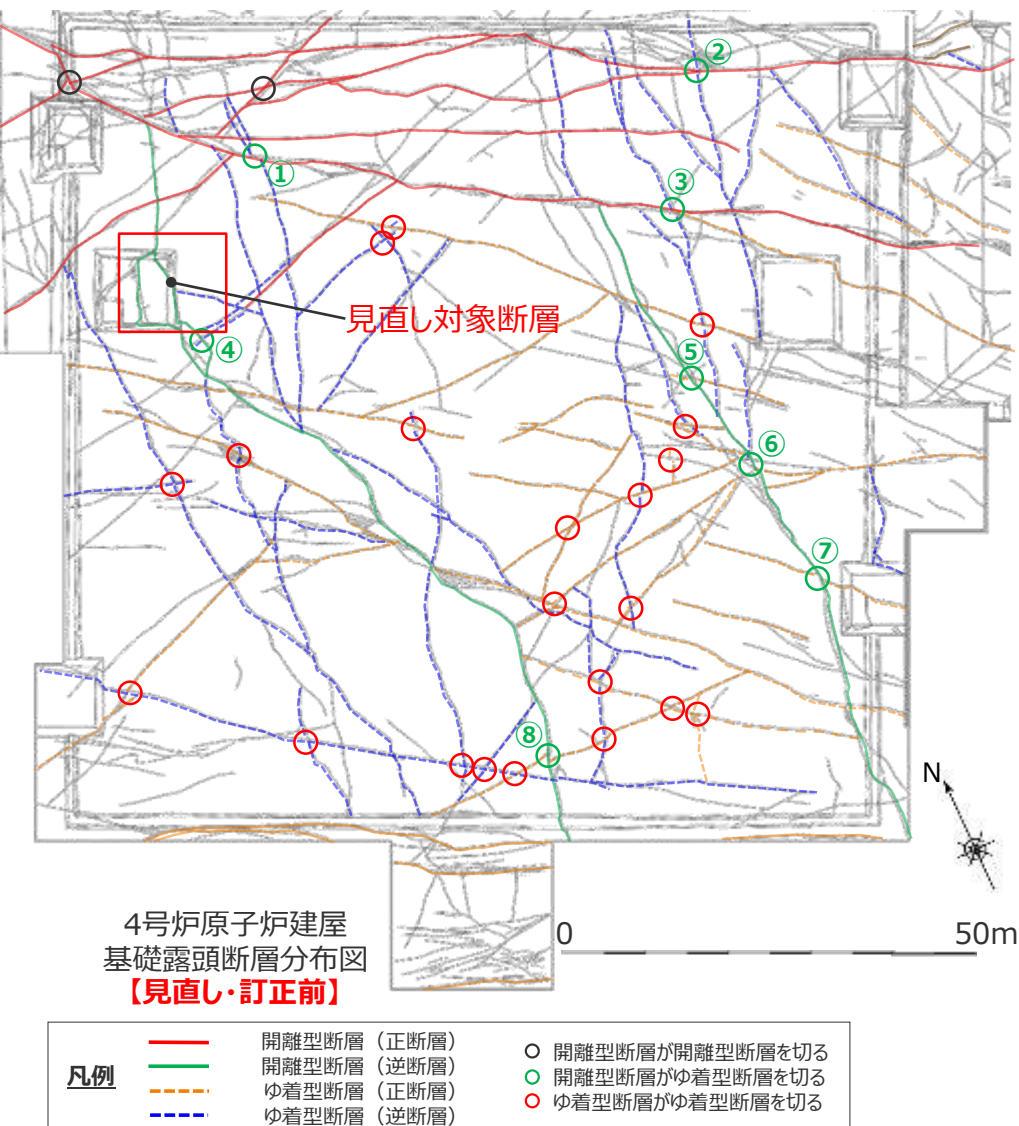
1/200スケッチ  
断層傾斜の記載が  
ないため、本来  
センスの判定は  
できないが、南  
側の同走向の断  
層が正断層であ  
るため、正断層  
とした。



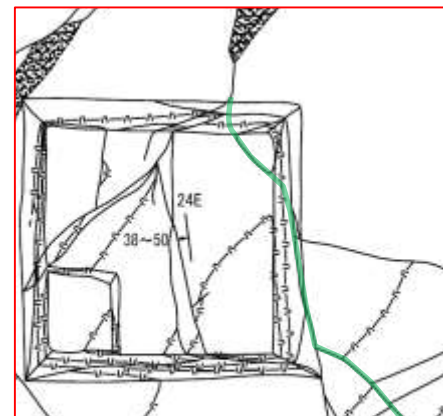
1/100スケッチ  
断層傾斜の記載  
があり、鍵層の  
変位方向から正  
断層と逆断層と  
した。



## B : 断層線形を見直し②



左図赤枠部の地質スケッチの記載



1/200スケッチ



1/100スケッチ

# 【修正が必要な頁：修正前】

## ゆ着型断層と開離型断層の関係（4号炉原子炉建屋基礎露頭）

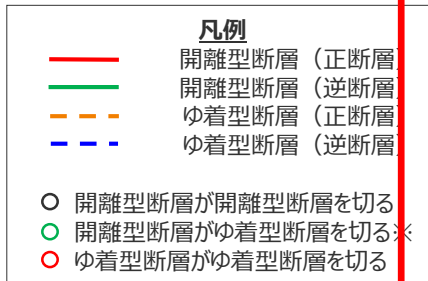
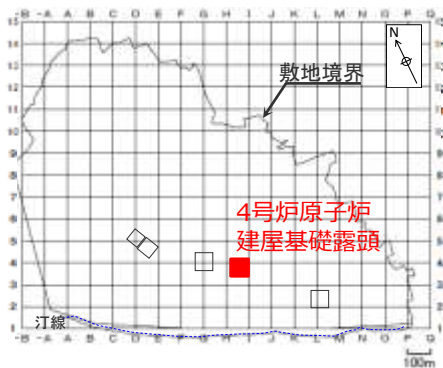
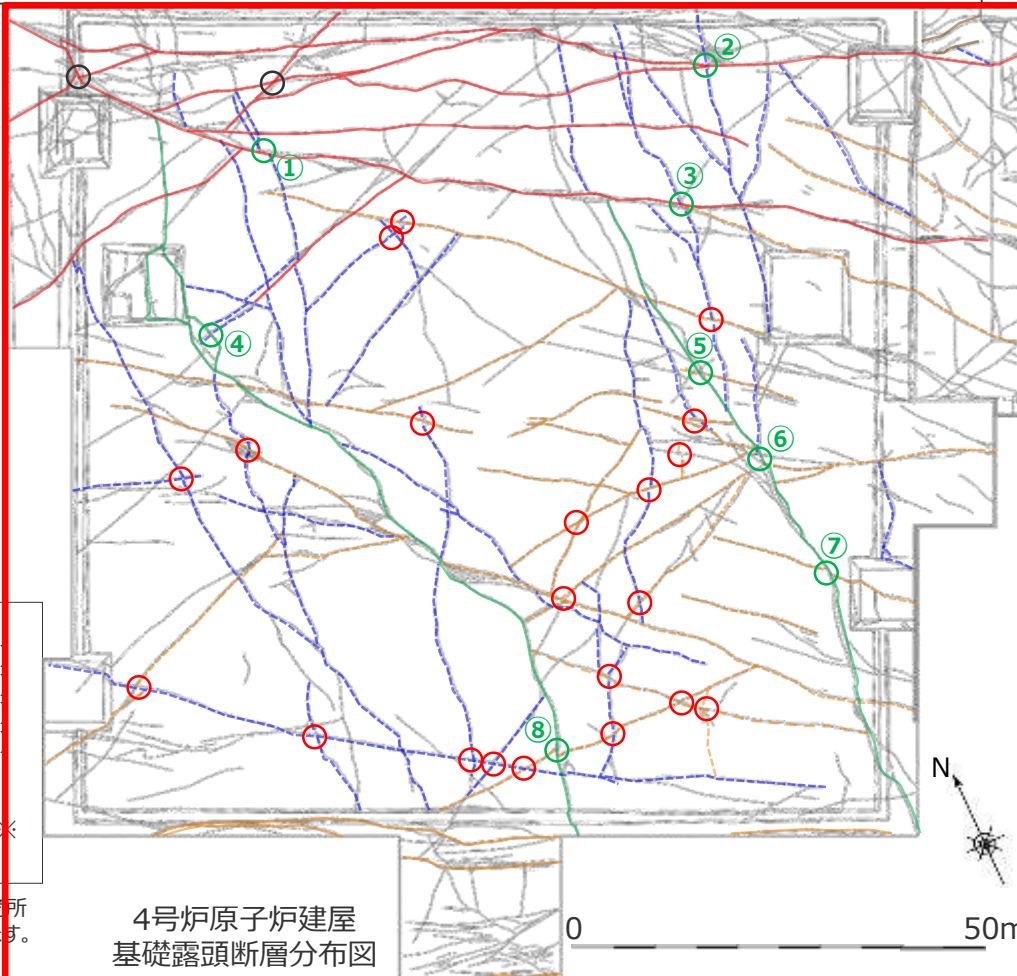
- ゆ着型断層と開離型断層の形成時期について、ゆ着型の断層が生じ、その後開離型の断層ができた可能性があるとの知見（例えば、小断層解析グループ(1973)）を踏まえ、4号炉原子炉建屋基礎露頭において、ゆ着型断層と開離断層との関係をセンスによらず確認する。
  - ゆ着型断層は、開離型断層に一方的に切られる。なお、敷地内の他地点の調査においても、同様の結果を確認している。
  - 開離型断層は、ゆ着型断層に比べ連続性が良く、構造物（建屋）幅（80m程度）を越えて連続するものもある。
- ➡ 開離型断層同士の関係については、検討対象範囲を拡大して検討する。

ゆ着型断層と開離型断層の関係

修正が必要な図  
(修正前)

		B 切られる断層	
		開離型断層	ゆ着型断層
A 切る断層	開離型断層	2	8
	ゆ着型断層	0	21

4号原子炉建屋基礎において、断層間の切り切れ関係（Aの断層がBの断層を切る）が明瞭に確認できる箇所（右図○）の数を表わす。



※開離型断層がゆ着型断層を切る箇所（図中①～⑧）の詳細を次頁に示す。



# 【修正が必要な頁：修正後】

## ゆ着型断層と開離型断層の関係（4号炉原子炉建屋基礎露頭）

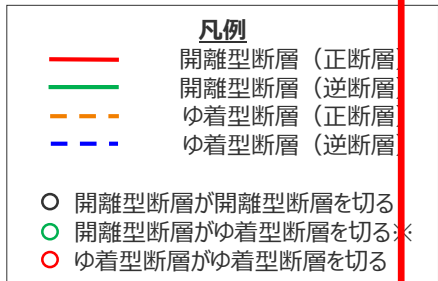
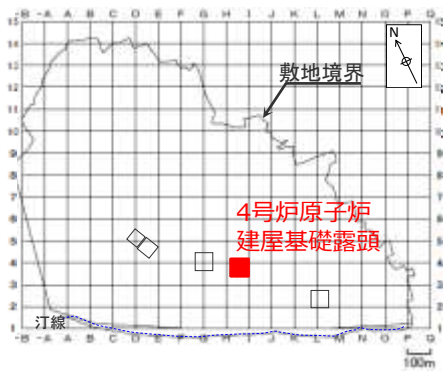
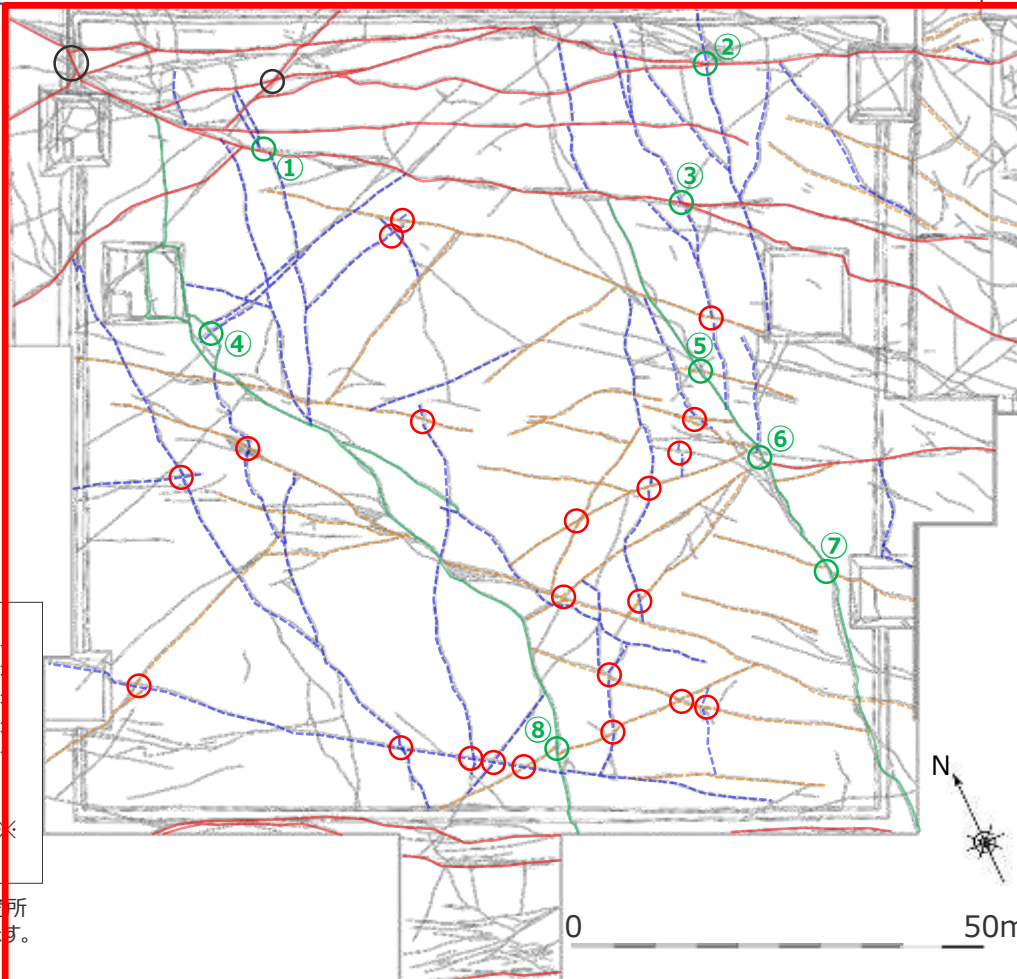
- ゆ着型断層と開離型断層の形成時期について、ゆ着型の断層が生じ、その後開離型の断層ができた可能性があるとの知見（例えば、小断層解析グループ(1973)）を踏まえ、4号炉原子炉建屋基礎露頭において、ゆ着型断層と開離断層との関係をセンスによらず確認する。
  - ゆ着型断層は、開離型断層に一方的に切られる。なお、敷地内の他地点の調査においても、同様の結果を確認している。
  - 開離型断層は、ゆ着型断層に比べ連続性が良く、構造物（建屋）幅（80m程度）を越えて連続するものもある。
- ➔ 開離型断層同士の関係については、検討対象範囲を拡大して検討する。

ゆ着型断層と開離型断層の関係

修正が必要な図  
(修正後)

		B 切られる断層	
		開離型断層	ゆ着型断層
A 切る断層	開離型断層	2	8
	ゆ着型断層	0	21

4号原子炉建屋基礎において、断層間の切り切れ関係（Aの断層がBの断層を切る）が明瞭に確認できる箇所（右図○）の数を表わす。



※開離型断層がゆ着型断層を切る箇所（図中①～⑧）の詳細を次頁に示す。

**(2)**

# 地質柱状図関連 (2019年2月20日ヒアリング資料)



# 地質柱状図における誤記について

- 今回のコメント回答にあたり、前回会合までの審査資料について、あらためてデータに基づいて再確認した結果、2019年2月20日ヒアリング資料データ集（別冊）その2「ボーリング調査関連資料（柱状図集）」として提出した資料の一部に誤記が確認された。
- 今後、このような、転記ミスや資料の取り違え等がないよう、資料作成時のチェックをより入念に行う。

誤記の箇所	誤	正	備考	原因
3611孔	孔口標高 16.91m	孔口標高 16.81m	柱状図上部の箱書きの記載のみ	転記ミス
W26孔	孔口標高 10.55m	孔口標高 10.57m	柱状図上部の箱書きの記載及び 柱状図中の標高の数値がすべてずれる。 (深度は正しい。)	調査終了後の孔口標高再測量による 修正前の柱状図を資料化したため。